DV 動画編集ソフト

MotionDV STUDIO

取 扱 説 明 書

このたびは DV 動画編集ソフト MotionDV STUDIO をお使いいただき、まことにありがとうございます。

ナショナル／パナソニック お客様ご相談センター

TEL フリーダイヤル 0120-878-365

FAX フリーダイヤル 0120-878-236

■ 携帯電話、PHS でのご利用は・・・06-6907-1187

365 日／受付 9:00 ～ 20:00

URL http://panasonic.jp/support

CONTENTS

ご使用の前に

入力モード

編集モード

CONTENTS

加工モード

出力モード

ヘルプモード

設定モード

メニュー一覧

Q & A

用語解説

索引

お願いとヒント

その他

ご使用の前に

- MotionDV STUDIO をお楽しみいただくには DV（IEEE1394）端子付きのデジタルビデオ機器（別売）と DV テープ（別売）、DV ケーブル（別売）などが必要です。詳しくは MotionDV STUDIO のホームページでご確認ください。
- D-VHS ビデオ（別売）、DVD ビデオレコーダー（別売）をご用意されると、それらに映像や音声を出力することができます。
- パソコン上の映像画面には接続機器側の日付などの情報は表示されません。
- このソフトウェアに収録されているサンプル画像等は、個人で楽しむ目的のみに使用できます。営利目的に使用する場合には、権利者の許諾が必要です。
- MBM 音に関して、次の利用条件をお守りください。
  音楽データそのものを分離もしくは複製して、またはそれら音楽データを利用して作成された音楽を映像・画像（インターネットのホームページを含む）と分離して独立の取引対象として、頒布（販売、賃貸、無償頒布、貸与など）したり、公衆送信（インターネットのホームページや放送などを利用した送信）などを利用して頒布することはできません。
  公序良俗に反する目的での使用や、名誉毀損、その他法律に反する使用はできません。
- ソフトウェアのバージョンアップやパソコンの使用環境などにより本説明書の説明内容､画面と実際の内容､画面が一致しないことがあります。あらかじめご了承ください。
- MotionDV STUDIO を使用する前に、他のアプリケーションソフトやウィルスチェックなどの常駐プログラムを終了してください。
- MotionDV STUDIO を使用する前に、スクリーンセーバーや省電力設定プログラムは切っておいてください。
- DV ケーブルはパソコンの端子の形状に合わせてお選びください。
- MotionDV STUDIO を使った作例の動画ファイルが付属しています。
  MotionDV STUDIO インストール後に、スタートメニューから［すべてのプログラム］>> ［Panasonic］>> ［MotionDV STUDIO 4.7 for ・・・］ >> ［デモンストレーション］を選んでください。
- 本説明書では一部、MotionDV STUDIO Version 4.7J のことを MotionDV STUDIO 、D-VHS ビデオカセットレコーダーのことを D-VHS ビデオ と省略して記載しています。
- パソコンの基本的な操作、用語については説明しておりません。パソコンの説明書などをお読みください。

動作環境

MotionDV STUDIO をインストールして利用するにはパソコンに以下の環境が必要です。

- インストールには CD-ROM が読めるドライブが必要です。
- 作成した動画（AVI、ASF ファイルなど）を再生するには、Windows Media Player などの動画プレーヤーが必要です。
- CD-R/RW にビデオ CD 形式などでデータを記録するには、CD-R/RW ドライブと書込みソフトウェアが必要です。
- 下記の動作環境を満たしていても、一部ご使用になれないパソコンがあります。

対象 **OS:**	プリインストールされた下記の OS Microsoft Windows XP Home Edition Microsoft Windows XP Professional 各日本語版
CPU:	Intel Pentium III 700 MHz 以上 AMD Athlon 1 GHz 以上
ハードディスク **:**	Ultra DMA - 33 以上 130 MB 以上の空き容量が必要（コンパクトインストール） 420 MB 以上の空き容量が必要（標準インストール） 映像の取り込みに必要なハードディスク容量の目安 DV:　約 4 分のデータで 1GB MPEG2:　約 15 分のデータで 1GB（高画質） 　約 50 分のデータで 1GB（高圧縮）
搭載メモリ **:**	256 MB 以上 （メモリ増設でより快適な操作ができます）
ビデオ **:**	4 MB 以上のビデオメモリ 1024 ×768 以上／ High Color（16 bit）以上（DirectDraw のオーバーレイに対応）
サウンド **:**	PCM 音源（DirectSound 対応）
インターフェース **:**	DV（IEEE1394）端子（IEEE1394.a）
その他 **:**	CD-ROM ドライブ Microsoft DirectX 8.1 以降 Microsoft Windows Media Player 6.4 以降

用意するもの

DV（IEEE1394）端子付きのデジタルビデオ機器（別売）

- 対象デジタルビデオ機器については、パナソニックのホームページでご確認ください。

DV テープなど（別売）

DV ケーブル（別売）

- パソコンの端子の形状に合わせてお選びください。

特長

MotionDV STUDIO はパソコンとデジタルビデオ機器をつないで映像を編集するソフトです。
編集したい映像の特性にあわせて以下の 3 種類の編集方法で編集することができます。

ノンリニア編集

ノンリニア編集とはデジタルビデオ機器の映像をパソコンのデータとしてパソコンのハードディスクに取り込み、編集する方法です。
パソコン上のデジタル編集ですので、画質劣化の少ない映像作品を作成することができます。また、パソコン上で取り込んだ映像に様々な特殊効果を入れることができます。

■ ビデオエフェクト

取り込んだ映像にデジタル効果を入れます。

■ トランジションエフェクト

取り込んだ映像のつなぎ目にデジタル効果を入れて場面の切り換えを演出します。

■ オーディオミックス

取り込んだ映像に音声を追加します。

■ タイトル作成（タイトルエディターモード使用）

タイトルエディターモードを使って、文字やイラストのタイトルを入れます。

■ 3D アレンジ

三次元のアニメーションを使って映像を演出します。

リニア編集（テープ編集）

リニア編集とは 2 台のデジタルビデオ機器を使って、映像をダビングしながらつないでいく方法です。
複数のシーンを好みの順番に設定すると、パソコンから 2 台のデジタルビデオ機器をコントロールし、自動的に編集できます。
ハードディスク容量を気にせず編集できるので長時間の映像を編集するときに便利です。

- テープ編集をするにはパソコンに DV（IEEE1394）端子が 2 つ必要です。

ハイブリッド編集

ハイブリッド編集とはノンリニア編集とリニア編集を組み合わせた編集方法です。
長時間の映像にはリニア編集、シーンが変わるところやタイトルを入れるシーンではノンリニア編集と使い分けると便利です。

便利な機能

■ かんたんモード

映像の取り込みから書き出しまで、基本的な機能を取り出したモードで、難しい作業を考えることなく、初心者の方でも簡単に MotionDV STUDIO を使用することができます。(P24)

■ デスクトップに［**TOOL BOX**］を配置

［TOOL BOX］をデスクトップ上に配置しています。その中には作業手順にそって［入力］、［編集］、［加工］、［出力］・・と機能を呼び出すことができるアイコンが並んでいます。(P26)

■ 静止画クリップ取り込み（スナップショット）

デジタルビデオ機器や編集トラックのクリップなどから静止画クリップを取り込むことができます。(P49)

■ **DV** テープの一覧（インデックス）の作成

DV テープの内容が一目でわかるインデックスを作ることができます。（インデックスはテープ情報ファイルとしてパソコンに保存できます）(P44)

■ テープラベルやタイムシートの印刷

取り込んだ映像の入ったテープラベルやタイムシートをプリンターを使ってプリントできます。(P105)

■ ビデオメールモードを使った動画メール送信

デジタルビデオ機器から取り込んだ映像を電子メールで送れます。(P189)

■ **D-VHS** ビデオへの出力

D-VHS ビデオと接続し、編集した映像を D-VHS テープに記録することができます。（D-VHS ビデオの映像を取り込んだり、編集を行うことはできません）(P182)

■ **DVD** ビデオレコーダーへの出力

DVD ビデオレコーダーと接続し、編集した映像を DVD-R ディスク、DVD-RAM ディスクに記録することができます。（DVD-ROM、DVD-R ディスク、DVD-RAM ディスクの映像を取り込んだり、編集を行うことはできません）(P175)

■ 対応書込みアプリケーションとの連携

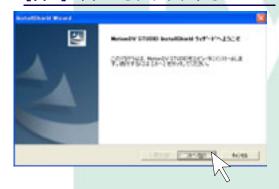
本アプリケーションに対応した DVD-R/RW もしくはDVD-RAM書込みアプリケーションがインストールされていると、それらのソフトへデータを出力することができます。(P195)、(P202)

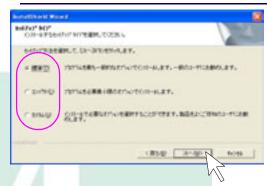
MotionDV STUDIO のインストールとアンインストール

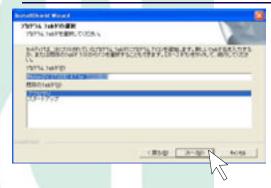
インストール

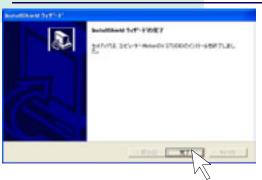
• インストール前に DV ケーブルを抜いておいてください。
• Windows 上で起動しているソフト（ウィルス検出ソフトなどの常駐ソフトを含む）は終了しておいてください。

1. CD-ROM をパソコンに入れる

自動的にセットアッププログラムが起動します。
• 自動的に起動しない場合は、［スタート］>>［マイコンピュータ］を選び、［MOTIONDV_STUDIO］をダブルクリックしてください。（［MOTIONDV_STUDIO］を開いて、［Setup］フォルダーにある［setup（setup.exe）］（ ）をダブルクリックしても起動します）

2. ［次へ］ボタンをクリックする

3. セットアップ方法を選択して［次へ］ボタンをクリックする

• ［カスタム］を選ぶとサンプルファイルなど、インストール内容を設定できます。

4. ［次へ］ボタンをクリックする

インストールが始まります。

5. セットアップ終了のメッセージが表示されたら［完了］をクリックする

6. [完了] ボタンをクリックする

インストールが完了しました。
これで MotionDV STUDIO を使用できます。

メモ

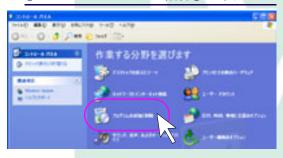
- MotionDV STUDIO の前バージョン（体験版、期間限定版などを含む）をインストールしている場合は、それらをアンインストール (P15) してから本製品をインストールしてください。

アンインストール

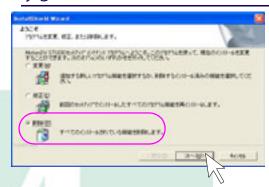
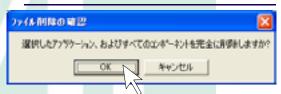
MotionDV STUDIO が不要になったときは、アンインストールを行ってください。

1. [スタート] >> [コントロールパネル] を選ぶ

コントロールパネルの内容が表示されます。

2. [プログラムの追加と削除] を開く

3. [Motion DV STUDIO] を選んで [変更と削除] をクリックする

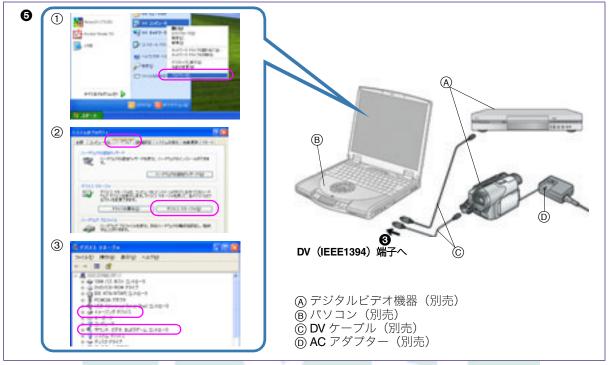
アンインストールが始まります。

4. 次の画面が表示された場合、削除オプションを選択して [次へ] をクリックする

5. [OK] ボタンをクリックする

6. [完了] ボタンをクリックする

メモ

- 作成したファイル（ビデオクリップなど）は削除されません。

接続

下図のように、パソコンとデジタルビデオ機器を接続します。

❶ パソコンを起動する

❷ デジタルビデオ機器の電源を入れ、使用するモード（再生モードなど）にする

❸ パソコンとデジタルビデオ機器を **DV** ケーブルで接続する

- 接続時にパソコン側で認識するのに時間がかかる場合があります。

❹ 自動再生機能を設定する (P19)

- DVD ビデオレコーダーの場合は設定する必要はありません。

❺ 正常に接続できているか確認する

- 必ず確認してください。正常に接続できていないと、誤動作する場合があります。

①スタートメニューから［マイ コンピュータ］を右クリックして［プロパティ］を選ぶ
［システムのプロパティ］が開きます。

②［ハードウェア］タブをクリックして選び、［デバイスマネージャ］をクリックする

③ご使用の機器の種類アイコンをダブルクリックし、ご使用の機器名が表示されているか確認する

デジタルビデオカメラの場合
アイコン：［イメージングデバイス］
表示例：［Panasonic DV テープ録音 / 再生］
（当社製デジタルビデオカメラの場合）

D-VHS ビデオの場合
アイコン：［サウンド、ビデオ、およびゲームコントローラ］
表示例：［Panasonic Bulletin Board AV/C Device（NV-DHE10）］、［Panasonic D-VHS AV/C Device（NV-DHE10）］、［Panasonic Tuner AV/C Device（NV-DHE10）］
（当社製 D-VHS ビデオ /NV-DHE10 の場合）

DVD ビデオレコーダーの場合
アイコン：［サウンド、ビデオ、およびゲームコントローラ］
表示例：［Panasonic DVD Video Recorder(DMR-HS2) DV Section］
（当社製 DVD ビデオレコーダー /DMR-HS2 の場合）

- 表示名は接続機種により異なります。

❻ デジタルビデオ機器を **2** 台接続するときは ❷、❸ と同じように接続し、❺ と同じように接続を確認する

❼ **MotionDV STUDIO** を起動する (P20)

メモ

- 接続する機器によって接続手順などが多少異なります。次の「接続時のお願いとヒント」もお読みください。

機器接続時のお願いとヒント

- 接続中はデジタルビデオ機器の電源を切らないでください。
- 接続中は電源が入っている状態でカセットの出し入れをしてください。
- MotionDV STUDIO の使用時にデジタルビデオ機器を直接操作すると、パソコン本体およびデジタルビデオ機器が誤動作することがあります。
- 撮影モードで起動するときは (P48)、デジタルビデオカメラからカセットを抜いておいてください。
- 最初の接続時にバージョン競合のメッセージが出ることがあります。必ず［はい］をクリックしてください。（メッセージが表示されるまで時間がかかる場合があります）
- 2 台の機器を接続するときは、必ず 1 台ずつ手順を守って接続してください。2 台を同時に接続すると、正常に接続できません。
- 2 台接続している場合に接続を外すときは、1 台目を外したあと、接続が外れたことを確認してからもう 1 台を外してください。
- デジタルビデオカメラ使用時は AC アダプターをお使いください。
- 正常に接続できない場合は、「Q&A」の「接続ができない」(P229) をお読みください。
- 接続後、パソコンの DMA 設定を行ってください。DMA 設定方法については、「Q&A」(P232) をお読みください。

■ 入力切換が付いているデジタルビデオ機器を接続するときは

入力切換が付いている機種（NV-DV10000 、NV-DM1 など）を接続する場合は、MotionDV STUDIO を起動する前にデジタルビデオ機器側で次の設定をしておいてください。

- DV（IEEE1394）端子が 2 つ以上ある機種は使用している DV 端子に切り換える
- 編集モードを［外部］にする
- ［編集端子切換］を［DV］にする
- ［入力切換］を［DV 入力］にする

■ D-VHS ビデオを接続するときは

- 対応 D-VHS ビデオ：
  当社製 D-VHS ビデオ /NV-DH1、NV-DHE10、NV-DH2、NV-DHE20
- パソコンを終了し、D-VHS ビデオの電源を入れてから接続してください。

■ DVD ビデオレコーダーを接続するときは

- 対応 DVD ビデオレコーダー：
  当社製 DVD ビデオレコーダー/DMR-HS1、DMR-HS2、DMR-E60、DMR-E90H（2003 年 6 月現在）
- DVD ビデオレコーダーへの出力機能は、対応した DVD ビデオレコーダードライバーが必要です。最新の DVD ビデオレコーダードライバー情報については、ホームページをご参照ください。

  http://panasonic.jp/support/video/download/index.html

- 使用できるディスク：DVD-RAM、DVD-R
- パソコンを終了し、DVD ビデオレコーダーの電源を入れてから接続してください。
- DVD ビデオレコーダーのチャンネルを DV に、ドライブは DVD に設定してください。ドライブを HDD に設定していると録画できません。設定方法については DVD ビデオレコーダーの取扱説明書をお読みください。
- 初めて DVD ビデオレコーダーを接続したときには、［新しいハードウェアの検索ウィザードの開始］が表示されます。
  次の操作をしてください。（DVD ビデオレコーダーのためのドライバーをインストールします）

1. ［ソフトウェアを自動的にインストールする］にチェックが入っていることを確認し、［次へ］をクリックする

ソフトウェアのインストールが始まります。

- インストール時に以下のようなメッセージが表示されることがあります。インストールには問題ありませんので［続行］をクリックしてください。

- ドライバーの CD-ROM が必要な場合は、パソコンに入れて画面の指示に従ってください。
- 「ファイルが見つかりません。」などのメッセージが表示された場合は、[drivers] フォルダー（C:￥Windows￥system32￥drivers）を指定してインストールを行ってください。（パソコンの環境によって、フォルダーの場所は異なります）

2 インストール終了のメッセージが表示されたら［完了］をクリックする

- DVD ビデオレコーダーを 2 台以上接続している場合、MotionDV STUDIO で認識するのは 1 台のみです。

自動再生機能の設定

Windows XP には、接続された機器に関連したアプリケーションをリストアップ、もしくは起動する自動再生機能があります。デジタルビデオ機器を接続すると表示されるダイアログで、MotionDV STUDIO を選択すると、MotionDV STUDIO を自動起動することができます。

1. ［ビデオの編集 **Panasonic MotionDV STUDIO** 使用］をクリックして選択する

- 接続しているデバイスを接続するたびに自動で MotionDV STUDIO を起動させたい場合は、［常に選択した動作を実行する］にチェックをしてください。
  ただし、すでに MotionDV STUDIO が起動中のときに接続を検知すると［同時起動できない当社製アプリケーションが起動しているので、起動できません。］というメッセージを出し、2 つ目の MotionDV STUDIO は終了します。（起動中のものはそのままです）

2. ［OK］をクリックする

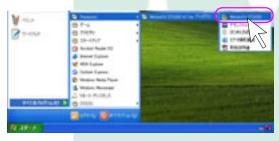
■ 設定を変更するときは

- タスクトレイに表示されているカメラアイコンをクリックすると設定ダイアログが表示されますので、設定を変更してください。
- カメラアイコンは機器の接続検知時に、数十秒間だけ表示されます。
- ムービーメーカーを「常に実行」で設定した場合もここで再度選択することができます。

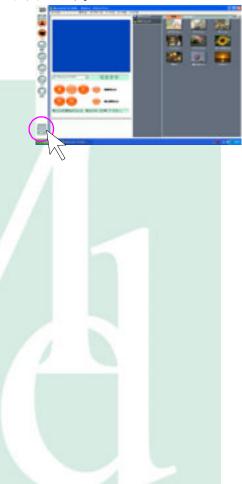
MotionDV STUDIO を起動する

- MotionDV STUDIO を起動する前に、デジタルビデオ機器とパソコンを接続 (P16) しておいてください。
- 起動前に機器が DV ケーブルでしっかり接続されているか確認してください。
- MotionDV STUDIO を使用する前に、他のアプリケーションソフトやウィルスチェックなどの常駐プログラムを終了し、スクリーンセーバーや省電力設定プログラムは切っておいてください。
- まず、［スタート］>> ［すべてのプログラム］>> ［Panasonic］>> ［MotionDV STUDIO4.7 for・・・］ >> ［はじめにお読みください］を選択し、補足説明や最新情報を必ずお読みください。

インストールされた取扱説明書を読むためには Adobe Acrobat Reader 5.0 が必要です。
また、MotonDV STUDIO の取扱説明書をご覧の際には、必ず Adobe Acrobat Reader の使用許諾を行ったうえでご覧ください。

1. ［スタート］>> ［すべてのプログラム］>> ［Panasonic］ >> ［MotionDV STUDIO 4.7 for ・・・］>> ［MotionDV STUDIO］を選ぶ

MotionDV STUDIO が起動します。
- 最初の起動時に使用許諾書が表示されますので、よくお読みのうえ、［同意します］をクリックしてください。

■ MotionDV STUDIO を終了するときは

［MOTION DV STUDIO 終了］ボタン［ ］をクリックします。

キャリブレーション

ご使用のデジタルビデオ機器で録画するときの、タイミングの調整（キャリブレーション）を行います。（キャリブレーションについて詳しくは「用語解説」の項 **(P244)** をお読みください）

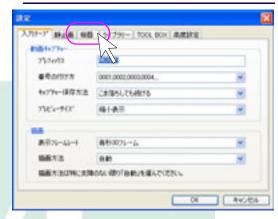
- キャリブレーションをする前に DV キャプチャーモード **(P31)**、DV 機器入力モード **(P37)**、ノンリニア編集モード **(P62)** またはハイブリッド編集モード **(P92)** にしておいてください。

1. デジタルビデオ機器が再生モードになっているか確認し、内容を消去してもいいテープを入れる

- キャリブレーションを行うと、テスト録画を行って録画するタイミングを調べるため、テープ内容は消去されます。
- SP モードで録画する場合はデジタルビデオ機器を SP モードに、LP モードで録画する場合は LP モードにしてから、キャリブレーションを行ってください。
- テープは新しいものをご使用になることをお勧めします。

2. TOOL BOX で［ 設定 ］アイコンを選ぶ

設定画面が表示されます。

3. ［機器］タブをクリックする

機器設定画面が表示されます。

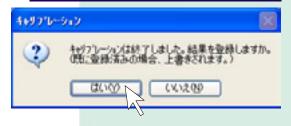
4. ［名前］設定部に接続している機器のモデル名を入力する

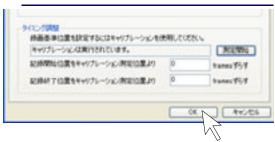
- すでに接続機器の機種名が表示されている場合は入力する必要はありません。
- 同じ機種を 2 台使ってリニア編集もしくはハイブリッド編集を行う場合は、機器設定画面で別の名前を入力しておくと便利です。

5. ［測定開始］ボタンをクリックする

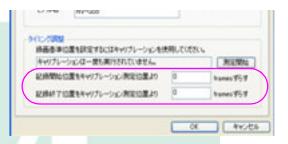
6. [OK] ボタンをクリックする

キャリブレーションが始まります。
• キャリブレーションは 8 〜 15 分程かかります。
• キャリブレーションを途中でやめるときは［中断］ボタンをクリックします。
キャリブレーション中にはデジタルビデオ機器を操作しないでください。

キャリブレーション実行中
先頭まで巻き戻し中
下地を録画する(約2分40秒)
25秒付近まで移動する
テスト映像を記録する(約3分)
先頭まで巻き戻す
評価する(約2分10秒)
中断

7. [はい] ボタンをクリックする

8. [OK] ボタンをクリックする

新しい設定が登録されます。

■ フレームを手動で調整するときは
• ［タイミング調整］設定部に frame（フレーム）の数を入力し、微調整してください。
• 微調整したいときは自動キャリブレーション後に行ってください。(-60 〜 60frames の調整ができます)

メモ

• キャリブレーションが正常に完了しなかった場合は、MotionDV STUDIO を終了し、パソコンを再起動してください。
• キャリブレーションが途中で止まってしまうなど、うまくできない場合は手動でフレームを調整してください。
• MotionDV　STUDIO で初めて使用する機器の場合、必ずキャリブレーションを行ってください。
• SP （標準）モードでのキャリブレーション、録画をおすすめします。LP モードで行うと、標準モード時よりも精度が悪くなります。
• D-VHS ビデオはキャリブレーションができません。
• DVD ビデオレコーダーはキャリブレーションができません。
• キャリブレーションを開始時に、［選択された装置が現在、カメラモードか VTR モードかわかりません。カメラモードの場合キャンセルを押して、VTR モードに切り換えてから再度キャリブレーションを実行してください。］と表示されることがありますが、接続されていることを確認し、［OK］ボタンをクリックしてキャリブレーションを継続してください。
• DV 機器へ出力 (P160) する際に［ブランク区間からの記録］(P162) を選んだ場合、キャリブレーション実行後でも、先頭クリップの最初の部分と、最終クリップの最後の部分が数フレーム記録されない場合があります。
ブランク区間からの記録をされる場合、先頭と最後に余裕を持たせることをお勧めします。

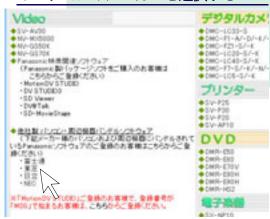
オンラインユーザー登録

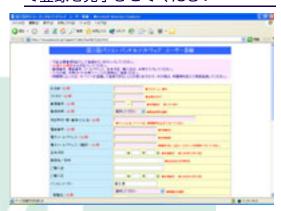
MotionDV STUDIOのユーザー登録をインターネットで行うことができます。

- ご登録いただきますと、ご希望によりバージョンアップ情報等のインフォメーションをメールでお届けします。
- ご登録のない場合はサポート等のサービスを受けられなくなる場合がありますのでご注意ください。
- オンラインユーザー登録を行うにはインターネットの接続環境が必要です。
- 登録画面などは予告無く変更される場合があります。

1. メニューの［ヘルプ］>>［オンライン］>>［ユーザー登録］を選ぶ

- インターネットで Panasonic 製品のユーザー登録総合受付ページに接続します。

2.［Video］の［他社製パソコン・周辺機器バンドルソフトウェア］からご使用のパソコンのメーカーを選択する

- ［セキュリティの警告］が表示される場合があります。［OK］をクリックしてください。

3. 必要な項目を入力し、画面にしたがって登録を完了させてください

- 登録が完了します。

MotionDV STUDIO について

かんたんモードと標準モード

MotionDV STUDIO にはかんたんモードと標準モードの 2 つのモードがあります。

メニューからモードを切換える
メニューの［モード］から［かんたんモード］または［標準モード］を選択する。
（モードによってどちらかのメニューが表示されます）

TOOL BOX からモードを切換える
TOOL BOX の［かんたん］または［標準］をクリックする。

■ かんたんモード

映像の取り込みから書き出しまで、基本的な機能を取り出したモードで、難しい作業を考えることなく、初心者の方でも簡単に MotionDV STUDIO を使用することができます。かんたんモードでは以下の操作モードを使用して操作を行うことができます。
（下記操作モード中でも制限されて使用できない機能がありますので、すべての機能を使用したい場合は標準モードをお使いください）

入力 :
DV キャプチャーモード (P31)
編集 :
ノンリニア編集モード (P62)
加工 :
タイトルエディターモード (P107)
出力 :
DV 機器出力モード (P160)、ファイル出力モード (P168)、ビデオメールモード (P189)、DVD-R/RW 出力モード (P195)、DVD-RAM 出力モード (P202)
ランチャー :(P215)
ヘルプ :
ビギナーズガイダンスモード (P209)、ヘルプモード (P211)、デモンストレーションモード (P212)

■ 標準モード

MotionDV STUDIO のすべての機能を使用できるモードです。

- 本書では標準モードでしか使えない機能もしくはページにマーク、かんたんモードでしか使えない機能、もしくはページにマークを付けています。両方のモードで使えるページには両方のマークがついています。（リンク先、説明先などにマークが付いている場合はリンク元、説明元などにマークがない場合もあります）
- 本書では標準モード時の画面を使用して説明しておりますので、かんたんモードでは画面がことなる場合があります。

MotionDV STUDIO の操作モード

MotionDV STUDIO には以下の 7 つの操作モードがあります。操作に応じてモードを切り換えてください。

■ 入力モード (P30)

外部機器などから映像や音声を入力するときに選択します。

DV キャプチャーモード : (P31)

シンプルな操作画面で簡単にデジタルビデオ機器から映像や音声を入力することができます。

DV 機器入力モード : (P37)

デジタルビデオ機器から映像や音声を入力するときに選択します。DV キャプチャーモードよりも多彩な設定での入力が可能です。

メディアインポートモード： **(P53)**
ファイル形式の変換をするときに選択します。

音声素材取込モード： **(P56)**
マイクやオーディオ CD から音声を入力するときに選択します。

■ 編集モード **(P61)**
データを編集するときに選択します。

ノンリニア編集モード：**(P62)**
ノンリニア編集をおこなうときに選択します。

ハイブリッド編集モード： **(P92)**
ハイブリッド編集をおこなうときに選択します。

■ 加工モード **(P106)**
タイトルや、テキストデータを作成するときに選択します。

タイトルエディターモード： **(P107)**
タイトルエディターで映像のタイトルを作成するときに選択します。

3D アレンジモード： **(P154)**
3D アレンジで映像効果を作成するときに選択します。

■ 出力モード **(P159)**
映像や音声を外部機器などに出力するときに選択します。

DV 機器出力モード： **(P160)**
映像や音声をデジタルビデオ機器に出力するときに選択します。

ファイル出力モード： **(P168)**
ファイルに出力するときに選択します。

DVD レコーダー出力モード： **(P175)**
映像や音声をDVDビデオレコーダーに出力するときに選択します。

D-VHS 出力モード： **(P182)**
映像や音声をD-VHSビデオに出力するときに選択します。

ビデオメールモード： **(P189)**
映像や音声をメールとして送付できる形式に書き出すときに選択します。

DVD-R/RW 出力モード： **(P195)**
対応書込みアプリケーションがインストールされているとこのモードが使用できます。
対応書込みアプリケーションと連携したいときに選択します。

DVD-RAM 出力モード： **(P202)**
対応書込みアプリケーションがインストールされているとこのモードが使用できます。
対応書込みアプリケーションと連携したいときに選択します。

■ ヘルプモード **(P208)**
操作の手助けが必要なときに選択します。

ビギナーズガイダンスモード： **(P209)**
かんたんモード用のガイダンスを見たいときに選択します。

機能別ガイダンスモード：**(P210)**
標準モード用のガイダンスを見たいときに選択します。

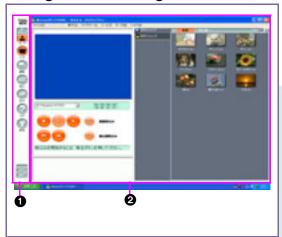
ヘルプモード： **(P211)**
MotionDV STUDIO の取扱説明書（低解像度）を見たいときに選択します。

デモンストレーションモード： **(P212)**
MotionDV STUDIO のデモンストレーションを見たいときに選択します。

■ 設定モード：**(P213)**
MotionDV STUDIO の各種設定をしたいときに選択します。

■ 終了：
MotionDV STUDIO を終了するときにクリックします。

MotionDV STUDIO の画面構成

MotionDV STUDIO の画面は、大きく分けて［TOOL BOX］(❶) とワークエリア (❷) から構成されます。

［TOOL BOX］

［TOOL BOX］には、操作モードを切り換えるためのアイコンが配置されています。

■ 操作モードの切り換えかた

［TOOL BOX］にあるアイコン上にカーソルをもっていくと操作モードアイコンが表示されます。アイコンを選択すると、操作モードが切り換わり、ワークエリアにそれぞれのモードにあわせた画面が表示されます。
例：

また、［TOOL BOX］上のアイコンをクリックすると、そのアイコンに応じた操作モードに切り換わります。

- 選択したモードのアイコンがオレンジになってTOOL BOX に表示されます。
- TOOL BOX の設定についてはP213をご覧ください。

ワークエリア

ワークエリアには［TOOL BOX］で選択した操作モードに連動して様々な画面が表示されます。詳しくはそれぞれの操作モードのページをご参照ください。
［TOOL BOX］で選択した操作モードによって、ワークエリアが別ウィンドウとして表示されるものもあります。

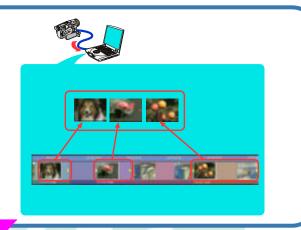
ビデオ編集の概要

ノンリニア編集を中心とした例

入力（DV 機器入力）(P37)

自動インデックス、マークイン、マークアウトなどでテープ画像にインデックスを付けます。

インデックスを使って画像の取り込みたい部分を取り込みます。(キャプチャー、バッチキャプチャー)

画像はビデオクリップ / 静止画クリップとしてハードディスク内に取り込まれます。

ノンリニア編集 (P62)

ビデオクリップ / 静止画クリップを、編集トラックに好みの順に配置します。

ビデオクリップ / 静止画クリップに好みのビデオエフェクトを付けることもできます。

加工 (P107)、(P154)

ビデオクリップ / 静止画クリップにタイトルを入れます。
3D 効果も付けることができます。

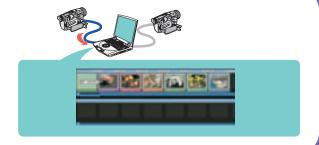
出力（DV 機器出力）(P160)

編集トラックに並んでいる順に録画されます。

リニア編集を中心とした例

ハイブリッド編集 (P92)

入力モードで自動インデックス、マークイン、マークアウトなどでテープ画像にインデックスを付けます。
（入力テープトラックに表示されます。）

リニア編集 (P98)

インデックスで囲まれた入力テープトラックのテープクリップを、好みの順で編集トラックに配置します。

出力（**DV** 機器出力）(P160)

編集トラックに並んでいる順に録画されます。

ハイブリッド編集を中心とした例

ハイブリッド編集 (P92)

入力モードでビデオエフェクトを付けたい画像はビデオクリップ / 静止画クリップとして取り込んでおいてください。

自動インデックス、マークイン、マークアウトなどでテープ画像にインデックスを付けます。（入力テープトラックに表示されます。）

インデックスを使って画像の取り込みたい部分を取り込みます。（キャプチャー、バッチキャプチャー）

加工 (P107)、(P154)

ビデオクリップ / 静止画クリップにタイトルを入れます。
3D 効果も付けることができます。

ハイブリッド編集 (P99)

インデックスで囲まれた入力テープトラックのテープクリップとライブラリー内のビデオクリップ / 静止画クリップを、好みの順で編集トラックに配置します。
（ビデオクリップ / 静止画クリップに好みのビデオエフェクトを付けることもできます。）

出力（DV 機器出力）(P160)

編集トラックに並んでいる順に録画されます。

入力モード

入力モードについて

MotionDV STUDIO で編集するために映像や音声を取り込むときは、入力モードにして作業します。入力モードには、DV キャプチャーモード、DV 機器入力モード、メディアインポートモード、音声素材取込モードの 4 種類のモードがあります。操作の切り換えかたは P26 をご覧ください。

ハードディスクのデータの断片化が多いときなどには取込中にコマ落ちが生ずることがあります。取込を行う前にご使用になるパソコンのデフラグツールを使用して断片化を解消しておくことをお勧めします。

DV キャプチャーモード： (P31)

接続した DV 機器からより簡単に映像を取り込みたいときはこのモードで操作してください。

DV 機器入力モード： (P37)

接続した DV 機器からより細かい設定を使用して映像を取り込みたいときはこのモードで操作してください。

メディアインポートモード： (P53)

ファイル形式の変換をするときはこのモードを使用してください。
MP3 などのファイルを MotionDV STUDIO で編集できるデータに変換したり、MPEG2 形式から AVI 形式などへの画像ファイルの変換もできます。

音声素材取込モード： (P56)

パソコンに接続したマイクやオーディオ CD から音声を取り込むときは、このモードで操作してください。

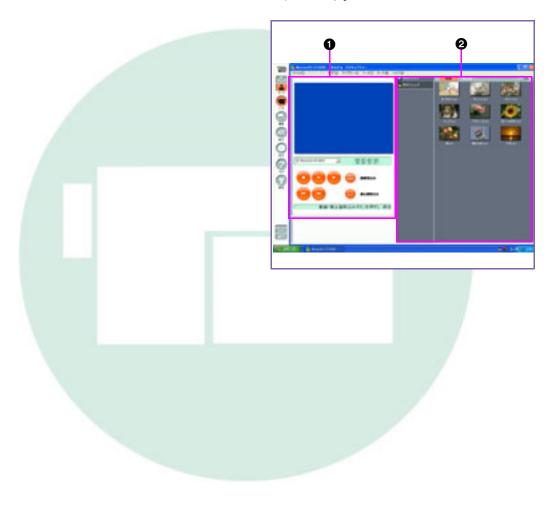
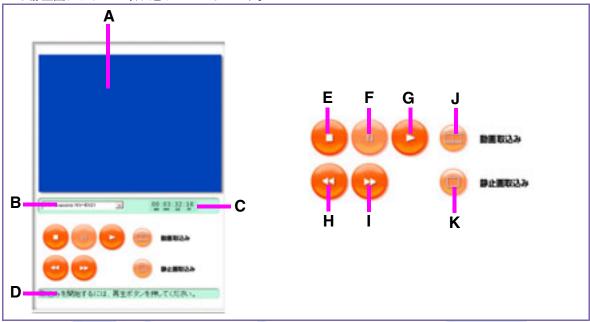
テープラベルの印刷 (P100)

DV 機器入力モードのとき、入力テープの内容をもとに DV や VHS のテープラベルを印刷できます。
また、入力テープトラックの内容をリスト形式で表示する [タイムシート] の印刷もできます。

DV キャプチャーモード：

DV キャプチャーモードを使って簡単にビデオクリップや静止画クリップを取り込むことができます。

DV キャプチャーモードの画面構成

DV キャプチャーモードはコントロール画面（❶）、ライブラリー画面（❷）、の 2 つの画面から構成されています。

❶ コントロール画面
接続機器をコントロールしてビデオクリップや静止画クリップの取り込みをおこないます。

A. プレビュー表示部
再生中の映像が表示されます。
［表示］メニューの［プレビューサイズ］でプレビューサイズの変更ができます。

B. 操作機器表示部
映像を入力する機器を表示・選択します。

C. タイムコード表示部
再生中の映像のタイムコードが表示されます。

D. 状態表示部
接続しているデジタル機器の状態や、操作方法などが表示されます。

E. 停止ボタン
再生などの動きを停止します。

F. 一時停止ボタン
再生中にクリックすると画像が一時停止します。もう一度クリックすると再生します。

G. 再生ボタン
再生します。

H. 巻戻しボタン
再生時にクリックすると巻戻し再生、停止時にクリックすると巻戻しになります。

I. 早送りボタン
再生時にクリックすると早送り再生、停止時にクリックすると早送りになります。

J. ［動画取込み］ボタン
ビデオクリップを取り込みます。

K. ［静止画取込み］ボタン
静止画クリップを取り込みます。

ホイールマウスについて

• ホイールマウスをお使いの場合、再生時にホイール（スクロール）ボタンを回すと映像がスロー再生に、一時停止時にはコマ送りに、停止時には一時停止状態になります。

下（手前）に回す：
停止時には映像が一時停止状態になります。
一時停止時には映像が 1 コマ（フレーム）進みます。
再生時には映像がスロー再生になります。
上（外側）に回す：
停止時には映像が一時停止状態になります。

一時停止時には映像が 1 コマ（フレーム）戻ります。
再生時には映像が逆スロー再生になります。
（ホイールマウスの形状によって動かす方向は変わります）

ノート

- デジタルビデオカメラを再生中に、マウスカーソルをプレビュー画面の上に持っていくとピンク色の影が表示されることがありますが、動作に影響はありません。
お使いのパソコンのグラフィック対応モードにより異なりますが、設定モード (P213) の［入力テープ］設定で、［描画方法］を［自動］以外に設定すると改善できる場合がありますのでお試しください。

❷ ライブラリー画面
ハードディスクに登録しているデータを MotionDV STUDIO で閲覧できます。

A. 選択フォルダー
ライブラリーとして閲覧できるディレクトリーを表示します。デフォルトフォルダーとして［素材フォルダ］が作成されていますが、任意のディレクトリーの任意のフォルダーを追加・作成することができます。

B. ライブラリー選択部
クリックして登録しているデータの種類を選択できます。
［動画］
選択フォルダー内の DV 圧縮の AVI ファイル（AVI ファイル）と MPEG2 圧縮ファイル（MPEG ファイル）を表示します。
- TVfunSTUDIO で番組表を利用して録画されたデータは、番組タイトル情報が表示されます。

［静止画］
選択フォルダー内の静止画ファイル（BMP/JPEG/TIFF/PNG ファイル）を表示します。

C. サムネイル表示部
選択されているフォルダー内のサムネイルが表示されます。

ヒントとお願い

- ライブラリーに別のフォルダーを新たに追加できます。(P59)
- サムネイル表示部では、「アイコンの表示範囲を広くする」、「表示順位を変更する」、「アイコンの名称を変更する」、「ファイルの削除をする」などの操作をすることができます。方法はタイトルエディターのライブラリーと同じです。(P152),(P153)
- ファイルの削除などを行ったあと、ライブラリーの表示が変わらないときは、メニューの［ライブラリー］>> ［最新の情報に更新］を選んでください。
- ファイル形式については用語解説ページをご覧ください。(P245)

ビデオクリップを取り込む

プレビュー画面の映像を見ながら、取り込みたいところで［動画取込み］ボタンを押すと簡単に取り込むことができます。

1. 再生ボタン［▶］をクリックする

プレビュー画面に再生映像が映ります。

2. 取り込み始めたいところで［動画取込み］ボタン をクリックする

映像の取り込みが始まり、［キャプチャー］画面が表示されます。

［取り込んだ長さ］
既に取り込まれた映像の長さを表示
［記録可能時間］
残りどれだけの映像が記録できるかを表示

- キャプチャー中のプレビュー映像のサイズは設定モードの［プレビューサイズ］で設定することができます。(P213)

3. 取り込みを終了したいところで［終了］をクリックする

取り込みが終了し、取り込んだ映像（ビデオクリップ）がライブラリーの［動画］に表示されます。

- 取り込んだ映像の最初のシーンがアイコン表示されます。
- 取り込みが終了しても、DV 機器は再生し続けます。

ヒント

- ビデオクリップ4分ほどで約1 GBのハードディスク容量が必要になります。取り込む前にハードディスクに十分な空き容量を確保してください。
- 映像を取り込んでいるときにその容量が4 GBを超えると、NTFS ファイルシステム以外の場合はビデオクリップが自動的に分割され、複数のファイルになります。
- 取り込む映像が、異なるサンプリング周波数（32 kHz と 48 kHz など）の音声で構成されている場合、サンプリング周波数の変わり目でビデオクリップが自動的に分割され、複数のファイルになります。
- キャプチャー中、入力テープが無記録部分へ切り換わった場合、その時点でキャプチャーは終了します。

静止画クリップを取り込む

プレビュー画面の映像を見ながら、取り込みたいところで［静止画取込み］ボタンを押すと簡単に取り込むことができます。

1. 再生ボタン［▶］をクリックする

プレビュー画面に再生映像が映ります。

2. [静止画取込み]ボタンをクリックする

静止画クリップが取り込まれ、取り込まれた静止画クリップがライブラリーの［静止画］に表示されます。

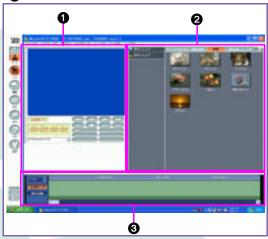
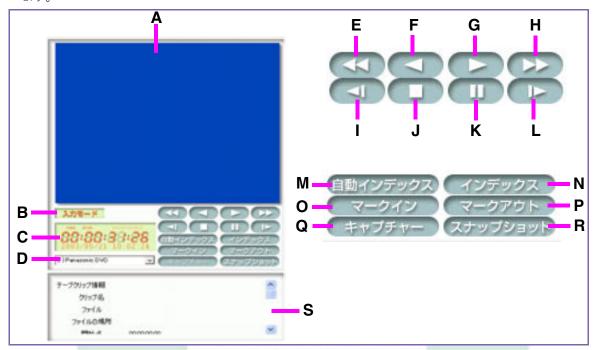
- 取り込みが終了しても、DV 機器は再生し続けます。
- 静止画再生状態からでも静止画クリップを取り込むことができます。
- 取り込まれる静止画クリップの設定はスナップショットの設定と同じです。(P49)

DV 機器入力モード：

DV 機器入力モードで、DV 機器から映像を取り込むには以下の方法があります。

ワンタッチ取り込み (P41)
　プレビュー映像を見ながら取り込む方法です。
範囲指定取り込み (P42)
　取り込みの開始点と終了点を指定して映像を取り込む方法です。簡単に設定のやり直しができ、より正確に取り込むことができます。
インデックス取り込み (P44)
　あらかじめ設定しておいたインデックスをもとに映像を選んで取り込む方法です。
バッチキャプチャー (P47)
　範囲指定取り込みやインデックス取り込みを行うさい、複数の画像を一度に取り込む方法です。
撮影モード取り込み (P48)
　デジタルビデオカメラで映している映像を取り込む方法です。
スナップショット (P49)
　静止画クリップを取り込む方法です。
カードデータ取り込み (P50)
　マルチメディアカードや SD メモリーカードのデータを取り込む方法です。

DV 機器入力モードの画面構成

DV 機器入力モードはコントロール画面（❶）、ライブラリー画面（❷）、入力テープトラック画面（❸）の 3 つの画面から構成されています。

❶ コントロール画面
接続機器の画像・音声データをコントロールします。

A. プレビュー表示部
再生中の映像が表示されます。
［表示］メニューの［プレビューサイズ］でプレビューサイズの変更ができます。

B. 入力モード表示
入力モード中であることを示しています。

C. タイムコード表示部
再生中の映像のタイムコードが表示されます。

D. 操作機器表示部
映像を入力する機器を表示・選択します。

E. 巻戻しボタン
再生時にクリックすると巻戻し再生、停止時にクリックすると巻戻しになります。

F. 逆再生ボタン
逆再生します。

G. 再生ボタン
再生します。

H. 早送りボタン
再生時にクリックすると早送り再生、停止時にクリックすると早送りになります。

I. 逆スロー再生 / 逆コマ送りボタン
再生時にクリックすると逆スロー再生、一時停止時にクリックすると逆コマ送り再生になります。

J. 停止ボタン
再生などの動きを停止します。

K. 一時停止ボタン
再生中にクリックすると画像が一時停止します。もう一度クリックすると再生します。

L. スロー再生 / コマ送りボタン
再生時にクリックするとスロー再生、一時停止時にクリックするとコマ送り再生になります。

M. ［自動インデックス］ボタン
自動的にインデックスをつけます。

N. ［インデックス］ボタン
手動でインデックスをつけます。

O. ［マークイン］ボタン
マークインをつけます。

P. ［マークアウト］ボタン
マークアウトをつけます。

Q. ［キャプチャー］ボタン
キャプチャーを開始します。

R. ［スナップショット］ボタン
静止画クリップを取り込みます。

S. テープクリップ情報表示部
入力テープトラック上で選択したテープクリップについての情報が表示されます。
プレビュー表示部のサイズやパソコン画面の解像度によっては、テープクリップ情報表示部が現れない場合があります。

ホイールマウスについて

- ホイールマウスをお使いの場合、再生時にホイール（スクロール）ボタンを回すと映像がスロー再生に、一時停止時にはコマ送りに、停止時には一時停止状態になります。

下（手前）に回す：
停止時には映像が一時停止状態になります。
一時停止時には映像が 1 コマ（フレーム）進みます。
再生時には映像がスロー再生になります。
上（外側）に回す：
停止時には映像が一時停止状態になります。
一時停止時には映像が 1 コマ（フレーム）戻ります。
再生時には映像が逆スロー再生になります。
（ホイールマウスの形状によって動かす方向は変わります）

ノート

- 接続機器によっては、ホイールボタンを回しても、画像がスムーズに動かない場合があります。また、編集モード時ほどなめらかな動きにはなりません。
- デジタルビデオカメラを再生中に、マウスカーソルをプレビュー画面の上に持っていくとピンク色の影が表示されることがありますが、動作に影響はありません。
お使いのパソコンのグラフィック対応モードにより異なりますが、設定モード (P213) の［入力テープ］設定で、［描画方法］を［自動］以外に設定すると改善できる場合がありますのでお試しください。

❷ ライブラリー画面
ハードディスクに登録しているデータをMotionDV STUDIO で閲覧できます。

A. 選択フォルダー
ライブラリーとして閲覧できるディレクトリーを表示します。デフォルトフォルダーとして［素材フォルダ］が作成されていますが、任意のディレクトリーの任意のフォルダーを追加・作成することができます。

B. ライブラリー選択部
クリックして登録しているデータの種類を選択できます。
［テープライブラリ］
選択フォルダー内の入力テープトラックの情報を保存したファイル（TAP ファイル）を表示します。
［編集情報］
選択フォルダー内の編集トラックの情報を保存したファイル（SEQ ファイル）を表示します。
［動画］
選択フォルダー内の DV 圧縮の AVI ファイル（AVI ファイル）と MPEG2 圧縮ファイル（MPEG ファイル）を表示します。

- TVfunSTUDIO で番組表を利用して録画されたデータは、番組タイトル情報が表示されます。

[静止画]
選択フォルダー内の静止画ファイル（BMP/JPEG/TIFF/PNG ファイル）を表示します。

[タイトル]
タイトルエディターモードで作成したタイトルファイル（TTE ファイル）のみを表示します。

[オーディオ]
選択フォルダー内の音声ファイル（WAV ファイル）を表示します。

[Mpeg1/Asf]
選択フォルダー内の MPEG1 形式のファイル（MPEG ファイル）/ASF 形式のファイル（ASF ファイル）を表示します。

C. サムネイル表示部
選択されているフォルダー内のサムネイルが表示されます。

ヒントとお願い

- ライブラリーに別のフォルダーを新たに追加できます。(P59)
- サムネイル表示部では、「アイコンの表示範囲を広くする」、「表示順位を変更する」、「アイコンの名称を変更する」、「ファイルの削除をする」などの操作をすることができます。方法はタイトルエディターのライブラリーと同じです。(P152),(P153)
- ファイルの削除などを行ったあと、ライブラリーの表示が変わらないときは、メニューの［ライブラリー］>> ［最新の情報に更新］を選んでください。
- ファイル形式については用語解説ページをご覧ください。(P245)

❸ 入力テープトラック画面
外部機器のテープに入っているテープ情報が表示されます。時間軸表示とアイコン表示の 2 種類の表示方法があり、お好みの表示方法を選ぶことができます。

A. タイムコード表示
B. 時間軸スケール表示部
時間設定ボタン［▲］［▼］をクリックして、入力テープトラックに表示できる時間幅を調整します。
（min= 分、sec= 秒、frames= フレーム）
C. ［入力テープ］表示
テープ入力であることを示しています。
D. ［表示切換］ボタン
クリックするごとに入力テープトラックの表示を切り換えます。

時間軸表示
テープの映像情報が時間の長さに比例して表示されます。

アイコン表示
テープの映像情報がインデックスごとにすべて同じ大きさのアイコンで表示されます。

E. カレントバー（入力テープトラック上の赤いライン）
再生中のテープ位置を表示します

ワンタッチ取り込み

プレビュー画面の映像を見ながら、取り込みたいところで［キャプチャー］ボタンを押すと簡単に取り込むことができます。

1. 再生ボタン［▶］をクリックする

プレビュー画面に再生映像が映ります。

2. 取り込み始めたいところで［キャプチャー］ボタンをクリックする

映像の取り込みが始まり、［キャプチャー］画面が表示されます。

［取り込んだ長さ］
既に取り込まれた映像の長さを表示
［記録可能時間］
残りどれだけの映像が記録できるかを表示

- キャプチャー中のプレビュー映像のサイズは設定モードの［プレビューサイズ］で設定することができます。(P213)

3. 取り込みを終了したいところで［終了］ボタンをクリックする

取り込みが終了し、取り込んだ映像（ビデオクリップ）がライブラリーの［動画］に表示されます。

- 取り込んだ映像の最初のシーンがアイコン表示されます。

- 取り込みが終了しても、DV 機器は再生し続けます。

ヒント

- ビデオクリップ4分ほどで約1 GBのハードディスク容量が必要になります。取り込む前にハードディスクに十分な空き容量を確保してください。
- 映像を取り込んでいるときにその容量が4 GBを超えると、NTFS ファイルシステム以外の場合はビデオクリップが自動的に分割され、複数のファイルになります。
- 取り込む映像が、異なるサンプリング周波数（32kHz と 48kHz など）の音声で構成されている場合、サンプリング周波数の変わり目でビデオクリップが自動的に分割され、複数のファイルになります。
- キャプチャー中、入力テープが無記録部分へ切り換わった場合、その時点でキャプチャーは終了します。

範囲指定取り込み

取り込み開始点（マークイン）/ 終了点（マークアウト）を設定して映像を取り込みます。
簡単に設定のやり直しができ、より正確に取り込むことができます。

1. 取り込み始めるところで一時停止にする

- 操作ボタン**P38**で取り込み開始位置をさがして再生し、一時停止ボタン［❚❚］をクリックして画像を一時停止させます。

2.［マークイン］ボタンをクリックする

取り込み開始点が設定され、入力テープトラックに黄色い三角マークが表示されます。

3. 取り込みを終わりたいところで一時停止にする

- 操作ボタンで取り込み終了位置をさがして再生し、一時停止ボタン［❚❚］をクリックして画像を一時停止させます。

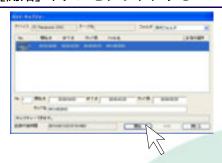
4.［マークアウト］ボタンをクリックする

取り込み終了点が設定され、入力テープトラックにアイコンと黄色い三角マークが表示されます。

5. 取り込むシーンのアイコンをダブルクリックする

6.［キャプチャー］ボタンをクリックする

- 取り込み範囲を調整するには：**(P47)**

7. [開始] ボタンをクリックする

テープを開始点まで巻き戻し、画像を取り込みます。

- こま落ちが起こると、メッセージが表示され、[こま落ち個所] にこま落ち（映像の取り込み時に取り込めないフレーム（映像の 1 コマ）が発生すること）が何個所発生したか表示します。
- メニューの ［ツール］>> ［設定］からこま落ち時の設定ができます (P213)
- キャプチャー中のプレビュー映像のサイズは設定モードの［プレビューサイズ］で設定することができます。(P213)

8. [閉じる] ボタンをクリックする

プロパティ画面に戻ります。

- ［OK］ボタンをクリックするとプロパティ画面が消えます。
- 取り込んだビデオクリップがライブラリーの動画サムネイル部にアイコン表示されます。

ヒント

- 取り込み範囲設定後に取り消したい場合は、黄色のマークで設定された範囲を右クリックして、コンテキストメニューから［インデックス削除］を選びます。
- 取り込み範囲の設定を途中でやめるには、メニューの［入力テープ］>> ［マークイン・マークアウトの中断］を選びます。

インデックス取り込み

インデックス情報をもとに映像を選び、取り込みます。
インデックス取り込みの基本的な操作の流れは以下のとおりです。

1. インデックスをつける
2. インデックスをもとにテープを頭出しする
3. 取り込む

インデックスをつける

手動でインデックスをつける

シーンのプレビューを見ながらインデックスを付ける方法です。

1. 再生［▶］ボタンをクリックする

プレビュー画面に再生映像が映ります。

2. インデックスを入れたいところで［インデックス］をクリックする

入力テープトラックにインデックスをつけたシーンが表示されます。

ヒント

- テープにはインデックス情報は記録されません。
- インデックス情報はテープ情報として保存できます。保存したテープ情報は、再び同じテープを使うときに活用できます。(P51)
- インデックスを消したい場合は、消したいインデックスのアイコン上で右クリックして、コンテキストメニューから［インデックス削除］を選びます。

自動でインデックスをつける

シーンの変わり目部分をさがし出し、自動的にインデックスを付ける方法です。
（撮影の一時停止などで撮影時間が不連続になる位置をシーンの変わり目部分と判断しています。）

1. ［自動インデックス］ボタンをクリックする

2. 任意の検索方法を選び、［開始］ボタンをクリックする

再生しながらシーンの検索を始めます。

［テープの先頭から検索］
テープを最初まで巻き戻し、検索を開始します。

［現在のテープ位置から検索］
現在のテープ位置から検索します。

ヒント

- 検出したシーンは入力テープトラックに表示されます。
- 自動インデックス検索には再生と同じ時間が必要です
- インデックス情報は保存できます。保存した情報は、再び同じテープを使うときに活用できます。
- 途中で止めたいときは［中断］ボタンをクリックします。
- インデックス情報からテープラベルの印刷ができます。(P105)
- タイムコードの連続している記録済みのテープのみ自動でインデックスをつけることができます。
- 一度記録されたテープに上書きすると、新しく記録した映像と以前の映像との変わり目で、タイムコードがずれて自動インデックスが途中で終了してしまうことがあります。
- インデックスを消したい場合は、消したいインデックスのアイコン上で右クリックして、コンテキストメニューから［インデックス削除］を選びます。

インデックスをもとに映像の頭出しをする

1. 頭出ししたいシーンをダブルクリックする

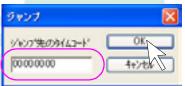
- タイムコードが連続して記録されていないテープでは頭出しがうまくできません。
- 未記録部分からの頭出しはできません。

2. ［開始点へ移動］をクリックする

［開始点へ移動］画面が表示され、頭出しを開始します。
- 頭出しが終わると画像が一時停止します。

ヒント

- ［終了点へ移動］をクリックすると、シーンの終わりで画像が一時停止します。
- 次の方法でタイムコードを入力して頭出しすることもできます。
  1. メニューの［入力テープ］>> ［ジャンプ］を選ぶ

  2. タイムコードを入力し［OK］をクリックする

- 頭出しが終わると、画像が一時停止します。
- テープの長さを超えたタイムコードを入力するとエラーメッセージが表示されます。

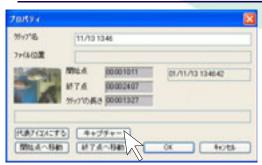
インデックスをもとに取り込む

1. 入力テープ情報を入力テープトラックに表示する

- 「インデックスをつける」(P44) の手順で入力テープ情報を入力テープトラックに表示させてください。保存したテープ情報を使って入力テープ情報を入力テープトラックに表示させることもできます (P51)。

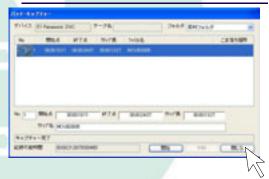
2. 取り込むシーンのアイコンをダブルクリックする

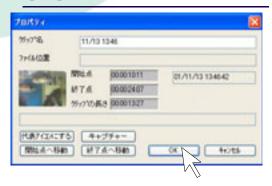
- 1 つのインデックスからその次のインデックスまでのシーンを選ぶことができます。
- インデックスが 1 つしかない場合、テープ映像の終端がシーンの終了点となります。

3. [キャプチャー] ボタンをクリックする

- 取り込み範囲を調整するには：(P47)

4. [開始] ボタンをクリックする

- テープをシーンの開始点まで巻き戻し、映像を取り込みます。
- キャプチャー中のプレビュー映像のサイズは設定モードの［プレビューサイズ］で設定することができます。(P213)

5. 取り込み後、[閉じる] ボタンをクリックする

プロパティ画面に戻ります。

6. ［OK］ボタンをクリックする

プロパティ画面が消え、取り込んだビデオクリップがライブラリーの動画サムネイル部にアイコン表示されます。

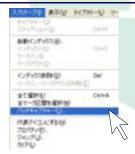
バッチキャプチャー

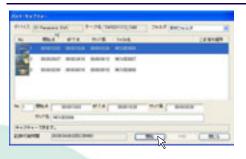
取り込み開始点（マークイン）/ 終了点（マークアウト）を設定する取り込みやインデックスをもとに取り込む場合は、複数の映像を一度に取り込むことができます。

1. 入力テープトラックに取り込みたい映像の内容を表示させておく

2. ［Ctrl］キーを押しながら、取り込みたいシーンをすべてクリックして選ぶ

- 取り込み開始点（マークイン）/ 終了点（マークアウト）を設定したシーンをすべて選びたいときは、メニューの［入力テープ］>>［全マーク区間を選択］で選ぶと便利です。

3. メニューの［入力テープ］>>［バッチキャプチャー］を選ぶ

- 取り込みたいシーンをすべて選び、そのままライブラリーにドラッグ・アンド・ドロップして取り込み設定画面を表示させることもできます。編集トラックに配置されたテープクリップも、同じ操作でキャプチャーできます。

4. ［開始］ボタンをクリックする

選んだシーンをすべて取り込みます。

- 取り込み終わり、［閉じる］ボタンをクリックすると取り込み設定画面が終了します。
- キャプチャー中のプレビュー映像のサイズは設定モードの［プレビューサイズ］で設定することができます。(P213)

取り込み範囲を調整する

取り込み設定画面から取り込み開始点・終了点を変更することができます。

1. 取り込み範囲を調整したい映像のアイコンをダブルクリックする

- プロパティー画面が表示されます。

2. ［キャプチャー］ボタンをクリックする

- 取り込み設定画面（バッチキャプチャー画面）が表示されます。

3. 取り込み開始点、終了点などを調整する

取り込み開始点を変更する

［開始点］の欄に取り込みを開始したいテープ位置のタイムコードを入力します。

取り込み終了点を変更する

［終了点］の欄に取り込みを終了したいテープ位置のタイムコードを入力します。

クリップ名を変更する

［クリップ名］に任意の名前を入力します。（入力した名前が取り込んだ映像のファイル名になります）

- 取り込んだあとに開始点・終了点を調整したい場合はクリップをトリミングしてください。(P70)

撮影モード取り込み

デジタルビデオカメラを撮影モードにすると、レンズを通してとらえた画像を、テープに記録しないで直接取り込むことができます

1. デジタルビデオカメラからテープを抜き、撮影モードにする

- デジタルビデオカメラにデモモードがある場合は、デモモードを切っておいてください。
- MotionDV STUDIO がすでに起動している場合は、まず終了させてください。

2. デジタルビデオカメラとパソコンを接続し、**MotionDV STUDIO** を起動する

3. **MotionDV STUDIO** が **DV** 機器入力モードになっているか確認する

- DV 機器入力モードになっていない場合は、DV 機器入力モードに切り換えてください。

4. 再生ボタン［▶］をクリックする

カメラに映った映像が画面に映ります。

5. 取り込み始めたいところで［キャプチャー］ボタンをクリックする

取り込みが始まり、［キャプチャー］ダイアログが表示されます。

- キャプチャー中のプレビュー映像のサイズは設定モードの［プレビューサイズ］で設定することができます。(P213)

6. 取り込みを終了したいところで［終了］ボタンをクリックする

［取り込んだ長さ］
取り込んだ映像の長さを示しています。
［記録可能時間］
残りどれだけの映像が記録できるか示しています。

取り込みが終了し、取り込んだ映像（ビデオクリップ）がライブラリーの［動画］に表示されます。

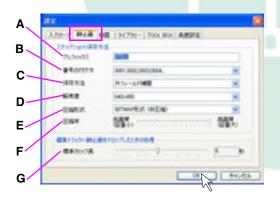
- カメラ映像の表示をやめたいときは、停止ボタン［■］をクリックします。（取り込みはできなくなります）

スナップショット

テープの映像から静止画クリップを取り込みます。取り込んだ静止画クリップはタイトルエディターモードを使ってタイトルを入れることができます。

1. TOOL BOX で［ ］アイコンを選ぶ

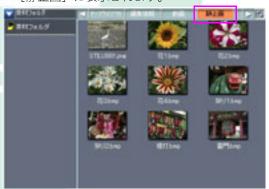
設定画面が表示されます。

2.［静止画］タブをクリックし、設定後［OK］ボタンをクリックする

A. ファイル名の前半部になります。
B. ファイル名の通し番号を選びます。
C. 動きのあるものを取り込むときは補間する設定を選びます。
D. 画像サイズを設定します。
E. **BMP**（ビットマップ）**/JPEG /TIFF/PNG** どの形式で取り込むか設定します。
F. JPEG 画像の圧縮率を設定します。
G. 静止画クリップを編集トラックに配置したときの表示時間を設定します。**(P67)**

3. テープ映像を再生し、取り込むところで画像を一時停止させる

- 操作ボタンで取り込み位置をさがして再生し、一時停止ボタン［❚❚］で画像を一時停止させます。

4.［スナップショット］ボタンをクリックする

静止画クリップが取り込まれライブラリーの［静止画］に表示されます。

ヒント

- ライブラリーの静止画クリップをダブルクリックすると、その形式に関連づけられたソフトウェアが起動し、画像が表示されます。
- 編集トラックを再生しているときにも静止画クリップを取り込むことができます。**(P68)**

カードデータ取り込み

カード機能の付いたデジタルビデオカメラを接続すると、マルチメディアカードやSDメモリーカードの画像をパソコンに取り込むことができます。
MotionDV STUDIO がすでに起動している場合は、まず終了させてください。

1. デジタルビデオカメラにカードを入れ、カード再生モードにする

- カードの入れかたについてはデジタルビデオカメラやカードの説明書をよくお読みください。

2. デジタルビデオカメラとパソコンを接続し、MotionDV STUDIO を起動する

- デジタルビデオカメラとパソコンの接続については「接続」(P16) をお読みください。

3. 再生ボタン［▶］をクリックする

カードの静止画が表示されます。

- 画像の送り・戻しなどの操作は MotionDV STUDIO からはできません。デジタルビデオカメラ側で操作してください。
- 停止ボタン［■］を押すとカード画像を表示しません。

4. 取り込みを開始する

静止画クリップとして取り込む場合
［スナップショット］ボタンをクリックします。
ビデオクリップ（AVI ファイル）として取り込む場合
［キャプチャー］ボタンをクリックし、好みの長さに取り込んだあと、［終了］ボタンをクリックします。

- キャプチャー中のプレビュー映像のサイズは設定モードの［プレビューサイズ］で設定することができます。(P213)
- 取り込んだ画像が保存され、ライブラリーに表示されます。
- 静止画クリップとして取り込んだ場合はライブラリーの［静止画］に、ビデオクリップとして取り込んだ場合はライブラリーの［動画］に表示されます。

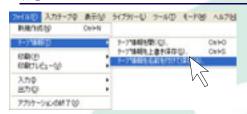
ヒント

- 静止画クリップを編集トラックに配置すると特殊効果を加えたり動画編集に使用できます。(その場合、「スナップショット」(P49) の手順 2 の G で設定した時間の静止画クリップとなります)
- ライブラリーの静止画クリップをダブルクリックすると、その形式に関連づけられたソフトウェアが起動し、画像が表示されます。

テープ情報について

インデックスなどの情報をテープ情報として保存しておくと、同じテープを使うときにいつでもその情報を使えます。

テープ情報を保存する

1. メニューの［ファイル］>>［テープ情報］>>［テープ情報を名前を付けて保存］を選ぶ

2. ファイル名を入力し、［保存］ボタンをクリックする

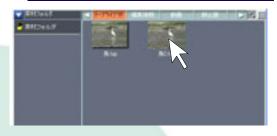
テープ情報はライブラリーの［テープライブラリ］に保存されます。

- テープ情報の保存場所は MotionDV STUDIO で使用しているフォルダーを選択してください。

ヒント

- テープ情報ファイルの拡張子は［.tap］です。

保存したテープ情報を見る

1. 情報を見たいテープ情報のアイコンをダブルクリックする

テープ情報が入力テープトラックに表示されます。

2.［詳細表示］ボタン❶をクリックする

テープの内容の詳細が表示されます。

テープ情報のアイコンを変更する

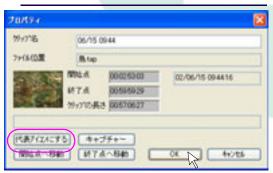
1. テープ情報の映像を再生する

- 既にデジタルビデオカメラが接続してあり、テープが再生できる状態のときには、「テープ情報を保存する」(P51) でテープ情報を保存したテープをデジタルビデオカメラに入れ、再生ボタンをクリックしてください。
- デジタルビデオカメラを接続していないときは、一度 MotionDV STUDIO を終了し、「テープ情報を保存する」(P51) でテープ情報を保存したテープをデジタルビデオカメラに入れ、テープ再生モードにしてから接続してください。そのあと MotionDV STUDIO を起動して、DV 機器入力モードで再生ボタンをクリックしてください。

2. テープ情報ファイルのアイコンにしたい映像のところで［インデックス］ボタンを押す

3. インデックスを入れた場面のアイコンをダブルクリックする

- プロパティが表示されます。

4. ［代表アイコンにする］をクリックして、［OK］ボタン をクリックする

5. メニューの ［ファイル］>> ［テープ情報］>> ［テープ情報を上書き保存］を選ぶ

テープ情報ファイルのアイコンが変更されます。

ヒント

- 入力テープトラックの、任意のインデックスをダブルクリックし、［代表アイコンにする］をクリックしてもアイコンを変更できます。(テープ情報の上書き保存が必要です)
- 入力テープトラックが時間軸表示になっている場合、インデックスの部分以外の映像アイコンを代表アイコンにすることはできません。

メディアインポートモード：

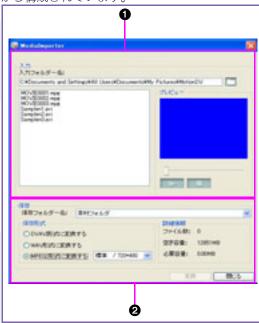
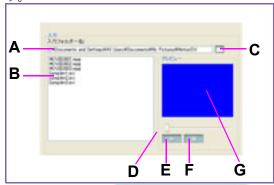
メディアインポートモードを選ぶと MediaImporter が起動します。

ファイル形式の変換をするときは、この MediaImporter で操作してください。
編集したい MPEG ファイルを、MediaImporter で AVI 形式や MPEG2 のファイルに変換することができます。（MPEG2 では「標準」、「高画質」が選べます）MP3 等の音声ファイルも、WAV のファイルに変換して編集トラックのビデオクリップ、静止画クリップに追加できます。

ノート

- ファイルフォーマットの内部仕様によっては変換できない場合があり、すべてを保証するものではありません。

メディアインポートモード（MediaImporter）の画面構成

メディアインポートモードは入力表示・選択部（❶）、保存形式表示・選択部（❷）の 2 つの画面から構成されています。

❶ 入力表示・選択部
入力するファイルのあるフォルダーを選んだり、選んだファイルのプレビューを表示したりします。

A. 入力フォルダー表示
入力するファイルのあるフォルダー名を表示します。

B. 変換ファイル表示選択窓
入力フォルダー表示で表示されているフォルダー内のファイルを表示します。表示されているファイルから変換するファイルを選びます。

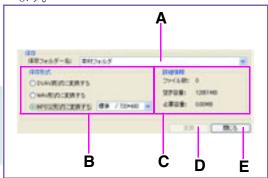
C. フォルダー参照ボタン
クリックすると［フォルダの参照］を表示します。

D. スライダー
プレビュー画面にビデオクリップを表示しているとき、スライドさせて見たい部分をさがすことができます。
（ASF ファイルをプレビューするときは、スライダーを使用することができません）

E. 再生ボタン
選んだファイルを再生します。選んだファイルが音声ファイルの場合は音声のみ再生します。

F. 停止ボタン
ファイルの再生を中止します。

G. プレビュー画面
入力として選んだビデオクリップの内容を表示します。

❷ 保存形式表示・選択部
ファイルの保存形式を選んだり、変換されたファイルの保存先フォルダーを指定したりします。

A. 保存フォルダー選択・表示
変換されたファイルの保存先を選択・表示します。

B. 保存形式設定部
ファイルの変換形式を設定します。
［DVAVI 形式に変更する］
次の形式のデータを AVI 形式のビデオクリップに変換します。
MPEG1,MPEG2,MPEG4(ASF),AVI,WMV
［WAV 形式に変換する］
次の形式のデータを WAV 形式の音声ファイルに変換します。
MPEG1,MPEG2,MP3,MPEG4（ASF）,AVI,WMV,WMA
映像ファイルを WAV 形式に変換する場合、音声のみのファイルになります。
［MPEG2 形式に変換する］
次の形式のデータを MPEG2 形式のビデオクリップに変換します。
AVI,MPEG2
出力するファイルは高画質、標準の 2 種類から選ぶことができます。

C. 詳細表示部
［変換ファイル表示選択窓］で選んだファイルの数や変換後のファイルを保存するために必要なハードディスクの容量などが表示されます。

D. ［変換］ボタン
クリックすると変換を開始します。

E. ［閉じる］ボタン
クリックすると［MediaImporter］を終了します。

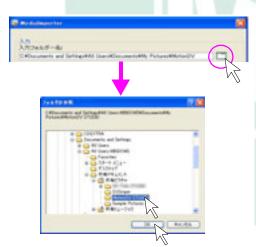
ファイルを変換する

1. メディアインポートモードにする

• 操作モードの切り換え方は (P26) をご覧ください。

2. 出力形式を選ぶ

• 適当なファイル形式を選びます。[保存形式設定部] (P54) をご覧ください。
• 選んだ出力形式によって、変換可能なファイルが入力部に表示されます。

3. 変換するファイルの入ったフォルダーを選び、[OK] ボタンをクリックする

変換したいファイルが表示されます。

4. 変換するファイルを選びプレビューを確認する

5. [変換] ボタンをクリックする

変換の内容が表示されます。

6. [OK] をクリックする

ファイル変換が始まります。
• 変換終了のメッセージが表示されたら [OK] ボタンをクリックしてください。これで変換は完了です。
• 変換したファイルは MotionDV STUDIO で使用しているフォルダー（デフォルトは [素材フォルダ]）にしか保存できません。
• WAV ファイルは [オーディオ] に表示されます。

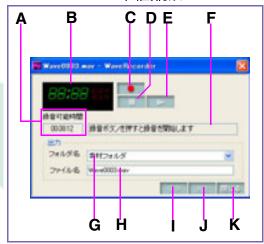
ノート

• ファイル出力モード (P168)、ビデオメールモード (P189) 以外で作成された ASF ファイルは変換できない場合があります。
• Windows 標準形式の AVI ファイル以外は変換できない場合があります。
• 著作権情報が設定されているファイルは、権利者の許可なしに変換することはできません。
• メディアインポートモードから他のモードに切り換えるときは、[閉じる] ボタンをクリックして [MediaImporter] を終了してください。直接他のモードに切り換えることはできません。
• 一度に非常に多くのファイルを選択すると、環境によっては正しく変換できない場合があります。この場合は何回かに分けて変換を行ってください。

音声素材取込モード：

音声素材取込モードを選ぶとWaveRecorderが起動します。

WaveRecorderを使って、パソコンのマイク端子に接続したマイクからの音声や、オーディオ CDからの音声などをWAVファイルとして取り込むことができます。
取り込まれたWAVファイルはオーディオミックス機能を使用してビデオクリップ、静止画クリップに追加することができます。(P72)

WaveRecorderの画面構成

A. 録音可能時間表示
ハードディスクの空き容量に録音可能な時間を表示します。

B. 録音・再生時間表示
録音または再生開始からの時間を表示します。

C. 録音ボタン
クリックすると録音を開始します。

D. 停止ボタン
クリックすると録音・再生を停止します。

E. 再生ボタン
クリックすると再生を開始します。

F. 状態表示窓
現在の動作状態を表示します。

G. フォルダー名選択・表示
録音した音声を保存するフォルダー名を表示・選択します。

H. ファイル名入力窓
録音した音声のファイル名を入力します。

I. ［保存］ボタン
クリックすると録音した音声を保存します。

J. ［消去］ボタン
クリックすると録音した音声を消去します。消去すると新たに録音を行うことができます。

K. ［閉じる］ボタン
クリックするとWaveRecorderが終了します。

音声素材を取り込む

マイク端子から音声を取り込む時は、パソコンのマイク端子に音声機器やマイクをつないでおいてください。（Windows 側で設定の必要な場合があります。パソコンの説明書をお読みください）

1. 録音ボタン ［●］ をクリックする

2. 接続している再生機器を再生する

- ナレーションなどを入れるときはマイクに向かって音声を入れます。

3. 停止ボタン ［■］ をクリックして、入力を終了する

4. 再生ボタン ［▶］ をクリックし、録音した音声を確認する

5. ファイル名を入力する

- 素材フォルダーなど MotionDV STUDIO で使っているフォルダーに保存すると、ライブラリーの［オーディオ］に表示されます。フォルダー名はプルダウンボタン［ ］をクリックして指定することもできます。（「保存先のフォルダーを変える」(P59) で保存先フォルダーを新しく追加しているとそのフォルダーを選ぶことができます。）

6. ［保存］ ボタンをクリックする

- 保存完了のメッセージが出ますので、［OK］ボタンをクリックすると、音声ファイルが保存されます。

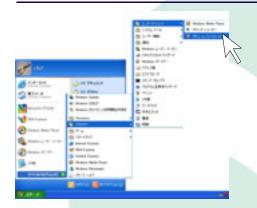
ヒント

- 録音をやり直したいときは、［消去］ボタンをクリックして、再度録音します。
- 音声素材の取り込みモードから他のモードに切り換えるときは、［閉じる］ボタンをクリックして［WaveRecorder］を終了してください。直接他のモードに切り換えることはできません。

■ オーディオ **CD** 取り込み時の設定

CD の音声を録音する場合、Windows 側で録音デバイスの設定が必要です。以下の手順で行ってください。

- パソコンによっては CD から録音できないものがあります。詳しくはパソコンの説明書をお読みください。

1. [スタート] >> [すべてのプログラム] >> [アクセサリ] >> [エンターテイメント] >> [ボリュームコントロール] を選ぶ

2. メニューの [オプション] >> [プロパティ] を選び、[録音] を選んで表示するコントロールにすべてチェックを入れる

- [OK] ボタンを押すと録音の調節画面が表示されます。

3. [ミキサー] または [モノラルミキサー] を選択する

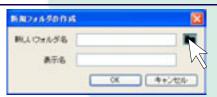
- パソコンによっては [ミキサー] の表示が [録音ミキサー] や [ステレオ出力] などとなっていることがあります。
- マイクから音声入力する場合は [マイク] を選びます。

保存先のフォルダーを変える

MotionDV STUDIO はインストール時にMotionDV STUDIO フォルダーが作成され、その中に取り込んだ映像・音声・編集情報などが保存されます。(MotionDV STUDIO 上では［素材フォルダ］と表示されます。) 保存先のフォルダーは以下の手順で変えることができます。

1. メニューの［ライブラリー］>>［新規フォルダ］を選ぶ

新規フォルダーの作成画面が表示されます。

2. フォルダーアイコン［ ］をクリックして保存したいフォルダーを選び、［OK］ボタンをクリックする

［新しいフォルダ名］にフォルダーのパス（C:¥など）が表示されます。

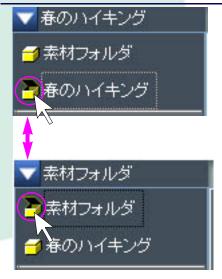
• フォルダーの場所（パス）は直接入力することもできます。
• 新規にフォルダーを作成する場合は、必ずフォルダーのパスとフォルダー名を入力してください。(フォルダー名はパスを含めて100 文字まで入力できます)

3. ［表示名］に任意の表示名を入力し、［OK］ボタンをクリックする

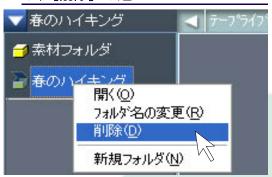
• 表示名は全角で 64 文字、半角で 128 文字まで入力できます。
• ライブラリー画面に新規フォルダーが表示されます。

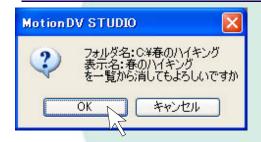
保存先フォルダーの切り換え

新規フォルダーと以前からあるフォルダーは必要に応じて自由に選ぶことができます。

1. ライブラリー画面に表示されたフォルダーをクリックする

クリックされたアイコンの形が変わり、フォルダーが選ばれたことを示します。

フォルダーを削除するには

1. 削除したいフォルダーを右クリックし、［削除］を選ぶ

確認のメッセージが表示されます。

2. ［OK］をクリックする

• ライブラリーのフォルダーを削除すると、MotionDV STUDIO 上でフォルダーが見えなくなります（実際にフォルダーが消去されるわけではありません。削除する場合はエクスプローラなどをお使いください）

編集モード

編集モードについて

MotionDV STUDIO で映像や音声を編集するには、編集モードにして作業します。編集モードには、ノンリニア編集モードとハイブリッド編集モードの 2 種類の操作モードがあります。操作モードの切り換えかたは P26 をご覧ください。

ノンリニア編集モード：(P62)

取り込んだ映像をもとに特殊効果などを活用し編集する場合はこのモードで操作してください。

ハイブリッド編集モード：(P92)

2 台のデジタルビデオ機器を使って、映像や音声をダビングしながらつないでいくリニア編集をおこなう場合や、リニア編集とノンリニア編集の両方の方法で編集するハイブリッド編集をおこなう場合はこのモードで操作してください。

テープラベルの印刷 (P100)

編集トラックの内容をもとに DV や VHS のテープラベルを印刷できます。
また、編集トラックの内容をリスト形式で表示する［タイムシート］の印刷もできます。

ノンリニア編集モード：

パソコンのハードディスクに取り込んだ映像を編集トラックに配置して、つなぎあわせたり、加工することができます。以下の機能を使うことができます。

- かんたんモードでは一部使えないボタンや機能があります。

クリップを編集トラックに配置する (P67)

クリップの順序を変更する (P68)

クリップを削除する (P68)

編集内容を再生する (P68)

編集内容を保存する (P69)

編集情報のアイコンを変更するには (P69)

クリップをトリミングする (P70)

クリップを分割する (P71)

音声を追加する（オーディオミックス）(P72)

追加音声にフェードをかける (P74)

もとの音声と追加する音声の割合を設定する (P74)

出力時の音声を設定する (P75)

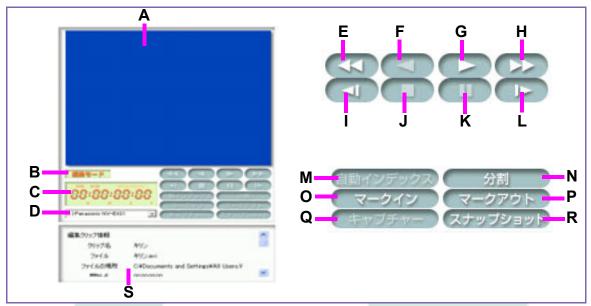
クリップにエフェクトを入れる (P76)

クリップとクリップの間にエフェクトを入れる (P86)

ノンリニア編集モードの画面構成

ノンリニア編集モードはコントロール画面（❶）、ライブラリー画面（❷）と編集トラック画面（❸）の 3 つの画面から構成されています。

❶ コントロール画面

編集トラックに配置したクリップ（取り込んだ映像）を再生するときなどに使います。

A. プレビュー表示部

配置したクリップの映像が表示されます。
［表示］メニューの［プレビューサイズ］でプレビューサイズの変更ができます。

B. 編集モード表示

編集モードであることを示しています。

C. タイムコード表示部

再生中の映像のタイムコードが表示されます。

D. 入力機器表示

接続している機器を表示しています。

E. 戻しボタン

クリップの開始点にカレントバーを送ります。
その後、クリックするごとに 1 つ前のリップの開始点に移動します。

F. 逆再生ボタン

編集モードでは使用しません。

G. 再生ボタン

編集トラックを再生します。

H. 送りボタン

後ろに配置されたクリップの開始点にカレントバーを送ります。
その後、クリックするごとに 1 つ後ろのクリップの開始点に移動します。
最後のクリップの場合は、クリップの終了点に移動します

I. 逆コマ送りボタン

一時停止のときにクリックすると、1 コマ戻します。

J. 停止ボタン

再生中にクリックすると画像を停止させます。

K. 一時停止ボタン

再生中にクリックすると画像を停止させます。

L. コマ送りボタン

一時停止のときにクリックすると、1 コマ送ります。

M. ［自動インデックス］ボタン

編集モードでは使用しません。

N. ［分割］ボタン

編集トラックのクリップを分割します。

O. ［マークイン］ボタン

クリップの開始点のトリミングをします。

P. ［マークアウト］ボタン

クリップの終了点のトリミングをします。

Q. ［キャプチャー］ボタン

編集モードでは使用しません。

R. ［スナップショット］ボタン

再生中の画像から静止画クリップを取り込みます。

S. 編集クリップ情報表示部
編集トラック上で選択したクリップについての情報が表示されます。
プレビュー表示部のサイズやパソコン画面の解像度によっては、編集クリップ情報表示部が現れない場合があります。

ホイールマウスについて

- ホイールマウスをお使いの場合、再生時や停止時、一時停止時にホイール（スクロール）ボタンを回すと映像がコマ送りになります。

下（手前）に回す：
映像が **1** コマ（フレーム）進みます。
上（外側）に回す：
映像が **1** コマ（フレーム）戻ります。
（ホイールマウスの形状によって動かす方向は変わります）

ノート

- デジタルビデオカメラを再生中に、マウスカーソルをプレビュー画面の上に持っていくとピンク色の影が表示されることがありますが、動作に影響はありません。
お使いのパソコンのグラフィック対応モードにより異なりますが、設定モード **(P213)** の［入力テープ］設定で、［描画方法］を［自動］以外に設定すると改善できる場合がありますのでお試しください。

❷ ライブラリー画面

ハードディスクに登録しているデータをMotionDV STUDIOで閲覧できます。

A. 選択フォルダー

ライブラリーとして閲覧できるディレクトリーを表示します。デフォルトフォルダーとして［素材フォルダ］が作成されていますが、任意のディレクトリーの任意のフォルダーを追加・作成することができます。

B. ライブラリー選択部

クリックして登録しているデータの種類を選択できます。

［テープライブラリ］

選択フォルダー内の入力テープトラックの情報を保存したファイル（TAPファイル）を表示します。

［編集情報］

選択フォルダー内の編集トラックの情報を保存したファイル（SEQファイル）を表示します。

［動画］

選択フォルダー内のDV圧縮のAVIファイル（AVIファイル）とMPEG2圧縮ファイル（MPEGファイル）を表示します。

- TVfunSTUDIOで番組表を利用して録画されたデータは、番組タイトル情報が表示されます。

［静止画］

選択フォルダー内の静止画ファイル（BMP/JPEG/TIFF/PNGファイル）を表示します。

［タイトル］

タイトルエディターモードで作成したタイトルファイル（TTEファイル）のみを表示します。

［オーディオ］

選択フォルダー内の音声ファイル（WAVファイル）を表示します。

［**Mpeg1/Asf**］

選択フォルダー内のMPEG1形式のファイル（MPEGファイル）/ASF形式のファイル（ASFファイル）を表示します。

C. サムネイル表示部

選択されているフォルダー内のサムネイルが表示されます。

ヒントとお願い

- ライブラリーに別のフォルダーを新たに追加できます。作成方法はDV機器入力モードと同じです。(P59)
- サムネイル表示部では、「アイコンの表示範囲を広くする」、「表示順位を変更する」、「アイコンの名称を変更する」、「ファイルの削除をする」などの操作をすることができます。方法はタイトルエディターのライブラリーと同じです。(P152),(P153)
- ファイルの削除などを行ったあと、ライブラリーの表示が変わらないときは、メニューの［ライブラリー］>>［最新の情報に更新］を選んでください。
- ファイル形式については用語解説ページをご覧ください。(P245)

❸ 編集トラック画面

編集したいクリップをこの画面に配置して、編集していきます。

• 時間軸表示とアイコン表示の 2 種類の表示方法があり、お好みの表示方法を選ぶことができます。

A. タイムコード表示

B. 時間軸スケール表示部

時間設定ボタン［▲］［▼］をクリックして、編集トラックに表示できる時間幅を調整します。

（min= 分、sec= 秒、frames= フレーム）

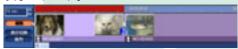
C.［編集］表示

編集トラックであることを示しています。

D.［表示切換］ボタン

クリックするごとに編集トラックの表示を切り換えます。

時間軸表示

配置したクリップが時間の長さに比例して表示されます。

アイコン表示

配置したクリップごとにすべて同じ大きさのアイコンで表示されます。

E.［出力］ボタン

編集トラックのデータを DV 機器やファイルなどに書き出すことができます。［出力］ウィンドウが起動しますので、出力先を選択してください。選択した出力パネルが起動します。(P159)

F. カレントバー（編集トラック上の赤いライン）

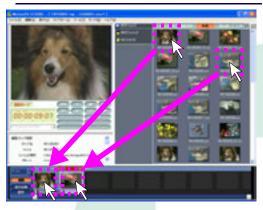
再生中の画像の位置を表示します。

ノート

• 編集トラック上でクリップの最小フレーム数は、MPEG2 ファイルの場合 30 フレーム、AVI 、静止画ファイルの場合 5 フレームです。

クリップを編集トラックに配置する

映像を編集するには、編集トラックに配置する必要があります。

1. 配置したいクリップを編集トラックにドラッグ・アンド・ドロップする

- ビデオクリップを配置するとビデオマーク［ ］が付きます。
- 静止画クリップを配置すると静止画マーク［ ］が付きます。（初期設定では約 5 秒間の静止画映像になります。(P49) 手順 2 の G で設定した時間の静止画クリップとなります）
  ビデオクリップのように特殊効果を加えたり動画編集に使用できます。
- ドラッグ・アンド・ドロップとはマウスの左ボタンを押してファイルを選択し、押したまま任意の位置まで移動し（ドラッグ）そこで左ボタンを放す（ドロップ）ことです。

MPEG2 のビデオクリップについて

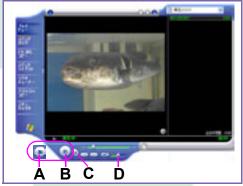
- MPEG2 のビデオクリップを編集トラックにドラッグ・アンド・ドロップすると、［ただいま処理中です。しばらくお待ちください。］の表示がされてから編集トラックに配置されます。

ノート

- この操作の前に入力モードやタイトルエディターモードでクリップを作っておきます。
- 編集トラック上でクリップの最小フレーム数は、MPEG2 ファイルの場合 30 フレーム、AVI 、静止画ファイルの場合 5 フレームです。

■ ビデオクリップの内容を確認したいときは

ライブラリーのビデオクリップのサムネイルをダブルクリックすると Windows Media Player などビデオクリップのファイル形式に対応したソフトウェアーが起動し、ビデオクリップを再生します。

Windows Media Player について

A. 再生
B. 一時停止
C. 停止
D. 音量調整

- Windows Media Player の詳しい操作については Windows Media Player のヘルプをご参照ください。
- Windows Media Player を終了するには Windows Media Player の［ファイル］>> ［終了］を選びます。

クリップの順序を変更する

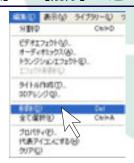
編集トラックに配置したクリップの順序を変更することができます。

1. 順序を変更するクリップを選びドラッグ・アンド・ドロップで任意の場所に移動する

- ドラッグ中、カーソルの付近にクリップと同色のラインが挿入場所として表示されますので、位置を確認してドロップしてください。

クリップを削除する

不必要なクリップを編集トラックから削除することができます。

1. 削除するクリップを選びメニューの［編集］>>［削除］を選ぶ

- 削除されたクリップより後ろのクリップはつめて配置されます。
- クリップを選んだあと、キーボードの［Delete］キーを押しても削除できます。
- クリップを右クリックして、コンテキストメニューから［削除］を選んでも削除できます。

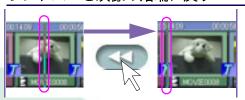
クリップをすべて削除したいときは

メニューの［編集］>>［クリア］を選びます。

- この操作では編集トラックから編集情報が削除されるだけです。クリップがライブラリーから削除されるわけではありません。

編集内容を再生する

編集内容を再生し、確認することができます。

1. 戻しボタン［◀◀］をクリックしてカレントバーを映像の始端に戻す

- クリックするごとに1つ前のクリップの開始点に戻ります。
- カレントバー（赤いライン）を直接ドラッグ・アンド・ドロップして先頭まで戻すこともできます。

- 操作ボタンについては P63 をご覧ください。

2. 再生ボタン［▶］をクリックする

カレントバー（赤いライン）が編集トラック上を動き、映像を再生します。

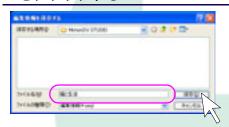
ヒント

- カレントバーをドラッグ・アンド・ドロップすると移動先のクリップの静止画がプレビュー表示部に表示されます。そこから再生させることもできます。
- クリップの任意の位置をクリックすると、カレントバーがその位置に移動しますので、そこから再生させることもできます。
- 編集トラックを再生しているときに、再生画像から静止画クリップを取り込むこともできます。再生しているときにスナップショットと同じ手順で取り込んでください。(P49)

編集内容を保存する

編集情報は保存しておくことができます。
こまめに保存しておくことをおすすめします。

1. メニューの［ファイル］**>>**［編集情報］**>>**［編集情報を名前を付けて保存］を選ぶ

2. ファイル名を入力して、［保存］ボタンをクリックする

編集情報が保存され、ライブラリーに編集情報が表示されます。
- 編集情報の保存場所は MotionDV STUDIO でクリップを保存しているフォルダーを使用してください。
- 編集情報ファイルの拡張子は .seq です。

■ 保存した編集情報を開くときは

ライブラリー画面の［編集情報］をクリックし、編集情報ファイルをダブルクリックすると編集トラックに配置されます。

編集情報のアイコンを変更するには

編集情報のアイコンは変更することができます。

1. アイコンを変更したい編集情報を開く

2. 編集情報ファイルのアイコンにしたい映像のところでカレントバーを静止させ、［分割］ボタンをクリックする

編集トラックに分割した場面のクリップが追加されます。

3. 分割した場面のクリップをダブルクリックする

4. ［代表アイコンにする］ボタンをクリックしてから［**OK**］ボタンをクリックする

5. メニューの［ファイル］**>>**［編集情報］**>>**［編集情報を上書き保存］をクリックする

編集情報ファイルのアイコンが変更されます。

ヒント

- 編集トラックの、任意の映像のアイコンをダブルクリックし、［代表アイコンにする］ボタンをクリックしてもアイコンを変更できます。（編集情報の上書き保存が必要です）

クリップをトリミングする

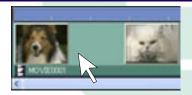
編集トラックに配置したビデオクリップ、静止画クリップの前後の不要な部分をカットすることができます。

- この操作の時は編集トラックを時間軸表示にすると便利です。

■ マークイン / マークアウトを使ってトリミングする

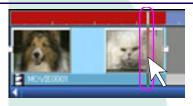
1. 編集トラックの時間設定ボタン［▲］［▼］をクリックして、時間軸スケールを調整する

- クリップが適度な大きさに表示されるよう調整します。

2. トリミングしたいクリップを選ぶ

3. クリップの開始点にしたいところをクリックして、カレントバー（赤いライン）を移動させる

4.［マークイン］ボタンをクリックする

設定した開始点より前の映像がカットされます。

5. 終了点にしたいところをクリックして、カレントバー（赤いライン）を移動させる

6.［マークアウト］ボタンをクリックする

設定した終了点より後の映像がカットされます。

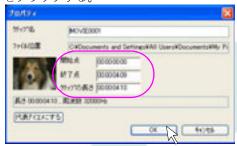
■ トリミングマークを使ってトリミングする

クリップの両端のトリミングマーク［ ］をドラッグして、不要な部分をカットする

- カーソルをトリミングマーク［ ］に近づけ、カーソルが移動モード［ ］に変わったらドラッグして調整します。
- シーンの最初をカットしたいときは左のトリミングマークを右にドラッグします。シーンの最後をカットしたいときは右のトリミングマークを左にドラッグします。

• クリップの長さが短かすぎるとプレビュー映像が表示されないことがあります。

■ タイムコードを直接入力してトリミングする

トリミングしたいクリップをダブルクリックし、開始点・終了点を入力して［OK］ボタンをクリックする。

• ビデオクリップ（動画）の設定は取り込み時の長さ、終了点を超えることはできません。
• 静止画クリップの開始点は変更することができません。

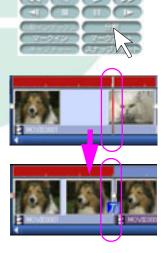
クリップを分割する

編集トラックに配置したビデオクリップ、静止画クリップを分割します。分割すると、クリップの一部に特殊効果を使ったり、クリップの途中で別の映像を入れることができます。

1. クリップを編集トラックに配置する

2. 編集トラックのクリップを再生し、分割したいところで一時停止ボタンをクリックする

• カレントバー（赤いライン）をドラッグして分割したいところで静止させることもできます。

3. ［分割］ボタンをクリックする

クリップがカレントバー（赤いライン）のところで 2 分割されます。

• ライブラリーのクリップが2 つになるわけではありません。

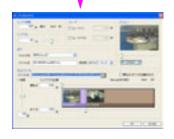
音声を追加する（オーディオミックス）

WAV ファイル（音声ファイル）をビデオクリップ、静止画クリップに追加して音声を入れます。

- オーディオミックスで作られるビデオクリップは AVI か MPEG2 形式です。設定モードの［高度設定］(P214) で設定することができます。
- ビデオクリップ、静止画クリップを編集トラックに配置しておいてください。

1. オーディオミックスに使う WAV ファイルをライブラリーに保存する

2. ライブラリーの［オーディオ］をクリックする

3. WAV ファイルを、音声を入れるクリップにドラッグ・アンド・ドロップする

- オーディオミックス画面が表示されます。ドラッグ・アンド・ドロップしたクリップだけに音が入るように開始点、終了点が設定されています。（開始点、終了点は直接入力して変更できます）
- オーディオライブラリーにあるオーディオサンプル（.mbm）もオーディオミックスに使用することができます。

4. WAV ファイルの使用する部分を指定する

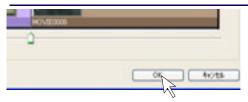
開始点の設定
トラック上部のスライダーをドラッグ
終了点の設定
トラック下部のスライダーをドラッグ
長さを変えないときは
［開始点・終了点を連動させる］をチェックしてから開始点と終了点を設定

5. 音量スライダーを使って音声を調整する

- 音量は 0.06 ～ 16 倍の間で選択します。

6. プレビュー部の再生ボタン［▶］をクリックして音声を確認する

- プレビュー部の停止ボタン［■］をクリックすると最初に戻ります。

7.［OK］ボタンをクリックする

レンダリングが始まります。

- レンダリング時間の目安は設定した時間の約 1 ～ 3 倍です。（時間はパソコンによって異なります）
- レンダリングが終了すると、オーディオミックスのビデオクリップ（右下に音符マーク［ ］表示）が追加されます。
- オーディオミックスされたビデオクリップはライブラリーにも表示されます。

■ 追加した音声を削除するには

ビデオクリップ右下の音符マーク［ ］を右クリックして、［オーディオミックス削除］を選びます。

- ライブラリーからはオーディオミックスのビデオクリップは削除されません。

ヒント

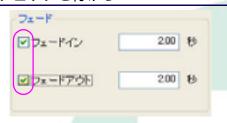
- 編集トラックのビデオクリップもしくは静止画クリップをクリックし、メニューの［編集］>>［オーディオミックス］を選んでオーディミックス画面を表示させると、WAV ファイルだけでなく AVI ファイルの音声を追加することもできます。ファイル名に AVI ファイルのパス（場所）と名前を入力します。
- オーディオライブラリーには Panasonic の BGM ジェネレーター（SY-VM1）で作成されたオーディオサンプル（.mbm）が入っています。オーディオサンプルの利用条件などはメニューの［ヘルプ］>>［オンライン］>>［サンプルオーディオについて］をお読みください。

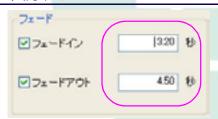
- 静止画クリップにも音声を追加することができます。出力するとビデオクリップに変換されます。
- 開始点、終了点の設定により、複数のクリップに音声を追加できます。詳しくは「Q & A」（オーディオミックスがうまくいかない）(P234) をお読みください。
- フェード (P74)、ミックス比 (P74)、出力音声 (P75) の設定については各項目をお読みください。
- オーディオミックスにおいて、ミックス時間と開始点、終了点の差に誤差が生じる場合がありますが、表示上の問題であり、処理には影響いたしません。

追加音声にフェードをかける

追加する音声にフェード効果をかけます。

- WAV　ファイルをビデオクリップもしくは静止画クリップにドラッグ・アンド・ドロップして、オーディオミックス画面を表示させておいてください (P72)

1. フェードイン / フェードアウトにチェックを付ける

フェードイン
ミックス音声が徐々に大きくなりながら始まります。
フェードアウト
ミックス音声が徐々に消えていき、終わります。

2. フェードイン / フェードアウトの時間を入力する

3. その他の設定後［OK］ボタンをクリックする

レンダリングが始まります。

- 音声はクロスフェード（もとの音声が消えながら新しい音声が入ること）します。

もとの音声と追加する音声の割合を設定する

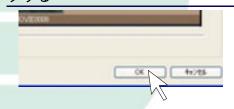
クリップの音声と追加音声（WAV ファイル）の割合（ミックス比）を設定します。

- WAV　ファイルをビデオクリップもしくは静止画クリップにドラッグ・アンド・ドロップして、オーディオミックス画面を表示させておいてください

1. ［ミックス比］設定部のスライダー をドラッグして音声の割合を設定する

もとの音声の割合を増やすには
左にドラッグする
追加する音声の割合を増やすには
右にドラッグする

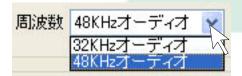
- 100% にするともとの音声は消え、0% にすると追加音声が消えます。

2. その他の設定後［OK］ボタンをクリックする

レンダリングが始まります。

出力時の音声を設定する

テープに記録するときの音声形式を選びます。

- WAV　ファイルをビデオクリップもしくは静止画クリップにドラッグ・アンド・ドロップして、オーディオミックス画面を表示させておいてください。

1. [出力] 設定部のプルダウンボタン [ ] をクリックしてデジタルビデオ機器に記録するときの音声形式を選ぶ

異なる音声形式を 1 つの音声形式にそろえることができます。

[32KHz オーディオ]
32 kHz で記録します。デジタルビデオ機器側で別の音声を追加（アフレコ）することができます。
[48KHz オーディオ]
48 kHz で記録します。

クリップにエフェクトを入れる

ビデオクリップ、静止画クリップに入れるエフェクトを MotionDV STUDIO では［ビデオエフェクト］と呼びます。

ビデオエフェクトの種類

■ フェードイン

映像が徐々に現れます。
• ［詳細設定］で映像が現れるまでの時間や現れる前の画面の色を変更することができます。（音声もフェードインします）

■ フェードアウト

映像が徐々に消えていきます。
• ［詳細設定］で映像が消えるまでの時間や消えたあとの画面の色を変更することができます。（音声もフェードアウトします）

■ モザイク

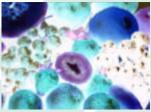
映像にモザイクがかかります。
• ［詳細設定］でモザイクのブロックサイズを変更することができます。

■ ストロボ

コマ送りのような映像になります。
• ［詳細設定］でストロボの間隔を変更することができます。

■ アート

絵画のような映像になります。

■ ネガポジ

写真のネガフィルムのような映像になります。

■ モノトーン

映像が白黒になります。

■ セピア

映像が古い写真のようなセピア色になります。

■ スロー

映像のスピードがゆっくりになります。

• [詳細設定] でスロー倍率を変更することができます。（音声は消えます）

■ ミラー

鏡に映したような逆向きの映像になります。

■ 明るさ

映像の明るさを調節できます。

• [詳細設定] で明るさを変更することができます。

ビデオエフェクトの入れかた

- ビデオエフェクトで作られるビデオクリップは AVI か MPEG2 形式です。設定モードの［高度設定］(P214) で設定することができます。
- この操作の前にビデオクリップ、静止画クリップを編集トラックに配置しておいてください。

1. エフェクトを入れたいクリップを選ぶ

2. メニューの［編集］>>［ビデオエフェクト］を選ぶ

3. エフェクトの種類を選ぶ

4.［詳細設定］を設定する

- エフェクトによっては、詳細設定が必要ないものもあります。

詳細設定が必要なもの
フェードインの時間の設定 (P80)
フェードアウトの時間の設定 (P81)
モザイクのブロックサイズの設定 (P82)
ストロボの間隔の設定 (P83)
スローの倍率の設定 (P84)
明るさの設定 (P85)

5. プレビュー部のスライダーをゆっくりとドラッグして効果を確認する

6.［OK］ボタンをクリックする

レンダリング（特殊効果を入れて 1 つのビデオクリップを作ること）が始まります。

- レンダリングの時間のめやすはそれぞれで設定した効果の時間の約 10 〜 20 倍です。(時間はパソコンによって異なります)

- レンダリングが完了すると、編集トラックのビデオクリップ右上部にエフェクトマーク（EF）が付きます。

■ ビデオエフェクトを削除するときは

ビデオクリップ右上のマーク［EF］を右クリックして、［エフェクト削除］を選びます。

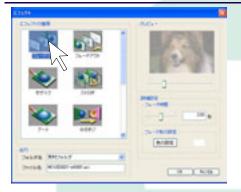
- ライブラリーからはビデオエフェクトのビデオクリップは削除されません。

ノート

- フェード効果以外は選んだクリップ全体に特殊効果が入ります。
- レンダリングすると元の画像とは別に特殊効果のビデオクリップが作られます。
- ビデオクリップの保存場所やファイル名を変更したい場合はレンダリング前に、任意のパスやファイル名を入力しておきます。特殊効果のビデオクリップはライブラリーにも表示されます。
- 静止画クリップにもビデオエフェクトを使うことができます。出力するとビデオクリップに変換されます。
- クリップの一部に特殊効果を入れたいときは、最初にクリップを分割 (P71) しておいてください。
- レンダリングには時間がかかります。その間パソコンを操作しないようにしてください。
- EF は EFfect の略です。

詳細設定

フェードインの時間の設定
映像が現れるまでの時間を設定します。（音声もフェードします）
この操作の前に、フェード効果を入れたいビデオクリップ、静止画クリップを編集トラックに配置しておいてください。

1. エフェクトを入れたいクリップを選び、エフェクト画面を表示させ、[フェードイン]ボタンをクリックする

2. [フェード時間] スライダーでフェード時間を設定する

指定した時間が表示されます。
- フェード時間は直接入力できますが、クリップの長さを超えた設定はできません。

3. [色の設定] ボタンをクリックし、任意の色を選び、[OK] ボタンをクリックする

選んだ色が最初の画面の色になります。

4. プレビュー部のスライダーをゆっくりとドラッグして効果を確認する

プレビュー部のスライダーを右方向にゆっくりドラッグすると、フェード効果が確認できます。

5. [OK] ボタンをクリックする

レンダリング（特殊効果を入れて 1 つのビデオクリップを作ること）が始まります。

レンダリングが完了すると、フェードイン効果のビデオクリップが作られます。

フェードアウトの時間の設定
映像が消えるまでの時間を設定します。（音声もフェードします）
この操作の前に、フェード効果を入れたいビデオクリップ、静止画クリップを編集トラックに配置しておいてください。

1. エフェクトを入れたいクリップを選び、エフェクト画面を表示させ、［フェードアウト］ボタンをクリックする

2. ［フェード時間］スライダーでフェード時間を設定する

指定した時間が表示されます。
- フェード時間は直接入力できますが、クリップの長さを超えた設定はできません。

3. ［色の設定］ボタンをクリックし、任意の色を選び、［OK］ボタンをクリックする

選んだ色がフェードアウト時の色になります。

4. プレビュー部のスライダーをゆっくりとドラッグして効果を確認する

プレビュー部のスライダーを右方向にゆっくりドラッグすると、フェード効果が確認できます。

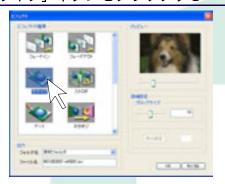
5. ［OK］ボタンをクリックする

レンダリング（特殊効果を入れて 1 つのビデオクリップを作ること）が始まります。

レンダリングが完了すると、フェードアウト効果のビデオクリップが作られます。

モザイクのブロックサイズの設定
モザイクのブロックサイズを変更し、モザイク画像を調整します。

- この操作の前に、モザイク映像にしたいビデオクリップ、静止画クリップを編集トラックに配置しておいてください。

1. エフェクトを入れたいクリップを選び、エフェクト画面を表示させ、［モザイク］ボタンをクリックする

2. ［ブロックサイズ］スライダーでブロックサイズを設定する

- ブロックサイズは直接入力することもできます。(2 ～ 32 までの整数を入力してください)

3. プレビュー画面で確認する。

4. ［OK］ボタンをクリックする

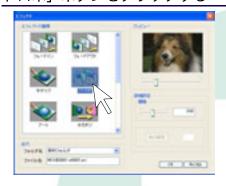
レンダリング（特殊効果を入れて 1 つのビデオクリップを作ること）が始まります。

レンダリングが完了すると、モザイク効果のビデオクリップが作られます。

ストロボの間隔の設定

ストロボの間隔を変更します。

- この操作の前に、ストロボ効果を入れたいビデオクリップ、静止画クリップを編集トラックに配置しておいてください。

1. エフェクトを入れたいクリップを選び、エフェクト画面を表示させ、［ストロボ］ボタンをクリックする

2. ［間隔］スライダーでストロボ間隔を設定する

- ストロボ間隔は直接入力することもできます。(0.1 ～ 1.0 までの値を入力してください)

3. プレビュー画面で確認する

4. ［OK］ボタンをクリックする

レンダリング（特殊効果を入れて 1 つのビデオクリップを作ること）が始まります。

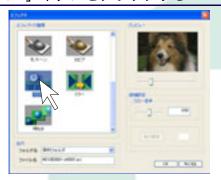
レンダリングが完了すると、ストロボ効果のビデオクリップが作られます。

スローの倍率の設定
スロー効果を使い、クリップのスピードをゆっくりにします。

- この操作の前に、スロー効果を入れたいビデオクリップ、静止画クリップを編集トラックに配置しておいてください。
- スロー効果を入れると音声は消えます。

1. スロー効果を入れたいクリップを選び、エフェクト画面を表示させ、［スロー］ボタンをクリックする

2. ［スロー倍率］スライダーでスロー倍率を設定する

- スロー倍率は直接入力することもできます。（0.10 ～ 0.90 までの値を入力してください）

3. プレビュー画面で確認する

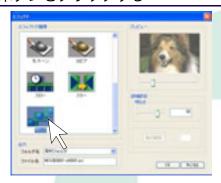
4. ［OK］ボタンをクリックする

レンダリング（特殊効果を入れて 1 つのビデオクリップを作ること）が始まります。

レンダリングが完了すると、スロー効果のビデオクリップが作られます。

明るさの設定
映像の明るさを調整します。

- この操作の前に、明るさを調整したいビデオクリップ、静止画クリップを編集トラックに配置しておいてください。

1. 明るさを調整したいクリップを選び、エフェクト画面を表示させ、[明るさ] ボタンをクリックする

2. [明るさ] スライダーで明るさを設定する

- 明るさの数値は直接入力することもできます。(-100 ～ 100 までの値を入力してください)

3. プレビュー画面で確認する。

4. [OK] ボタンをクリックする

レンダリング（特殊効果を入れて 1 つのビデオクリップを作ること）が始まります。

レンダリングが完了すると、映像の明るさが調整されたビデオクリップが作られます。

クリップとクリップの間にエフェクトを入れる

クリップ（ビデオクリップ、静止画クリップ）が変わるところにエフェクトを入れます。MotionDV STUDIO では「トランジションエフェクト」と呼びます。

トランジションエフェクトの種類

■ ミックス

画面が重なりながら次の画面が現れます。

■ ワイプ

カーテンを引くように次の画面へ変わります。

■ スライド

もとの画面がスライドしながら次の画面に変わります。

■ ストレッチ

もとの画面が縮みながら次の画面に変わります。

■ 両スライド

2 つの画面がスライドしながら次の画面に変わります。

■ 両ストレッチ

もとの画面は縮み、次の画面がのびながら現れます。

■ ドア - ワイプ

中央からカーテンを引くように次の画面に変わります。

■ ドア - スライド

中央でドアが左右に開くように次の画面に変わります。

■ ドア - スライド - ストレッチ

もとの画面の中央が割れて両側が縮みながら次の画面に変わります。

■ ドア - センター - ストレッチ

もとの画面の中央が割れて次の画面が左右にのびてきて画面が変わります。

■ ボックスワイプ

もとの画面の中心から四隅に向かって次の画面が現れます。

■ ズーム

中心から四隅へ拡大しながら次の画面が現れます。

■ ページ（左下）

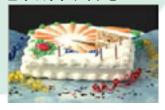
左下からページをめくるように次の画面に変わります。

■ ページ（左上）

左上からページをめくるように次の画面に変わります。

■ クロックワイプ 1

時計の針が動くように画面がワイプして次の画面が現れます。

■ クロックワイプ 2

扇が広がるように画面がワイプして次の画面が現れます。

■ クロスワイプ

クロックワイプ2が上下部同時に起こって次の画面が現れます。

■ コーナーワイプ

次の画面が左上隅から他の三隅に向かって現れます。

■ コーナースライド

次の画面が左上から右下に向かってスライドしながら現れます。

■ コーナーズーム

次の画面が左上から右下に向かって拡大しながら現れます。

■ コーナー両スライド

2 つの画面が左上から右下に向かってスライドしながら次の画面へ変わります。

■ コーナー両ズーム

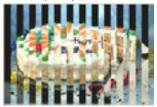
元の画面は縮み、次の画面が拡大しながら右下に向かって現れます。

■ ラインワイプ

上から下に太線で塗りつぶしていくように次の画面に変わります。

■ マルチコーナー

36 画面に分割され、それぞれコーナーワイプしながら画面が次の画面に変わります。

■ マルチワイプ 1

画面が線状に縦に分割され、それぞれがワイプしながら次の画面に変わります。

■ マルチワイプ 2

画面が線状に縦に分割され、左からそれぞれがワイプして次の画面が変わります。

■ フリップ

もとの画面が裏返るようにして次の画面へ変わります。

■ モザイク

画面がモザイクになって次の画面へ変わります。

■ ブラインド 1

画面が線状に横に分割され、それぞれがワイプしながら次の画面に変わります。

■ ブラインド 2

画面が線状に横に分割され、上からそれぞれがワイプしながら次の画面に変わります

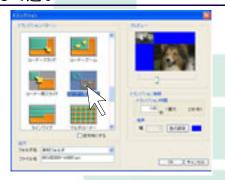
■ スピン

もとの画面が中心に向かって回転しながら縮小していき次の画面へ変わります。

トランジションエフェクトの入れかた

- トランジションエフェクトを入れたときに作られるビデオクリップはAVIかMPEG2形式です。設定モードの［高度設定］(P214)で設定することができます。
- この操作の前にビデオクリップ、静止画クリップを編集トラックに配置しておいてください。

1. エフェクトを入れたい場面の[T]マークをダブルクリックする

2. トランジションパターンをクリックして選ぶ

- 効果を逆方向に設定できるパターンは［逆方向にする］をチェックするとシーンの変わり方が逆になります。

3. エフェクトを適用する時間を［トランジション時間］ボックスに入力する

- 最大値を超えて設定することはできません。

4. 境界の幅を入力する

- 選んだパターンによっては境界線が設定できなかったり、設定できる境界の幅に制限があります。

5. ［色の設定］ボタンをクリックする

6. 境界の色を設定して［OK］ボタンをクリックする

- 選んだパターンによっては選択できない項目があります。

7. プレビュー部のスライダーをゆっくりとドラッグして効果を確認する

8. ［OK］ボタンをクリックする

レンダリングが始まります。

- レンダリングが終了すると、トランジションエフェクトのビデオクリップ（左上に［TR］表示）が追加されます。

■ トランジションエフェクトを削除するときは

ビデオクリップ左上の［TR］マークを右クリックして、［トランジション削除］を選びます。

- ライブラリーからはトランジションエフェクトのビデオクリップは削除されません。

ヒント

- トランジションエフェクトのビデオクリップはライブラリーにも表示されます。
- TR は TRansition effect の略です。
- 静止画クリップにもトランジションエフェクトを使うことができます。出力するとビデオクリップに変換されます。

ハイブリッド編集モード：

ハイブリッド編集モードでは2種類の編集をおこなうことができます。

■ リニア編集

リニア編集とは 2 台のデジタルビデオ機器を使って、映像をダビングしながらつないでいく方法です。パソコンから2台のデジタルビデオ機器をコントロールし、自動的に編集できます。

ハードディスク容量を気にせず編集できるので長時間の映像を編集するときに便利です。

■ ハイブリッド編集

ハイブリッド編集とはノンリニア編集とリニア編集を組み合わせた編集です。

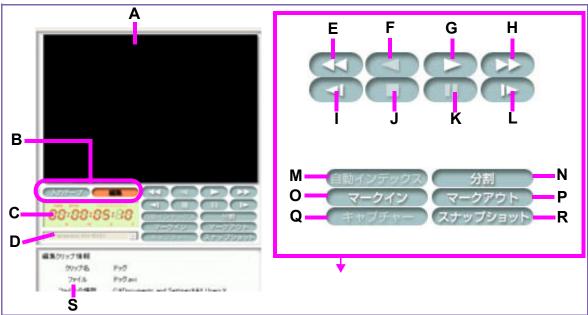
ノンリニア編集(P62)でエフェクトの入った映像（ビデオクリップ）を作っておくと、リニア編集時にそのビデオクリップが挿入できます。長時間の映像にはリニア編集、シーンが変わるところやタイトルを入れるシーンではノンリニア編集と使い分けられます。

• リニア編集、ハイブリッド編集をおこなうには再生機、出力機の 2 台のデジタルビデオ機器をパソコンに接続する必要があります。

ハイブリッド編集モードの画面構成

ハイブリッド編集モードはコントロール画面（❶）、ライブラリー画面（❷）、入力テープトラック画面（❸）と編集トラック画面（❹）の 4 つの画面から構成されています。

❶ コントロール画面

接続機器やパソコン上の画像・音声データをコントロールします。

A. プレビュー表示部

再生中の映像が表示されます。
［表示］メニューの［プレビューサイズ］でプレビューサイズの変更ができます。

B. 入力 / 編集選択部

入力モードと編集モードの切り換えをします。

［入力テープ］ボタン

クリックすると点灯して接続機器から画像を入力するモードに切り換わります。このとき、操作部の各ボタン（**E.** ～ **R.**）の機能は DV 機器入力モード **(P38)** と同じになります。

［編集］ボタン

クリックすると点灯して編集モードに切り換わります。このとき、操作部の各ボタン（**E.** ～ **R.**）の機能はノンリニア編集モード **(P63)** と同じになります。

C. タイムコード表示部

再生中の映像のタイムコードが表示されます。

D. 入力機器表示部

映像を入力する機器を表示・選択します。

E. ～ **R.** 各ボタン

入力モードのとき **P38** をご覧ください。

編集モードのとき **P63** をご覧ください。

S. テープ / 編集クリップ情報表示部

入力テープトラックや編集トラック上で選択したクリップについての情報が表示されます。
プレビュー表示部のサイズやパソコン画面の解像度によって、情報表示部が現れたり現れなかったりします。

ホイールマウスについて

入力モードのとき

- 再生時にホイール（スクロール）ボタンを回すと映像がスロー再生に、一時停止時にはコマ送りに、停止時には一時停止状態になります。

下（手前）に回す：
　停止時には映像が一時停止状態になります。
　一時停止時には映像が 1 コマ（フレーム）進みます。
　再生時には映像がスロー再生になります。
上（外側）に回す：
　停止時には映像が一時停止状態になります。
　一時停止時には映像が 1 コマ（フレーム）戻ります。
　再生時には映像が逆スロー再生になります。
（ホイールマウスの形状によって動かす方向は変わります）

編集モードのとき
• 再生時や停止時、一時停止時にホイール（スクロール）ボタンを回すと映像がコマ送りになります。

下（手前）に回す：
　映像が 1 コマ（フレーム）進みます。
上（外側）に回す：
　映像が 1 コマ（フレーム）戻ります。
（ホイールマウスの形状によって動かす方向は変わります）

ノート

• 入力モードのとき接続機器によっては、ホイールボタンを回しても、その機器の動作により、画像がスムーズに動かない場合があります。また、入力モード時は編集モード時ほどなめらかな動きにはなりません
• デジタルビデオカメラを再生中に、マウスカーソルをプレビュー画面の上に持っていくとピンク色の影が表示されることがありますが、動作に影響はありません。

❷ ライブラリー画面
ハードディスクに登録しているデータをMotionDV STUDIOで閲覧できます。

A. 選択フォルダー
ライブラリーとして閲覧できるディレクトリーを表示します。デフォルトフォルダーとして［素材フォルダ］が作成されていますが、任意のディレクトリーの任意のフォルダーを追加・作成することができます。

B. ライブラリー選択部
クリックして登録しているデータの種類を選択できます。

［テープライブラリ］
選択フォルダー内の入力テープトラックの情報を保存したファイル（TAP ファイル）を表示します。

［編集情報］
選択フォルダー内の編集トラックの情報を保存したファイル（SEQ ファイル）を表示します。

［動画］
選択フォルダー内の DV 圧縮の AVI ファイル（AVI ファイル）と MPEG2 圧縮ファイル（MPEG ファイル）を表示します。

- TVfunSTUDIO で番組表を利用して録画されたデータは、番組タイトル情報が表示されます。

［静止画］
選択フォルダー内の静止画ファイル（BMP/JPEG/TIFF/PNG ファイル）を表示します。

［タイトル］
タイトルエディターモードで作成したタイトルファイル（TTE ファイル）のみを表示します。

［オーディオ］
選択フォルダー内の音声ファイル（WAV ファイル）を表示します。

［Mpeg1/Asf］
選択フォルダー内の MPEG1 形式のファイル（MPEG ファイル）/ASF 形式のファイル（ASF ファイル）を表示します。

C. サムネイル表示部
選択されているフォルダー内のサムネイルが表示されます。

ヒントとお願い

- ライブラリーへ別のフォルダーを新たに追加できます。作成方法は DV 機器入力モード と同じです。(P59)
- サムネイル表示部では、「アイコンの表示範囲を広くする」、「表示順位を変更する」、「アイコンの名称を変更する」、「ファイルの削除をする」などの操作をすることができます。方法はタイトルエディターのライブラリーと同じです。(P152),(P153)
- ファイルの削除などを行ったあと、ライブラリーの表示が変わらないときは、メニューの［ライブラリー］>>［最新の情報に更新］を選んでください。
- ファイル形式については用語解説ページをご覧ください。(P245)

❸ 入力テープトラック画面

外部機器のテープに入っているテープ情報が表示されます。

• 時間軸表示とアイコン表示の 2 種類の表示方法があり、お好みの表示方法を選ぶことができます。

A. タイムコード表示

B. 時間軸スケール表示部

時間設定ボタン［▲］［▼］をクリックして、入力テープトラックに表示できる時間幅を調整します。
（min= 分、sec= 秒、frames= フレーム）

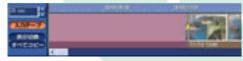
C.［入力テープ］ボタン

クリックすると点灯して接続機器から画像を入力するモードに切り換わります。このとき、操作部の各ボタンの機能は DV 機器入力モードと同じになります。

D.［表示切換］ボタン

クリックするごとに入力テープトラックの表示を切り換えます。

時間軸表示

テープの映像情報が時間の長さに比例して表示されます。

アイコン表示

テープの映像情報がインデックスごとにすべて同じ大きさのアイコンで表示されます。

E.［すべてコピー］ボタン

入力テープの映像をすべて編集トラックにコピーします。

F. カレントバー（入力テープトラック上の赤いライン）

再生中のテープ位置を表示します。

❹ 編集トラック画面

編集したいクリップをこの画面に配置して、編集していきます。

• 時間軸表示とアイコン表示の 2 種類の表示方法があり、お好みの表示方法を選ぶことができます。

A. タイムコード表示

B. 時間軸スケール表示部

時間設定ボタン［▲］［▼］をクリックして、編集トラックに表示できる時間幅を調整します。
（min= 分、sec= 秒、frames= フレーム）

C.［編集］ボタン

クリックすると点灯して編集モードに切り換わります。

D.［表示切換］ボタン

クリックするごとに編集トラックの表示を切り換えます。

時間軸表示

編集トラックの映像情報が時間の長さに比例して表示されます。

アイコン表示

編集トラックの映像情報がインデックスごとにすべて同じ大きさのアイコンで表示されます。

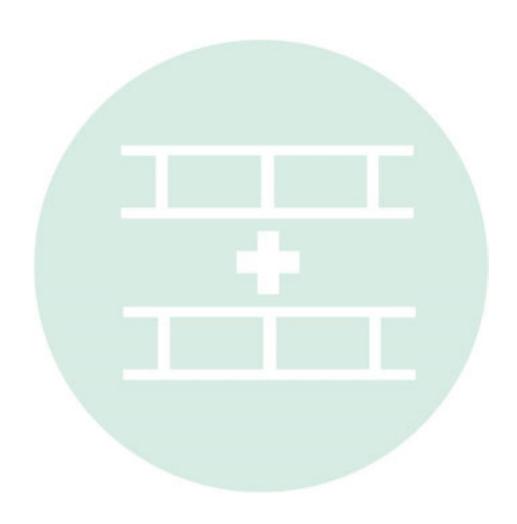
E.［出力］ボタン

編集トラックのデータを DV 機器やファイルなどに書き出すことができます。［出力］ウィンドウが起動しますので、出力先を選択してください。選択した出力パネルが起動します。(P159)

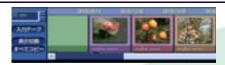
F. カレントバー（編集トラック上の赤いライン）

編集トラックの再生中の位置を表示します。

ノート

- 編集トラック上でクリップの最小フレーム数は、MPEG2 ファイルの場合 30 フレーム、AVI 、静止画ファイルの場合 5 フレームです。

リニア編集する

- 編集を始める前に 2 台のデジタルビデオ機器を接続し (P16)、入力機器を選択しておいてください (P93)。

1. 編集したいテープ情報を入力テープトラックに表示させる

- ハイブリッド編集モードのままで「インデックス取り込み (P44)」のインデックスをつける手順や「範囲指定取り込み (P42)」の取り込み開始点（マークイン）/ 終了点（マークアウト）をつける手順を使って入力テープトラックに編集したいテープクリップを表示させることができます。
- テープライブラリーのテープ情報を使用してもテープクリップを表示させることができます。(P51)

2. 入力テープトラックから必要なテープクリップを編集トラックにドラッグ・アンド・ドロップする

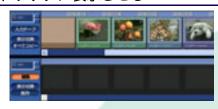
- 配置された順番で編集されます。
- 配置後に順番を入れかえることもできます。

ノート

- この編集にはパソコンに DV（IEEE1394）端子が 2 つ必要になります。
- 編集トラックにテープクリップが配置されている場合、ファイル出力 (P168)、D-VHS 出力 (P182)、ビデオメール (P189)、対応書込みアプリケーションへの出力 (P195)(P202) はできません。
- 編集トラック上のテープクリップはプレビュー画面で確認することができません。
- 編集トラック上でクリップの最小フレーム数は、MPEG2 ファイルの場合 30 フレーム、AVI 、静止画ファイルの場合 5 フレームです。
- 入力機器でテープの再生を開始したときに、入力テープトラックから編集トラックへ切り換えを行うと、一部のボタン表示が更新されないことがあります。この場合、再度入力テープトラックから編集トラックへ切り換えを行ってください。

ハイブリッド編集する

- 編集を始める前に 2 台のデジタルビデオ機器を接続し (P16)、入力機器を選択しておいてください (P93)。

1. 編集したいテープ情報を入力テープトラックに表示させる

- ハイブリッド編集モードのままで「インデックス取り込み (P44)」のインデックスをつける手順や「範囲指定取り込み (P42)」の取り込み開始点（マークイン）/ 終了点（マークアウト）をつける手順を使って入力テープトラックに編集したいテープクリップを表示させることができます。
- テープライブラリーのテープ情報を使用してもテープクリップを表示させることができます。(P51)

2. 入力テープトラックのテープクリップやライブラリーのクリップを編集トラックにドラッグ・アンド・ドロップする

- 配置後に順番を入れかえることもできます。
- テープクリップを配置するとテープマーク［ ］が付きます。
- ビデオクリップを配置するとビデオマーク［ ］が付きます。
- 静止画クリップを配置すると静止画マーク［ ］が付きます。（初期設定では約 5 秒間の静止画映像になります。違う長さの静止画像として編集トラックに配置したいときは「スナップショット」(P49) の手順 2 の G で設定しておいてください）

ノート

- 入力機器でテープの再生を開始したときに、入力テープトラックから編集トラックへ切り換えを行うと、一部のボタン表示が更新されないことがあります。この場合、再度入力テープトラックから編集トラックへ切り換えを行ってください。

MPEG2 のビデオクリップについて

- MPEG2 のビデオクリップを編集トラックにドラッグ・アンド・ドロップすると、[ただいま処理中です。しばらくお待ちください。] の表示がされてから編集トラックに配置されます。

ノート

- この編集をするには DV（IEEE1394）端子が 2 つ必要になります。
- この操作の前にノンリニア編集やタイトルエディターモードでクリップを作っておきます。
- テープクリップには特殊効果は使えません。
- 編集トラック上のテープクリップから［スナップショット］ボタンで静止画クリップを取り込むことはできません。
- 編集トラックにテープクリップが配置されている場合、ファイル出力 (P168)、D-VHS 出力 (P182)、ビデオメール出力 (P189)、対応書込みアプリケーションへの出力 (P195)(P202) はできません。
- 編集トラック上のテープクリップはプレビュー画面で確認することができません。
- 編集トラック上でクリップの最小フレーム数は、MPEG2 ファイルの場合 30 フレーム、AVI 、静止画ファイルの場合 5 フレームです。

テープラベルの印刷

印刷内容を表示する

入力テープトラックや編集トラックの内容をもとに DV や VHS のテープラベルを印刷できます。まず印刷する前にどのように印刷されるかを画面上で確認します。

入力テープトラックの内容および情報を印刷する場合

1. メニューの［ファイル］>>［印刷プレビュー］>>［テープ情報印刷プレビュー］を選ぶ

- 編集トラックの内容および情報を印刷する場合：
  メニューの［ファイル］>>［印刷プレビュー］>>［編集情報印刷プレビュー］を選ぶ

印刷プレビュー画面が表示されます。

2. ［印刷形式］ボタンをクリックする

クリックするごとに印刷形式が変わります。
3 種類の形式 (P101) から印刷したい形式を選びます。

3. ［設定］ボタンをクリックし、必要な設定をする

- 印刷内容の設定について :(P102)

ヒント

- DV 機器入力モード (P37) およびハイブリッド編集モード (P92) のとき、ライブラリー画面の［テープライブラリ］のアイコンをダブルクリックすると、保存しているテープ情報が入力テープトラックに表示されます。
- ノンリニア編集モード (P62) およびハイブリッド編集モード (P92) のとき、ライブラリー画面の［編集情報］のアイコンをダブルクリックすると、保存している編集情報が編集トラックに表示されます。

印刷形式について

タイムシート

トラックの情報をリスト形式で表示します。クリップの長さやクリップ名、テープクリップのシーンの長さなどが一覧で表示されますので、編集作業を行うのに便利です。

A. 代表アイコン
B. トラック内容

DV テープラベル

印刷して切り取ると、miniDV テープのラベルとして使うことができます。

A. 代表アイコン
B. トラック内容

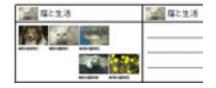
VHS テープラベル

印刷して切り取ると、VHS テープのラベルとして使うことができます。

A. トラック内容
B. 代表アイコン

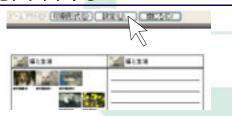
タイムシートやテープラベルには、代表アイコンやトラック内容などの情報が表示されます。（トラック内容には前から 3 つと後ろの 3 つの映像のアイコンが表示されます）

表示サイズを拡大する

[ズームイン] ボタンをクリックすると、表示を大きくします。
[ズームアウト] ボタンをクリックすると、表示を小さくします。
画面の表示サイズを変えるだけです。実際の印刷サイズは変わりません。

ラベルの設定を変更する

テープラベルの色や文字などを変更することができます。
ここで設定できるのは DV テープラベルと VHS テープラベルだけです。

- この操作の前に、印刷プレビュー画面を表示させておいてください。

1. 印刷プレビュー画面の［設定］ボタンをクリックする

印刷形式の設定画面が表示されます。

2. 必要な設定をして、［OK］ボタンをクリックする

ラベルの色、ラベルの背景、フォント、タイトル名、テープ情報などの設定ができます。

ラベルの色を変更する

1. 画像を［なし］にして、［背景色］ボタンをクリックする

色を選んで［OK］ボタンをクリックするとラベルの色が変わります。

ヒント

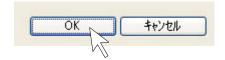
- 代表アイコンを変更すると、テープラベル内の写真も変更されます。
- 色の設定はタイトルエディターモードでの設定方法と同様です。タイトルエディターモードの「背景画像の色を変える」をお読みください。(P117)

ラベルの背景に画像を入れる

1. 背景に入れたい画像（**BMP/JPEG/TIFF/PNG** ファイル）を選ぶ

他のフォルダー内の画像を選びたいときは［フォルダ変更］ボタンをクリックして選びます。

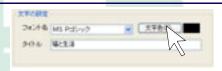
2. ［背景の濃さ］スライダーで背景の濃さを調節する

3. ［**OK**］ボタンをクリックする

ラベルの背景に選んだ画像が入ります。

フォントを変更する

1. フォント名のプルダウンボタン［ ］をクリックしてプルダウンメニューからフォントを選ぶ

文字の色を変える

1. ［文字色］ボタンをクリックして色を選ぶ

色の設定はタイトルエディターモードの「背景画像の色を変える」**(P117)** を参考にしてください。［色の作成］をクリックすると色の作成画面が出ます。

タイトルを変更する

1. タイトル名を入力する

テープ情報を設定する

1. [記録フォーマット] のプルダウンボタン [ ] をクリックしてプルダウンメニューからフォーマットを選ぶ

2. [記録日時] の設定ボタン [ ] をクリックしてカレンダーを表示し、任意の日をクリックする

3. 時間設定ボタン [ ] [ ] をクリックして時間を設定する

テープラベルを印刷する

印刷する

入力テープトラックや編集トラックの内容をもとに DV や VHS のテープラベル、タイムシートを印刷します。

- 印刷前に、DV 機器入力モード、ノンリニア編集モードまたはハイブリッド編集モードを選択し、映像の情報をトラックに表示させておきます。

入力テープトラックの内容および情報を印刷する場合

1. メニューの［ファイル］>>［印刷］>>［テープ情報印刷］を選ぶ

- 編集トラックの内容および情報を印刷する場合：
  メニューの［ファイル］>>［印刷］>>［編集情報印刷］を選ぶ

印刷プレビュー画面表示中に［印刷］ボタンをクリックして印刷することもできます。

2. 印刷設定をする

用紙設定、印刷枚数などを設定します。

- プリンターの設定はお使いのプリンターによって異なります。プリンターの説明書をお読みください。

3. 印刷タイプを選ぶ

［**DV** 用ラベル一式］
DV テープのラベルを印刷します。
［**VHS** 用ラベル一式］
VHS テープのラベルを印刷します。
［タイムシート］
テープ情報や編集情報の一覧を印刷します。

4. ［OK］ボタンをクリックする

印刷が始まります。

加工モード

加工モードについて

MotionDV STUDIO で映像にタイトルや 3D アニメーションを追加するには、加工モードにして作業します。加工モードには、タイトルエディターモードと 3D アレンジモードの 2 種類の操作モードがあります。操作モードの切り換えかたは P26 をご覧ください。

タイトルエディターモード：(P107)

映像にタイトルを追加するときはこのモードで操作してください。

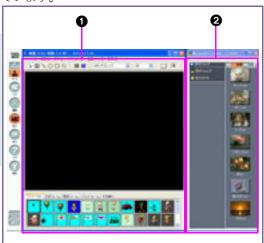
3D アレンジモード：(P154)

映像に 3D のアニメーションを追加したいときはこのモードで操作してください。

タイトルエディターモード：

タイトルエディターモードではビデオクリップや静止画クリップなどに、文字や動きのあるアニメーションを追加することができます。
追加できるタイトルはテキストタイトルとアニメーションタイトルの 2 種類です。以下の機能を使うことができます。

タイトルエディターモードの画面構成

タイトルエディターモードは編集画面（❶）とライブラリー画面（❷）の 2 つの画面から構成されています。

❶ 編集画面

タイトルを編集する画面です。タイトルを入れたいファイルをここに配置すると編集が可能になります。タイトルを配置したあとに、ファイルを配置することもできます。

A. 編集画面

タイトルの編集を行う画面です。配置した画像ファイルや文字などを表示します。

B. メインツールバー

：選択ボタン

マウスカーソルで編集対象を選ぶときに使います。

：文字ボタン

編集画面に文字を配置するときに使います。

：線ボタン

編集画面に直線を描くときに使います。

：円ボタン

編集画面に円を描くときに使います。

：四角ボタン

編集画面に四角を描くときに使います。

：自由曲線ボタン

編集画面に曲線を描くときに使います。

C. 動画ツールバー

：動画形式で保存ボタン

編集したタイトルを AVI や MPEG2 のビデオクリップとして保存するときに使います。

：静止画形式で保存ボタン

編集したタイトルを BMP,JPEG,TIFF,PNG の静止画クリップとして保存するときに使います。

D. テキストツールバー

MS Pゴシック：フォント選択部

選択した文字のフォントを選ぶときに使います。

：サイズ選択部

選択した文字のサイズを選ぶときに使います。

：文字色設定ボタン

選択した文字の色を選ぶときに使います。

：文字の影付けボタン

選択した文字に影を付けるときに使います。

E. アニメーション・フレームウインドウ

[アニメーション]

用意されているアニメーションを表示します。

[文字フレーム]

用意されている文字のフレームを表示します。

[季節フレーム]

用意されている季節に合わせたデザインのフレームを表示します。

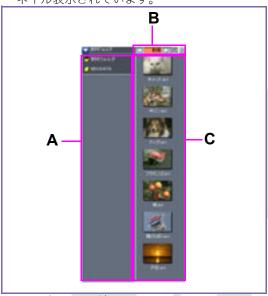
[イベントフレーム]

用意されているイベントに合わせたデザインのフレームを表示します。

[文字飾り]

用意されている文字の飾りのテンプレートを表示します。

❷ ライブラリー画面

ビデオクリップや静止画クリップなどタイトルエディターモードで扱えるファイルがサムネイル表示されています。

A. 選択フォルダー

ライブラリーとして閲覧できるディレクトリーを表示します。デフォルトフォルダーとして［素材フォルダ］が作成されていますが、任意のディレクトリーの任意のフォルダーを追加・作成することができます。

B. ライブラリー選択部

クリックして登録しているデータの種類を選択できます。

［動画］

選択フォルダー内の DV 圧縮の AVI ファイル（AVI ファイル）と MPEG2 圧縮ファイル（MPEG ファイル）を表示します。

- TVfunSTUDIO で番組表を利用して録画されたデータは、番組タイトル情報が表示されます。

［静止画］

選択フォルダー内の静止画ファイル（BMP/JPEG/TIFF/PNG ファイル）を表示します。

［タイトル］

タイトルエディターモードで作成したタイトルファイル（TTE ファイル）のみを表示します。

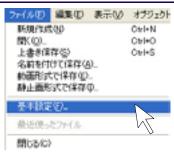
C. サムネイル表示部

選択されているフォルダー内のサムネイルが表示されます。

環境を設定する

タイトルエディターモードの各種設定をすることができます。

基本設定をする

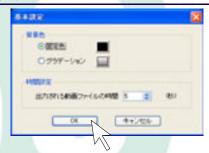
1. メニューの［ファイル］>> ［基本設定］を選ぶ

基本設定メニューが表示されます。

2. ［背景色］設定部で背景色を設定する

- 背景画像を配置しないときの設定です。
［固定色］
背景色を単色で設定します。
［グラデーション］
背景色をグラデーションで設定します。
色の設定方法は「文字の色を変える」(P123)と同じです。（［不透過率］の設定はできません）
グラデーションの設定方法は「文字にグラデーションをかける」(P124)と同じです。

3. ［時間設定］設定部でビデオクリップの時間を設定する

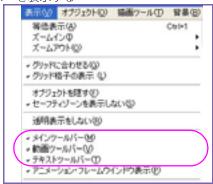
- 静止画クリップや背景の無いタイトルをビデオクリップ（動画形式）に保存したときの時間の設定です。
- 1 秒～ 300 秒の間で設定できます。

4. 設定完了後［OK］ボタンをクリックする

- ビデオクリップを背景に配置している場合は、配置したクリップの時間になります。

表示の設定をする

編集画面の大きさや有効枠の表示などを設定します。表示メニューから各種表示設定を行います。

■ ツールバーを表示するとき

ツールバーを選んでチェックを付けてツールバーを表示する

[メインツールバー]
選択ボタン、描画ツールボタン、文字入力ボタンが表示されます。
[動画ツールバー]
動画保存ボタンと静止画保存ボタンが表示されます。
[テキストツールバー]
フォント、文字のサイズ、文字の色、文字の影付けボタンが表示されます。

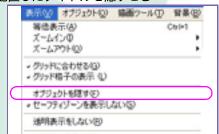
■ 画面の表示サイズを設定するとき

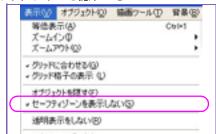
[等倍表示]
原寸表示になります。
[ズームイン]
拡大表示になります。2 倍、4 倍、6 倍、8 倍から設定できます。
[ズームアウト]
縮小表示になります。1/2 倍、1/4 倍から設定できます。

• 編集画面上の表示サイズを変更するだけです。実際に作成するタイトルのサイズは変わりません。

■ タイトルの画面上の位置を正確に決めたいとき

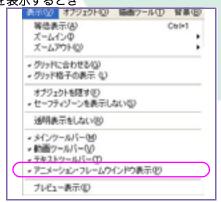
[グリッドに合わせる]
タイトルがグリッド格子に吸引されて位置を決めやすくなります。
[グリッド格子の表示]
編集画面にグリッド格子を表示します。
グリッド格子はタイトルとして記録されることはありません。

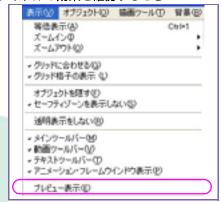
■ 配置したタイトルを隠すとき

[オブジェクトを隠す]
配置したタイトルを隠して、背景の絵を見たいときにチェックをします。

■ ガイドラインを隠すとき

[セーフティゾーンを表示しない]
タイトルなどを配置するためのガイドラインを隠すときにチェックします。
ガイドライン内にタイトルなどを配置しておくと、画面からタイトルがはみ出すことを防げます。

■ 透明効果を一時的に解除する

[透明表示をしない]
文字に使った透明効果を解除するときにチェックします。

■ アニメーションタイトルなどのテンプレートを表示するとき

[アニメーション・フレームウィンドウ表示]
アニメーション・フレームウィンドウを表示したいときにチェックします。アニメーションやフレームなどのイラストデータを表示すると、直接ドラッグ・アンド・ドロップして配置することができます。

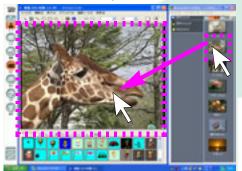
■ タイトルの効果を確認するとき

[プレビュー表示]
タイトルエディターモードで配置したタイトルの効果を確認することができます。

タイトルを追加したい画像を編集画面に配置する

ファイルを編集画面に配置するには 3 種類の方法があります。

• 編集画面に配置できるファイルは、AVI、MPEG2、BMP、JPEG、TIFF、PNG、TTE ファイルです。

■ ライブラリー画面から配置する

希望のファイルを編集画面にドラッグ・アンド・ドロップします。

• ビデオクリップを配置しても編集画面に表示されるのは最初の場面の静止画だけです。
• ライブラリー画面に何も表示されていない場合は、まず、入力モードで映像を取り込んでください。

■ メニューから配置する

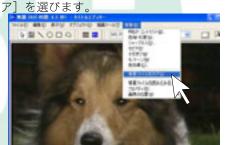
メニューの［背景］>>［背景ファイルの読み込み］を選ぶと、背景ファイルの読み込み画面が表示されますので、希望のファイルを選んで［開く］ボタンをクリックしてください。

■ 他の操作モードから配置する

他のモードで操作中にもファイルを編集画面に配置し、タイトルを作成することができます。

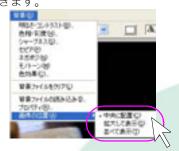
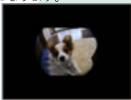
ライブラリーのファイルを右クリックし［タイトル作成］を選ぶと、自動的にタイトルエディターモードになり選んだファイルが編集画面に配置されます。

■ 配置したファイルを削除したいときは

メニューの［背景］>>［背景ファイルをクリア］を選びます。

■ 配置したファイルを入れ換えたいときは

ライブラリー画面から任意の画像を編集画面にドラッグ・アンド・ドロップします。

■ 小さい静止画クリップを配置したいときは

640 ×480（ドット）より小さい静止画クリップを配置した場合、メニューの［背景］>>［画像の位置］から配置の方法を設定できます。

［中央に配置］
画面の中央に表示します。配置したときにはこの状態になります。

［拡大して表示］
画面いっぱいに拡大して表示します。

［並べて表示］
画像を画面いっぱいに並べて表示します。

配置画像にエフェクトをかける

配置した画像にさまざまなエフェクトをかけることができます。

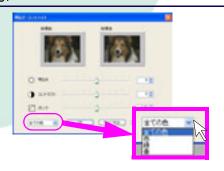
- 背景がビデオクリップ（AVI または MPEG2 ファイル）の場合、使用できる特殊効果は 1 種類のみです。新たに効果を設定した場合、それ以前の効果は破棄されます。ただし一度ビデオクリップ（AVI または MPEG2 ファイル）として保存した場合は新たに効果を追加できます。
- 背景に何も配置していないときでも、特殊効果を使うことができます。

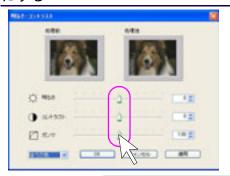
背景の明るさとコントラストを変える

背景の明るさ、コントラスト、ガンマ値などを変えることができます。

1. メニューの［背景］>>［明るさ・コントラスト］を選ぶ

明るさ・コントラスト設定画面が表示されます。

2.［ ］をクリックして調整する色を選ぶ

［全ての色］
すべての色に対して同じように調整する場合
［赤］
赤色を調整する場合
［緑］
緑色を調整する場合
［青］
青色を調整する場合

3. [明るさ]、[コントラスト]、[ガンマ] スライダーを調整して好みの色合いにする

- 数値を直接入力して調整することもできます。

[明るさ]
右にするほど明るくなります。
[コントラスト]
右にするほどコントラストが強くなります。
[ガンマ]
画像の明暗の中間部分の明るさを調整します。

4. [OK] ボタンをクリックする

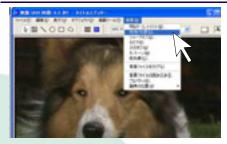
設定が適用され、設定画面が閉じます。

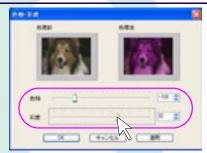
- 設定画面を閉じずに、設定内容を背景に適用させたい場合は [適用] ボタンをクリックします。
- 設定をやめたい場合は [キャンセル] ボタンをクリックします。

ノート

- 元の画像と設定後の画像のプレビュー画面を見比べながら設定してください。
- 背景にエフェクトを複数回かけるとプレビュー画面が正しく表示されないことがあります。

背景の色合いと彩度を変える

1. メニューの [背景] >> [色相・彩度] を選ぶ

色相・彩度設定画面が表示されます。

2. それぞれのスライダーを動かして色合いと彩度を設定する

3. [OK] ボタンをクリックする

設定が適用され、設定画面が閉じます。

- 設定画面を閉じずに、設定内容を背景に適用させたい場合は [適用] ボタンをクリックします。
- 設定をやめたい場合は [キャンセル] ボタンをクリックします。

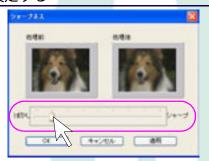
ノート

- 元の画像と設定後の画像のプレビュー画面を見比べながら設定してください。
- 背景にエフェクトを複数回かけるとプレビュー画面が正しく表示されないことがあります。

背景のシャープさを調整する

1. メニューの［背景］>> ［シャープネス］を選ぶ

シャープを設定する画面が表示されます。

2. スライダーを動かしてシャープさを設定する

- 右にドラッグすると、画像がシャープになり、輪郭がはっきりします。左にドラッグすると、ぼかした感じになります。

3. ［OK］ボタンをクリックする

設定が適用され、設定画面が閉じます。
- 設定画面を閉じずに、設定内容を背景に適用させたい場合は［適用］ボタンをクリックします。
- 設定をやめたい場合は［キャンセル］ボタンをクリックします。

ノート

- 元の画像と設定後の画像のプレビュー画面を見比べながら設定してください。
- 背景にエフェクトを複数回かけるとプレビュー画面が正しく表示されないことがあります。

背景画像をセピア、ネガ、白黒にする

■ セピアカラーにする

メニューの［背景］>> ［セピア］を選びます。

景画像がセピアカラーになります。

■ ネガ画像にする

メニューの［背景］>> ［ネガポジ］を選びます。

背景画像がネガ反転した画像になります。

■ 白黒にする

メニューの［背景］>> ［モノトーン］を選びます。

背景画像が白黒画像になります。

■ 効果を元に戻すには

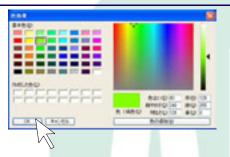
メニューの［編集］>> ［元に戻す］を選びます。

ひとつ前の状態に戻ります。

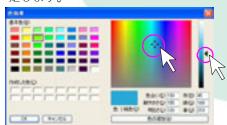
背景画像の色を変える

1. メニューの［背景］>>［色効果］を選ぶ

色効果設定画面が表示されます。

2. 基本色パレットの中から色を選んで［OK］ボタンをクリックする

選んだ色を基本にして背景画像の色が変わります。

■ 基本色パレットに選びたい色がないときは

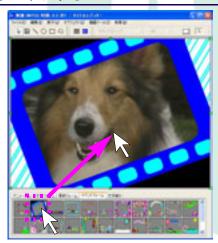
1. 虹色の画面内をクリックしてお好みの色を作り、右端の色のバー表示部で色の濃さを設定します。

2. ［色の追加］ボタンをクリックすると［作成した色］パレットに作った色が追加されます。

各種フレームを入れる

[文字フレーム]、[季節フレーム]、[イベントフレーム] に多くのフレームが用意されています。その中から、タイトルとしてふさわしいものを選んで入れることができます。

1. [文字フレーム]、[季節フレーム]、[イベントフレーム] のどれかのタブをクリックする

アニメーション・フレームウィンドウにフレームのサムネイルが表示されます。

2. 好みのデザインのフレームのサムネイルを編集画面にドラッグ・アンド・ドロップする

フレームが編集画面上に配置されます。

■ フレームを消したいときは

- フレームの図柄の上をクリックしてアンカーポイントを表示させてから、[編集] >> [削除] を選ぶとフレームが消えます。

■ フレームを変えたいときは

- 編集画面上にあるフレームを消してから別のフレームのサムネイルを編集画面の上にドラッグ・アンド・ドロップしてください。

- フレームを消さずにドラッグ・アンド・ドロップをすると、フレームが重なって表示されます。

文字タイトルを入れる

任意の文字をタイトルとして配置することができます。文字タイトルを入れるには、文字を直接入力する方法 (P119) と、テキストファイルから読み込む方法 (P120) があります。

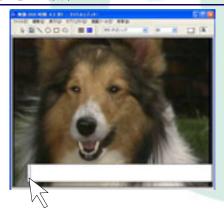
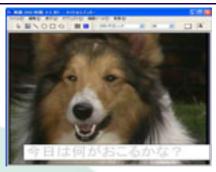
- 編集画面に文字タイトルを入れたいファイルを配置しておいてください。(P113)

文字を直接入力して配置する

1. [ ] ボタンをクリックする

文字カーソルに変わります。

- 画面にメインツールバー、テキストツールバーが表示されていないときは、[表示] メニューから選んでチェックを付けてください。

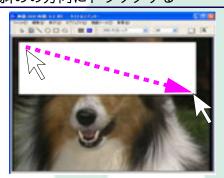
2. 任意の場所でクリックする

3. 文字を入力する

4. [ ] ボタンをクリックする

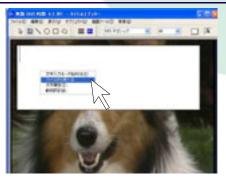
- 動画編集で使用するにはビデオクリップとして保存します。(P150)

テキストファイルからテキストを読み込む

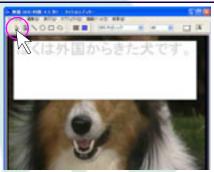
1. 文字入力モードボタン［ ］をクリックする

文字カーソルに変わります。

2. 文字を入れる始点にしたい場所から斜めの方向にドラッグする

- クリックして、1 行の文字入力領域を表示させ、テキストファイルを読み込むこともできます。

3. 文字入力領域を右クリックし［ファイルから挿入］を選ぶ

4. 読み込みたいテキストファイル（拡張子 .txt）を選び、［開く］ボタンをクリックする

5. 選択モードボタン［ ］をクリックする

ノート

- テキストファイルは Windows のワードパッド、メモ帳、市販のワープロソフトなどで作ることができます。
- 全角文字 1000 字（半角文字 2000 字）ぐらいまでのテキストファイルを読み込むことができます。

文字タイトルのテキスト属性を変更する

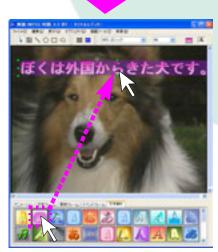
文字タイトルの色、大きさ、フォントなどを変更したり、様々な効果で文字を修飾することができます。

テンプレートで文字を飾る

アニメーション・フレームウィンドウの［文字飾り］に用意されているテンプレートを使って文字を飾ることができます。

1. ［文字飾り］タブをクリックする

アニメーション・フレームウィンドウに文字飾りのテンプレートが表示されます。

2. 好みのデザインのテンプレートを文字タイトルの上にドラッグ・アンド・ドロップする

テキストが飾られます。

■ 文字の飾りを変えたいときは

- 別のテンプレートを文字タイトルの上にドラッグ・アンド・ドロップしてください。

■ 文字の大きさを変えたいときは

- テキストをクリックして表示されるアンカーポイントをドラッグすると文字の大きさを変えることができます。

ノート

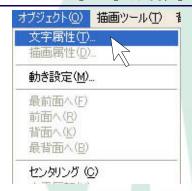
- 文字タイトルが 21 文字以上の場合、修飾できないことがあります。

更に細かい設定をする

テンプレートで文字を飾ったあとでも必要であれば、更に詳細な設定をすることができます。

フォントの選択や文字を変形する

1. 属性を変更したいテキストをクリックして選択する

2. [オブジェクト] >> [文字属性] を選ぶ

文字属性の設定画面が表示されます。

3. [フォント] 設定部で設定する

[フォント名]
フォントの種類を選びます。
[幅]
文字の横のサイズ（横幅）を設定します。
[高さ]
文字の縦のサイズ（縦幅）を設定します。
[太字]
チェックすると太字になります。
[斜体]
チェックすると、斜体（斜めに傾いた文字）になります。

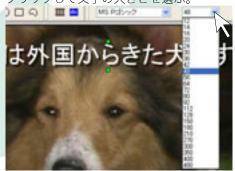
4. プレビューを確認して［OK］ボタンをクリックする

設定内容が適用されます。
- テキストを選択しない状態でこの設定をした場合、設定内容は記録され、これ以降、文字を書くときはこの設定が適用されます。

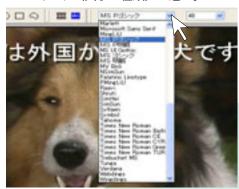
ノート

- 文字の大きさとフォントは、編集画面から変更することもできます。文字部分をクリックしてアンカーポイントが表示されるようにしておいてください。

文字の大きさを変えるとき

- フォントサイズのプルダウンボタン［ ］をクリックして文字の大きさを選ぶ。

- 文字を選択し､アンカーポイントをドラッグして拡大縮小する。

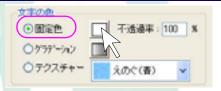
フォントの種類を変えるとき

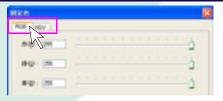
フォントのプルダウンボタン［ ］をクリックしてフォント（文字の種類）を選ぶ。

文字の色を変える

文字の色を自由に作ったり、透き通った文字を作ることができます。

1. 属性を変更したいテキストをクリックして選択する

2. ［オブジェクト］>> ［文字属性］を選ぶ

3. ［文字の色］設定部の［固定色］を選び、色指定ボタン［ ］をクリックする

固定色設定画面が表示されます。

4. ［**RGB**］タブか［**HSV**］タブを選び、お好みの色に設定する

［**RGB**］タブで色を調整するとき

それぞれの色のスライダーを右に移動させるほど、その色が強くなります。

- 3 つの色を混ぜることにより、お好みの色を作ることができます。例えば黄色を作る場合は、［赤］スライダーと［緑］スライダーを右に、［青］スライダーを左に動かすと作れます。
- すべて右端（255）にすると白色です。
- すべて左端（0）にすると黒色です。

［**HSV**］タブで色を調整するとき

［色相］のスライダーで色相を 0 ～ 359 の中から選ぶことができます。

［彩度］のスライダーを右に移動させるほど、［色相］で選んだ色が強くなります。

［明度］のスライダーを右に移動させるほど、［彩度］と［色相］で選んだ色が明るくなります。
• 円の中の色をクリックして色を選ぶこともできます。このとき明度（V）の濃淡は調整されませんので、必要であれば［明度（V）］のスライダーで調節してください。

5. ［不透過率］ボックスに数値を入力して文字の透明度を設定する

• 数値を小さくすればするほど透き通った文字になります。
• 3D 文字には不透過率の設定はできません。

6. プレビューを確認して［OK］ボタンをクリックする

設定内容が適用されます。
• テキストを選択しない状態でこの設定をした場合、設定内容は記録され、これ以降、文字を書くときはこの設定が適用されます。

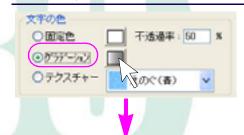
ノート

• RGB、HSV については用語解説の項をお読みください。
• 編集画面の文字色ボタン［■］をクリックしてカラーパレットを表示させ色を変更することもできます。選びたい色が無い場合は、［カスタム色］をクリックして色を作ります。カスタム色の作りかたについては「背景画像の色を変える」(P117) をお読みください。

文字にグラデーションをかける
グラデーション効果を使った文字を作ることができます。

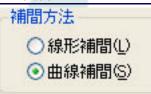
1. 属性を変更したいテキストをクリックして選択する

2. ［オブジェクト］>> ［文字属性］を選ぶ

3. ［文字の色］ 設定部の ［グラデーション］を選び、色指定ボタン ［■］ をクリックする

グラデーション設定画面が表示されます。

4. [色の指定方法］設定部で色のタイプを選ぶ

［**RGB**］
RGB（赤緑青の割合で色を決める）方式の色を使う場合に選びます。
［**HSV**］
HSV（色相、彩度、明度の調整で色を決める）方式の色を使う場合に選びます。

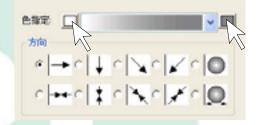
5. [補間方法］設定部でグラデーションの変わり具合を選ぶ

[線形補間］
なめらかに色が変わります。
[曲線補間］
急激に色が変わります。

6. [色指定］設定部のプルダウンボタン［ ］で希望のグラデーションパターンを選ぶ

選んだパターンがプレビュー部に表示されます。

7. [方向］設定部でグラデーションの方向を選ぶ

- 選択した矢印の方向に色が変わっていきます。

8. [色指定］部でグラデーションの色を設定する

- 始まり色用（左側）と終わり色用（右側）の色指定ボタンをクリックして設定してください。
- 色設定の方法は文字の色を変える方法と同じです。(P123)

9. プレビューを確認して［OK］ボタンをクリックする

設定内容が適用されます。
- テキストを選択しない状態でこの設定をした場合、設定内容は記録され、これ以降、文字を書くときはこの設定が適用されます。

文字にテクスチャーをつける
文字にテクスチャーをつけることができます。

1. 属性を変更したいテキストをクリックして選択する

2. [オブジェクト] >> [文字属性] を選ぶ

3. [文字の色] 設定部の［テクスチャー］を選び、設定部のプルダウンボタン［ ］で希望のテクスチャーパターンを選ぶ

4. プレビューを確認して［**OK**］ボタンをクリックする

設定内容が適用されます。

- テキストを選択しない状態でこの設定をした場合、設定内容は記録され、これ以降、文字を書くときはこの設定が適用されます。

文字に影を付ける
文字に影を付けることができます。影の色や方向を変えることもできます。

1. 属性を変更したいテキストをクリックして選択する

2. [オブジェクト] >> [文字属性] を選ぶ

3. [影付けをする] にチェックを入れる

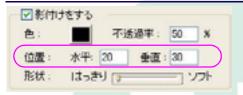
- 3D 文字には影をつけることはできません。

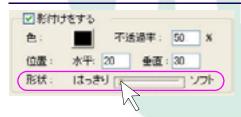
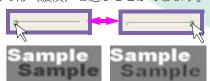
4. [影付け] 設定部の色指定ボタン［■］をクリックして、希望の影の色を設定する

固定色設定画面が表示されます。希望の色を設定してください。

5. ［不透過率］ボックスに数値を入力して影の不透明度を設定する

• ［不透過率］の数値を小さくすればするほど透明になります。

6. 影の位置を設定する

［水平］
影の水平位置を設定します。
数値を増やすほど、右方向に影が移動します。
［垂直］
影の垂直位置を設定します。
数値を増やすほど、下方向に影が移動します。

7. スライダーをドラッグして影の形状（濃淡）を選ぶ

影の形（濃淡）を選ぶことができます。

8. プレビューを確認して［OK］ボタンをクリックする

設定内容が適用されます。
• テキストを選択しない状態でこの設定をした場合、設定内容は記録され、これ以降、文字を書くときはこの設定が適用されます。

ノート

• 編集画面の影付けボタン［ ］をクリックしても影をつけることができます。

文字に縁取りをつける
文字に縁取りを付けることができます。

1. 属性を変更したいテキストをクリックして選択する

2. [オブジェクト] >> [文字属性] を選ぶ

3. [境界をつける] にチェックを入れる

• 3D 文字に境界をつけることはできません。

4. [境界] 設定部の色指定ボタン [■] をクリックして、希望の縁取りの色を設定する

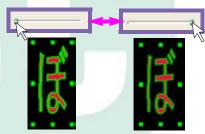
5. [幅] のプルダウンボタン [▼] をクリックして数値を選び、縁取りの太さを設定する

• 数値が大きくなるほど、太い縁取りになります。

6. [不透過率] ボックスに数値を入力して境界線の不透明度を設定する

• [不透過率] の数値を小さくすればするほど透明になります。

7. [形状] スライダーを調整して境界の形状を選ぶ

境界の形を選ぶことができます。

8. プレビューを確認して [OK] ボタンをクリックする

設定内容が適用されます。

• テキストを選択しない状態でこの設定をした場合、設定内容は記録され、これ以降、文字を書くときはこの設定が適用されます。

文字のスタイルを変える
文字に枠を付けたり、下線を引いたり、プレートを付けることができます。

1. 属性を変更したいテキストをクリックして選択する

2. [オブジェクト] >> [文字属性] を選ぶ

3. [スタイル] 設定部から文字スタイルを選ぶ

[ABC]
文字だけになります。
[ABC]
四角枠がつきます。
[ABC]
角丸四角枠がつきます。
オプション設定で角の半径を変更できます。
[ABC]
下線がつきます。
オプション設定で下線の太さを変更できます。
[ABC]
プレート型の枠がつきます。

4. 色ボタンをクリックして、枠や下線の色を設定する

5. [不透過率] ボックスに数値を入力して枠や下線の不透明度を設定する

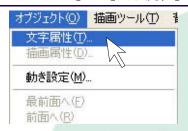
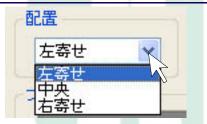
- 数値を小さくすればするほど透明になります。

6. プレビューを確認して [OK] ボタンをクリックする

設定内容が適用されます。
テキストを選択しない状態でこの設定をした場合、設定内容は記録され、これ以降、文字を書くときはこの設定が適用されます。

文字の配置を変える
文字が 2 行以上の時に文字揃えを変えることができます。

1. 属性を変更したいテキストをクリックして選択する

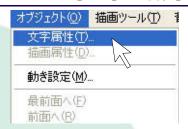
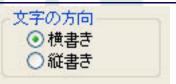
2. [オブジェクト] >> [文字属性]を選ぶ

3. [配置] 設定のプルダウンボタンをクリックして、文字の配置を変える

[左寄せ]
文字が左揃えになります。
[中央]
文字が中央揃えになります。
[右寄せ]
文字が右揃えになります。

4. [OK] ボタンをクリックする

選んだ文字の配置が適用されます。
テキストを選択しない状態でこの設定をした場合、設定内容は記録され、これ以降、文字を書くときはこの設定が適用されます。

文字の［横書き］・[縦書き] を選ぶ
文字の[縦書き]·[横書き]を選ぶことができます。

1. 属性を変更したいテキストをクリックして選択する

2. [オブジェクト] >> [文字属性]を選ぶ

3. [文字の方向] 設定の［横書き］か［縦書き］を選ぶ

設定内容が適用されます。
- 半角文字の英文を［縦書き］に設定すると文字は横向きに配置されます。

4. [OK] ボタンをクリックする

選んだ文字の方向が適用されます。
テキストを選択しない状態でこの設定をした場合、設定内容は記録され、これ以降、文字を書くときはこの設定が適用されます。

立体的な文字にする
文字を立体的にすることができます。

1. 属性を変更したいテキストをクリックして選択する

2. [オブジェクト] >> [文字属性]を選ぶ

3. [3D] タブをクリックする

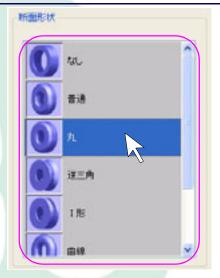
3D 文字の設定画面が表示されます。

4. [文字を 3D 表示する] にチェックを付ける

3D 文字の設定ができるようになります。

5. [厚み] スライダーを調整して、立体文字の厚みを設定する

• 右にするほど分厚い文字になります。

6. [3D] 文字の断面の形状をクリックして選ぶ

7. 文字を回転させて角度を決める

文字の回転			
	X:	31	(0 .. 360)
	Y:	347	(0 .. 360)
	Z:	0	(0 .. 360)

[X:]
X 軸にそった回転角度を入力します。(0 〜 360 の設定ができます)
[Y:]
Y 軸にそった回転角度を入力します。(0 〜 360 の設定ができます)
[Z:]
Z 軸にそった回転角度を入力します。(0 〜 360 の設定ができます)
• プレビュー画面上をマウスカーソルでドラッグしても文字の回転をすることができます。

8. プレビューを確認して［OK］ボタンをクリックする

設定内容が適用されます。

- 文字サイズが大きい場合、プレビュー表示に時間がかかります。
- テキストを選択しない状態でこの設定をした場合、設定内容は記録され、これ以降、文字を書くときはこの設定が適用されます。

ノート

- 文字を 3D 表示すると、影付け、境界、スタイル、配置の設定はできなくなります。また、文字数は最大 20 文字に制限されます。
- 大きなサイズの文字を 3D にした場合、非常に多くのメモリを消費します。AVI または MPEG2 ファイルを作成できない場合もありますので、画面に合う適切な文字サイズを指定してください。

アニメーションを入れる

テンプレートとして用意されているアニメーションを自由に配置することができます。

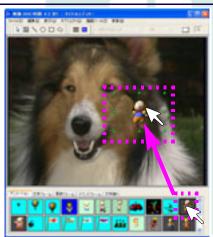
アニメーションを配置する

タイトルを配置するにはテンプレートのウィンドウから配置する方法とメニューから配置する方法があります。

アニメーションウィンドウから配置する

1. [アニメーション] タブをクリックする

- アニメーションウィンドウを表示させておきます。

2. 希望のアニメーションを編集画面にドラッグ・アンド・ドロップする

- テンプレートが表示されていない場合は、メニューの［表示］>> ［アニメーション・フレームウィンドウ表示］を選んでください。

メニューから配置する

1. メニューの［オブジェクト］>> ［スプライト挿入］を選ぶ

ファイルからの挿入画面が表示されます。

2. 希望のアニメーションをクリックして選択する

- ファイルの種類を静止画（BMP,JPEG,TIFF,PNG）にすると静止画を選ぶことができます。

3. ［透明色指定］部で透明色を設定する（**BMP/JPEG/TIFF/PNG** 形式のファイルを選んだ場合）

スポイトボタン❷を選択して、カーソルがスポイトマークに変わったら、プレビュー画像❶の透明にしたい色をクリックします。
❸をクリックして、プレビュー画面上を左クリックすると画面が拡大表示されます。右クリックすると縮小表示されます。
• 透明色の設定ができるのは、静止画ファイル（BMP/JPEG/TIFF/PNG）のみです。

4. ［開く］ボタンをクリックする

アニメーションが配置されます。

配置したアニメーションを操作する

配置したアニメーションは自由に移動したり、拡大・縮小したりできます。

■ 移動する

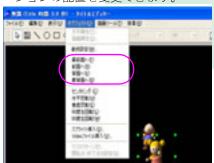
アニメーションをドラッグします。

■ 拡大縮小する

アニメーションを選択すると、アニメーションの周りにアンカーポイント［■］が 8 個表示されます。そのアンカーポイントをドラッグします。

- すでに最大の大きさで配置されている画像は、それ以上拡大できません。
- ［Shift］キーを押しながらドラッグすると、アニメーションの縦横比を変えずに拡大縮小することができます。

■ 配置の上下（前面背面）を変更する

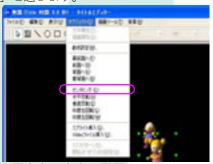
アニメーションを重ねて配置した場合、メニューの［オブジェクト］より選択したアニメーションの配置を変更できます。

［最前面へ］
一番上へ配置する

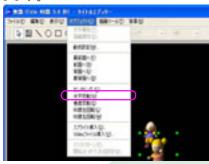
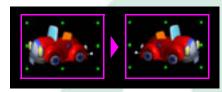
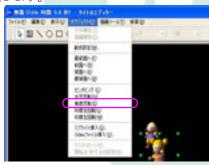
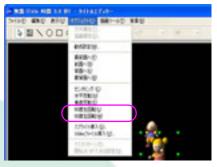
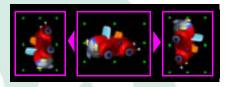
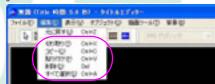
［前面へ］
ひとつ上に配置する

［背面へ］
ひとつ下に配置する

［最背面へ］
一番下に配置する

■ 中央に配置する

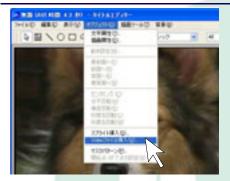
メニューの［オブジェクト］>> ［センタリング］を選びます。

- 水平方向の中央に配置されます。アニメーションの位置の高さは変わりません。

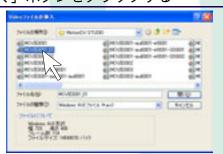
■ 左右反転する
メニューの［オブジェクト］>>［水平反転］を選びます。

■ 上下反転する
メニューの［オブジェクト］>>［垂直反転］を選びます。

■ 90 度回転する
メニューの［オブジェクト］>>［90 度右回転］または［90 度左回転］を選びます。

■ アニメーションの削除や編集をする
メニューの［編集］よりご希望の操作を選びます。

[元に戻す]
操作をやり直す
[切り取り]
アニメーションをカットする
[コピー]
アニメーションをコピーする
[貼り付け]
コピー、カットされたアニメーションを貼り付ける
[削除]
アニメーションを削除する
[すべて選択]
すべてのアニメーションを選ぶ
• 操作を間違えたときは、[元に戻す]を選ぶと、ひとつ前の状態に戻ります。

別映像を子画面として配置する

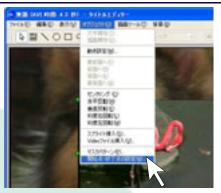
別映像を子画面として入れる

ビデオクリップを子画面として配置します。表示した映像をビデオクリップ（AVI または MPEG2 ファイル）として保存すると、映像に別画面の映像が入った画像になります。

1. メニューの［オブジェクト］>>［Video ファイル挿入］を選ぶ

［Video ファイルの挿入］画面が表示されます。

2. 表示したいビデオクリップを選び［開く］ボタンをクリックする

映像上にビデオクリップが子画面映像で表示されます。

- ［ファイルの種類］で AVI 形式か MPEG2 形式かを選ぶことができます。

3. メニューの［オブジェクト］>>［開始点・終了点の設定］を選ぶ

開始点・終了点の設定画面が表示されます。

- 子画面が選択されていない場合、子画面をクリックして選択してからこの操作をしてください。

4. スライダーを調整してビデオクリップの取り込み開始点と終了点（動画の開始点と終了点）を設定して［OK］ボタンをクリックする

［OK］ボタンをクリックすると子画面に設定が適用されます。

- 数値設定ボタンをクリックして入力することもできます。

ノート

- 配置した子画面は自由に移動したり、拡大・縮小したりできます。方法は「配置したアニメーションを操作する」(P135) と同じです。
- アンカーポイントをドラッグすると、子画面の大きさを変えられます。
- ビデオクリップの取り込み範囲を設定しない場合は、3 ～ 4 の操作は必要ありません。
- 動画編集で使用するにはビデオクリップとして保存します。(P150)

子画面映像の形を変える

子画面にマスクをかけて画面の形を変えることができます。

1. マスクをかけたい子画面を選び、メニューの［オブジェクト］>>［マスクパターン］を選ぶ

マスクパターン設定画面が表示されます。

2. マスクパターンを選ぶ

3.［境界の幅］ボックスに数値を入力して境界の幅を設定する

• [ ] をクリックして数値を変更することもできます。

4. 色指定ボタンをクリックして境界線の色を設定する

色の設定方法は「文字の色を変える」と同じです。（［不透過率］の設定はできません）：(P123)

5.［形状］スライダーを調整して境界線の形状を選ぶ

子画面に付ける輪郭を選ぶことができます。

6.［OK］ボタンをクリックする

子画面が手順 2 で選んだマスクパターンでくり抜かれます。

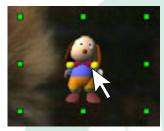
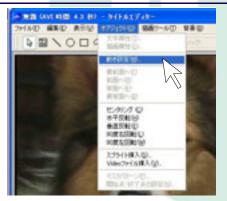
文字・アニメーション・画像にフェードをかける

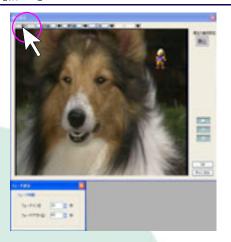
徐々に現れる（消える）ようにする

文字・アニメーション・画像が徐々に画面に現れたり、消えていく映像になります。

• この操作の前に、文字やイラスト、映像を編集画面に配置しておいてください。

1. 編集画面上の読み込んだ文字やアニメーション、画像を選ぶ

周りにアンカーポイント［■］が表示されます。

2. メニューの［オブジェクト］>>［動き設定］を選ぶ

動き設定画面が表示されます。

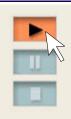
3.［静止］ボタンをクリックする

画面下にフェード設定画面が表示されます。
［現在の動き設定］は［静止］になります。

4. 数値を入力してフェード時間を設定する

• ［ ］をクリックして数値を変更することもできます。

フェードイン
オブジェクトが現れ始めてから完全に表示されるまでの時間

フェードアウト
オブジェクトが薄くなり始めてから完全に消えるまでの時間

5. 再生ボタン［▶］をクリックして設定したフェード効果をプレビュー画面で確認する

- プレビュー画面を一時停止するときは一時停止ボタン［❚❚］、停止するときは停止ボタン［■］をクリックします。

6.［OK］ボタンをクリックする

動き設定画面が消えて、設定が完了します。

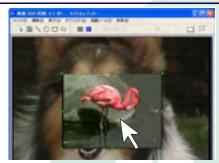
ノート

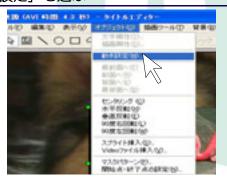
- 動きを設定するオブジェクトによっては、処理が重くなり、プレビューがスムーズに表示されない場合があります。
- フェード効果をかけた場合、縦移動・横移動などの効果と同時に使用することはできません。

文字・アニメーション・画像に移動の動きをつける

文字・アニメーション・画像などに対して移動の動きを付けることができます。
この操作の時は、文字やアニメーション、映像を編集画面に配置しておいてください。

水平または垂直な動きをつける

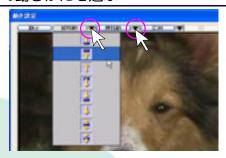
1. 編集画面上の読み込んだ文字やイラスト、画像を選ぶ

イラストの周りにアンカーポイント［■］が表示されます。

2. メニューの［オブジェクト］>>［動き設定］を選ぶ

動き設定画面が表示されます。

3. 移動方向ボタンをクリックする

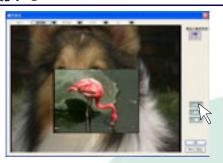
垂直方向に動かす場合
［縦移動］ボタンをクリックする
水平方向に動かす場合
［横移動］ボタンをクリックする

画面下に詳細設定画面が表示されます。

4. プルダウンボタン［▼］をクリックして動きかたを選ぶ

［ , ］、［ , ］
静止（停滞）状態の後、矢印の方向に動きます。
［ , ］、［ , ］
矢印の方向に動いた後、静止（停滞）状態が続きます。
［ , ］、［ , ］
矢印の方向に動きます。
［ , ］、［ , ］
矢印の方向に動いた後、静止（停滞）し、再び動き始めます。

5. 静止時間に数字を入力して静止時間を設定する

- この操作は、静止状態の含まれる動作を設定した場合のみ必要です。
- ［ ］、［ ］をクリックして数値を変えることもできます。

6. 再生ボタン［▶］をクリックして設定した動き効果をプレビュー画面で確認する

- プレビュー画面を静止するときは静止ボタン［❚❚］、停止するときは停止ボタン［■］をクリックしてください。
- 選んだ動きかたによっては、再生するまでイラストや画像がプレビュー画面に現れない場合があります。

7.［OK］ボタンをクリックする

動き設定画面が消えて設定が完了します。

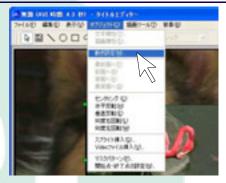
ノート

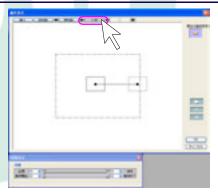
- 動きを設定するオブジェクトによっては、処理が重くなり、プレビューがスムーズに表示されない場合があります。

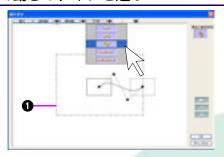
自由に動かす

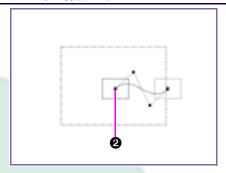
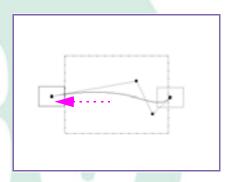
自由にイラストを動かすこともできます。

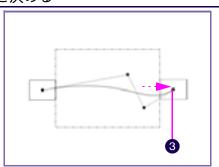
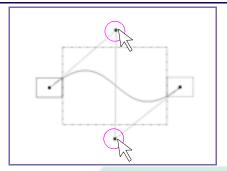
- 3D 文字にこの動きは設定できません。
- この操作の時は、文字やアニメーション、映像を編集画面に配置して、選択しておいてください。
- ここでは、波線タイプを選んだときの操作を例にして説明します。

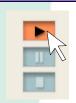
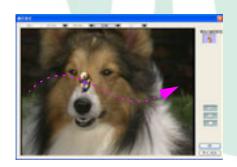
1. メニューの［オブジェクト］>>［動き設定］を選ぶ

動き設定画面が表示されます。

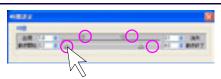
2.［応用］ボタンをクリックする

応用動き設定画面が表示され、画面下に時間設定画面が表示されます。

3. プルダウンボタン［▾］をクリックして動きのタイプを選ぶ

［ ］
直線的な動きをさせます
［ ］
放物線的な動きをさせます
［ ］
波線的な動きをさせます
［ ］
直線的な動きをさせます、一カ所方向を変えることができる部分があります
［ ］
直線的な動きをさせます、二カ所方向を変えることができる部分があります
• 画面の破線枠 ❶ より内側にイラストがあるときに編集画面内に表示されます。

4. カーソルを実線四角内のマーク ❷ に合わせカーソルが移動モードに変わったら好きな場所へドラッグして動きの開始点を決める

［ ］
移動モードのカーソル
［ ］
全体移動モードのカーソル
• カーソルが全体移動モードのときは、範囲全体が移動します。

5. カーソルを破線四角内のマーク ❸ に合わせて開始点と同じ方法で終了点を決める

6. カーソルを波線途中についている［■］マークにあわせてドラッグして波線の曲がり具合を設定する

• 2 個所の［■］マークの位置によって、波線の曲がり具合が変わります。

7. 再生ボタン［▶］をクリックし、設定した動き効果をプレビュー画面で確認する

• プレビュー画面を静止するときは静止ボタン［❚❚］、停止するときは停止ボタン［■］をクリックしてください。

8. スライダーで動きのタイミング設定をする

［出現］
タイトルが出てくるまでの時間を設定
［消失］
タイトルが消える時間を設定
［動き開始］
移動を開始する時間を設定
［動き終了］
移動を終了する時間を設定
• それぞれのボックスに数値を入力して設定することもできます。

9. ［OK］ボタンをクリックする

動き設定画面が消えます。

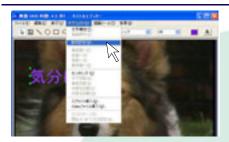
ノート

• 動きを設定するオブジェクトによっては、処理が重くなり、プレビューがスムーズに表示されない場合があります。

文字に三次元の動きを付ける

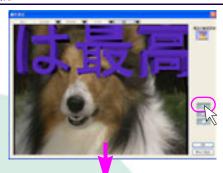
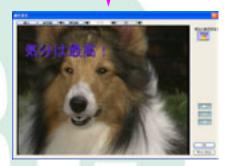
文字に三次元の動きを付けます。この動きが設定できるのは文字と 3D 文字だけです。

• アニメーションと子画面には設定できません。

1. 文字を選んで、メニューの［オブジェクト］>> ［動き設定］を選ぶ

動き設定画面が表示されます。

2. ［3D］ボタンと［▼］をクリックして動きのタイプを選ぶ

• 画面右に選んだ動きのアイコンが表示されます。

3. 再生ボタン［▶］をクリックして設定した動き効果をプレビュー画面で確認する

詳細設定 画面で静止時間を設定すると、動きの終わりで静止状態になります。設定方法は「水平または垂直に動かす」の項目 (P141) と同じです。

4. ［OK］ボタンをクリックする

動き設定画面が消えます。

• 文字タイトルが 21 文字以上の場合、修飾できないことがあります。

図形や線などを描く

画像（映像）に図形や線などを自由に書き込むことができます。書き込んだ図形や線などに動きをつけることはできません。

1. 図形や線の種類をクリックして選ぶ

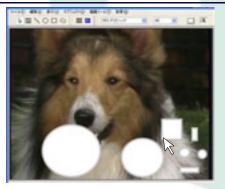
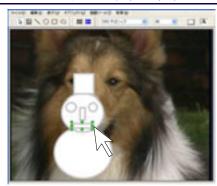
[ ]
直線を描きます。

[ ]
円を描きます。

[ ]
長方形を描きます。

[ ]
自由な曲線で描きます。

- ツールバーが表示されていない場合は、[表示] >> [メインツールバー] を選んでチェックを付けてください。

2. 画面をドラッグして図形や線を描く

3. [ ] をクリックして図形や線をドラッグして任意の位置に配置する

4. 色や線の太さなどの属性を指定したい図形や線をクリックして選び、メニューの [オブジェクト] >> [描画属性] を選ぶ

描画属性画面が表示されます。

5. [線の幅] スライダーをドラッグして線の幅を設定する

- [ ]、[ ] をクリックして数値を変更することもできます。

6. ブラシや境界線の形状を選ぶ

ブラシの形状
円形にしたいときは［丸］を、角張った形にしたいときは［四角］を選びます。
境界の形状
［境界の形状］スライダーを動かして調整します。左に動かすとはっきりし、右に動かすとにじんでいきます。

7. それぞれの色指定ボタンをクリックしてふちの線や内部の色を設定する

- 色の設定方法は「文字の色を変える」**(P123)**と同じです。
- 内部の色は［不透過率］の数値を小さくすればするほど透明になり、後ろの色が透けて見えるようになります。
- 直線を選んだ場合、内部の色の設定はできません。
- 自由曲線を選んだ場合、ブラシの形状・境界の形状・内部の色の設定はできません。

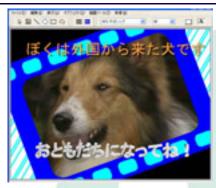
8. ［OK］ボタンをクリックする

選んでいた図形や線に設定が適用されます。

作ったタイトルを確認する

プレビュー画面で確認する

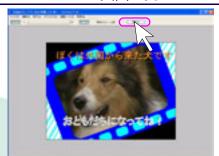
タイトル画像を保存する前にプレビュー画面で確認できます。

1. 編集したタイトル画像を編集画面に表示する

2. メニューの［表示］>>［プレビュー表示］を選ぶ

プレビュー画面が表示されます。

3. 画面左上のスライダーをドラッグして内容を確認します

• コマ送りボタン［▶］をクリックすると 1 フレーム進みます。
• コマ戻しボタン［◀］をクリックすると 1 フレーム戻ります。

4. 確認後、［閉じる］ボタンをクリックしてプレビュー画面を閉じる

タイトルの保存について

タイトルファイルとして保存する

タイトルファイルとして保存することができます。作成中のタイトルを保存すると、あとで開いて再編集できます。

1. メニューの［ファイル］>>［上書き保存］を選ぶ

• 別名のタイトルファイルとして保存する場合は、［名前を付けて保存］を選びます。

2. 保存先とファイル名を入力する

• ライブラリーで表示されているフォルダーに保存すると編集時に便利です。

3.［保存］ボタンをクリックして保存する

• ライブラリーの［タイトル］タブをクリックすると、保存したファイルがアイコン表示されています。

■ タイトルファイルを再編集するときは
アイコン表示されているタイトルファイルをダブルクリックすると、編集画面に表示され再編集が可能になります。

• 保存したファイルがライブラリーに表示されていなかったり、写真のアイコンになっていない場合は、タイトルエディターモードを一度閉じて、再度［タイトルエディタ］を選んでください。

ビデオクリップとして保存する

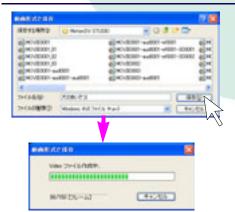
作成したタイトルは、ビデオクリップとして保存することができます。保存したビデオクリップ（AVI または MPEG2 ファイル）は、MotionDV STUDIO の編集に使用することができます。

1. メニューの［ファイル］>>［動画形式で保存］を選ぶ

保存先を指定する画面が表示されます。
- 動画ツールバーでも同じ操作ができます。

2. 保存先とファイル名を入力する

- MotionDV STUDIO で使っているフォルダーに保存することをおすすめします。

3.［保存］ボタンをクリックする

ビデオクリップの保存が始まります。
- ［ファイルの種類］で AVI 形式か MPEG2 形式かを選ぶことができます。
- ファイルによっては、保存が完了するまで時間がかかります。
- AVI 形式で約 4 分間の再生時間のタイトルを保存すると約 1 GB のハードディスク容量が必要になります。ハードディスクの空き容量を確認しておいてください。

■ 保存した内容を確認するときは

ライブラリーを更新して保存したファイルをアイコン表示させてください。そのアイコンをダブルクリックすると、再生することができます。
- ビデオクリップの再生については、「ビデオクリップの内容を確認したいときは」(P67) で説明しています。
- 保存したファイルがライブラリーに表示されない場合は、メニューの［ライブラリー］>>［最新の情報に更新］をクリックしてください。

ノート

- ビデオクリップ（AVI または MPEG2 ファイル）として保存しないと動くタイトルを作ることはできません。
- 配置した画像ファイルを残す場合は、配置したファイルと別の名前を付けてタイトルとして保存してください。
- 静止画クリップをビデオクリップ（AVI または MPEG2 ファイル）として保存する場合、メニューの［ファイル］>>［基本設定］でファイルの時間の長さを設定できます。（初期設定は 5 秒です）

静止画クリップとして保存する

作成したタイトルはタイトル入りの静止画クリップ（BMP,JPEG,TIFF,PNG）として保存できます。

1. メニューの［ファイル］>>［静止画形式で保存］を選ぶ

保存先を指定する画面が表示されます。

2. 保存先とファイル名を入力する

- ライブラリーで表示されているフォルダーに保存すると編集時に便利です。

3. プルダウンボタン［ ］をクリックして、静止画のファイル形式を選ぶ

BMP,JPEG,TIFF,PNG 形式から選びます。

4.［保存］ボタンをクリックして保存する

ライブラリーで表示されているフォルダーに保存すると、ライブラリーの［静止画］に保存したファイルがアイコン表示されます。

ノート

- 静止画クリップとして保存した場合、640×480 の画像になります。

タイトルエディターのライブラリーについて

表示アイコンの種類を選ぶ

ライブラリーはフォルダー内のファイルを［動画］、［静止画］、［タイトル］などの種類別にアイコン表示することができます。

1. ライブラリーのタブをクリックして、希望のファイルをアイコン表示させる

［動画］
選択フォルダー内の DV 圧縮の AVI ファイル（AVI ファイル）と MPEG2 圧縮ファイル（MPEG ファイル）を表示します。
• TVfunSTUDIOで番組表を利用して録画されたデータは、番組タイトル情報が表示されます。
［静止画］
選択フォルダー内の静止画ファイル（BMP/JPEG/TIFF/PNG ファイル）を表示します。
［タイトル］
タイトルエディターモードで作成したタイトルファイル（TTE ファイル）のみを表示します。

表示範囲を広くする

1. 左端の表示切り換えボタンをクリックする

フォルダー表示が消え、ファイルのアイコン表示範囲が広くなります。

もう一度クリックすると元に戻ります。

表示順位を変更する

1. メニューの［ライブラリー］>>［アイコンの整列］から［名前順］か［日付順］を選ぶ

アイコンの表示順を並べかえることができます。

アイコンの名称を変更する

1. 名称を変更したいアイコンをクリックする

2. メニューの［ライブラリー］>>［名前を変更］を選ぶ

選んでいるファイルの名前を変更することができます。

ファイルの削除をする

1. 削除したいファイルのアイコンをクリックし、メニューの[ライブラリー] >> [削除]を選ぶ

選んでいるファイルが削除されます。

- 設定モードの［削除時の処理］(P213) で［直接削除する］を選ぶと、ファイルは消去されます。[ごみ箱を経由する]を選ぶと、削除したクリップは Windows のごみ箱に移動します。Windows 上で［ごみ箱を空にする］を選ぶと消去されます。

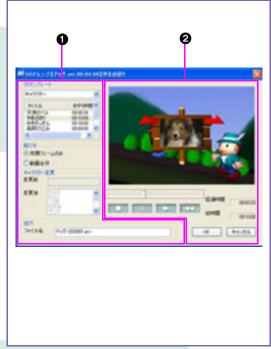
ヒントとお願い

- ライブラリーに別のフォルダーを新たに追加できます。作成方法は DV 機器入力モード と同じです。(P59)
- ファイルの削除などを行ったあと、ライブラリーの表示が変わらないときは、メニューの[ライブラリー] >> ［最新の情報に更新］を選んでください
- ライブラリーからデスクトップなどへファイルをドラッグ・アンド・ドロップするとファイルを移動することができます。逆にデスクトップなどからライブラリーにドラッグ・アンド・ドロップでファイルをライブラリーへ入れることもできます。(ライブラリーへファイルを入れる場合は、動画なら動画ライブラリーへというように、対応したライブラリーを表示させておいてください。)
- 一度に複数のアイコンを選択して、名前の変更を行うことはできません。
- ライブラリー上のファイルを、他のソフトで使用しているときに削除や名前の変更をすることはできません。また他のソフトが使用していないときに、削除や名前の変更ができなくなったときは、MotionDV STUDIO を一度終了し、再度起動し直してください。

3D アレンジモード：

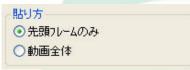
3D アレンジモードでは 3D アレンジを起動し、ビデオクリップ、静止画クリップに動きのある 3D アニメーションで特殊効果を付けることができます。

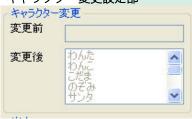
3D アレンジモードの画面構成

3D アレンジモードは設定画面（❶）、コントロール画面（❷）の 2 つの画面から構成されています。

❶ 設定画面
3D テンプレートの選択、キャラクターの変更設定、出力ファイル名の設定などができます。

3D テンプレート選択部

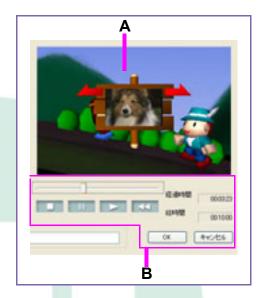
3D テンプレートを選び出すプルダウンメニューです。

貼り方設定部

3D テンプレートの貼り方を選択します。
[先頭フレームのみ]
クリップの初めの画像が静止画で入ります。
[動画全体]
クリップの映像が入ります。
- 長時間の映像や極端に短い映像の場合は貼り方を選択できません。クリップの初めの画像が静止画で入ります。

キャラクター変更設定部

3D テンプレートのキャラクターを変更するとき、キャラクターを選び出すプルダウンメニューです。

出力ファイル設定部

出力するビデオクリップの名前を決めることができます。(出力されたビデオクリップはライブラリー部に表示されます)

❷ コントロール画面
プレビュー画面で編集する画像を再生して確認することができます。

A. プレビュー画面
編集している画像を表示します。

B. コントロール部
スライダー [ ]
ドラッグして、動画の見たい部分を確認します。
[停止] ボタン [ ]
再生中の動画を停止して動画の始めに戻ります。
[一時停止] ボタン [ ]
再生を一時停止します。
[再生] 再生ボタン [ ]
動画の再生をします。
[戻り] ボタン [ ]
再生が終わった動画の始めに戻ります。
[経過時間 / 総時間] 表示 [ ]
再生している動画の総時間と、再生開始からの経過時間を表示します。
[ＯＫ] ボタン [ ]
3D アレンジで設定した内容でビデオクリップの作成をします。
[キャンセル] ボタン [ ]
ビデオクリップを作成しないで 3D アレンジを終了します。

クリップに 3D アニメーションを付ける

3D のアニメーションを選んで、映像を入れます。(3D アレンジ)

- 3D アレンジモードで作られるビデオクリップのファイル形式は元のビデオクリップのファイル形式と同じになります。
- この操作の前に編集モード画面の編集トラックにビデオクリップ、静止画クリップを配置しておいてください。

1. アニメーションを入れたいクリップをクリックして選ぶ

2. TOOLBOX で［ ］アイコンを選ぶ

3D アレンジの画面が表示されます。

- クリップ上で右クリックして出てくるメニューからも選ぶことができます。

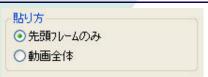
3. ［3D テンプレート］設定部のプルダウンボタン［ ］をクリックして、3D テンプレートの種類を選ぶ

［キャラクター］か［その他］のどちらかを選びます。

4. タイトルの項目をダブルクリックして選ぶ

5. アニメーションに入れる映像の挿入方法を選ぶ

長時間の映像や極端に短い映像の場合は貼り方を選択できません。クリップの初めの画像が静止画で入ります。

6. 再生ボタン [▶] をクリックして、プレビュー画面で確認する

スライダー [ ] をドラッグしても確認できます。
クリップの長さによっては動画全体が確認できない場合があります。

7. [OK] ボタンをクリックする

ビデオクリップ作成画面が表示されます。

8. [はい] をクリックする

アニメーションに映像が入ったビデオクリップが作られます。
3D アレンジが終了し、編集モードに戻ります。

- 元のファイルが MPEG2 形式の場合は [MPG ファイルを作成しますか] の表示になります。
- 編集トラックのビデオクリップに効果が入ります。
- ビデオクリップはライブラリー（動画）にも表示されます。

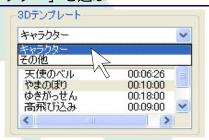
ヒント

- 静止画クリップにも 3D アニメーションを付けることができます。
- 3D アレンジが起動しているときに直接他のモードに切り換えることはできません。ビデオクリップを作らずに他のモードに切り換えるときは [キャンセル] をクリックして 3D アレンジを終了してください。

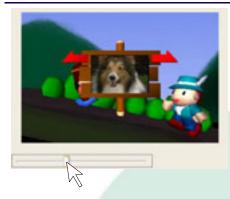
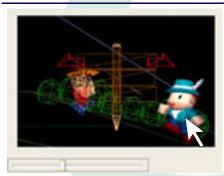
3D アニメーションに登場するキャラクターを変える

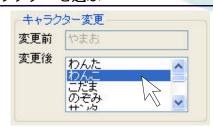
3D アニメーションのキャラクターを変更します。

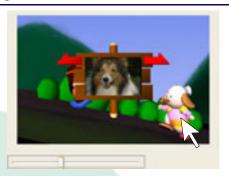
1. アニメーションを入れたい映像を編集トラックに配置し、[3D アレンジ] 画面を表示させる (P156)

2. [3D テンプレート] 設定部のプルダウンボタン [ ] をクリックして [キャラクター] を選ぶ

[その他] を選ぶとキャラクターは変更できません。

3. タイトルをダブルクリックして選ぶ

4. スライダー［ ］をドラッグして、変更したいキャラクターを表示させる

5. プレビュー画面の変更したいキャラクターをクリックする

背景が黒になり、選んだキャラクター以外はワイヤフレームモデル（骨組み）表示になります。

6. ［キャラクター変更］設定部のキャラクターをクリックして変更後のキャラクターを選ぶ

キャラクターが変わります。

7. 変更したキャラクターをクリックする

通常のプレビュー画面に戻ります。

その他、必要な設定をして、ビデオクリップを作成します。(P156)

出力モード

出力モードについて

MotionDV STUDIO で編集したデータをデジタルビデオ機器やファイルに出力するには、出力モードにして作業します。操作モードの切り換えかたは **P26** をご覧ください。

- ハードディスクのデータの断片化が多いときなどには出力中にコマ落ちが生ずることがあります。出力を行う前にご使用になるパソコンのハードディスクのデフラグをしておくことをお勧めします
- 出力作業中はハードディスクの一部の領域を作業用の一時領域として使用します。作業用の一時領域が不足していると正常に出力を行えない場合がありますので、一時領域として使用しているハードディスクの空き容量を増やすか、設定モードの［高度設定］（**P214**）で一時領域の変更をおこなってください。

DV 機器出力モード：（**P160**）

編集したデータをデジタルビデオ機器に出力するときはこのモードで操作してください。

ファイル出力モード：（**P168**）

編集したデータをファイルとして出力するときはこのモードで操作してください。

DVD レコーダー出力モード：（**P175**）

編集したデータを外部の当社製 DVD ビデオレコーダーに出力するときはこのモードで操作してください。
※対応 DVD ビデオレコーダー：DMR-HS1、DMR-HS2、DMR-E60、DMR-E90H（2003 年 6 月現在）

D-VHS 出力モード：（**P182**）

編集したデータを外部の当社製 D-VHS ビデオに出力するときはこのモードで操作してください。
※対応 D-VHS ビデオ：NV-DH1、NV-DHE10、NV-DH2、NV-DHE20（2003 年 6 月現在）

ビデオメールモード：（**P189**）

編集したデータを圧縮し、電子メールの添付ファイルとして送りたいときはこのモードで操作してください。

DVD-R/RW 出力モード：（**P195**）

対応書込みアプリケーションがインストールされているとこのアイコンが現れます。
対応書込みアプリケーションを使って DVD-R/RW ドライブへ出力するときはこのモードで操作してください。

DVD-RAM 出力モード：（**P202**）

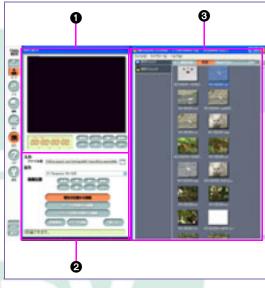
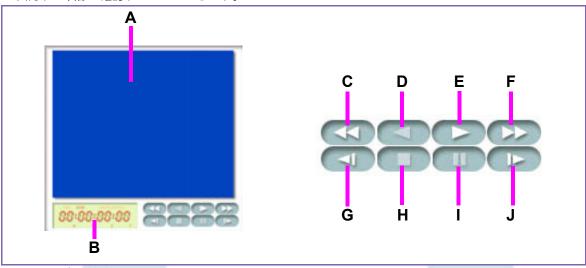
対応書込みアプリケーションがインストールされているとこのアイコンが現れます。
対応書込みアプリケーションを使って DVD-RAM ドライブへ出力するときはこのモードで操作してください。

DV 機器出力モード：

編集したデータをデジタルビデオ機器に出力するときはこのモードで操作してください。

編集トラックにある［出力］ボタンをクリックして、起動した出力ウィンドウから DV 機器出力アイコンを選んでも［DV 機器出力モード］に切り換わります。

DV 機器出力モードの画面構成

DV 機器出力モードはコントロール画面（❶）、入出力設定画面（❷）、ライブラリー画面（❸）の３つの画面から構成されています。

❶ コントロール画面
出力する映像を確認することができます。

A. プレビュー画面
映像が表示されます。

B. タイムコード表示部
映像のタイムコードが表示されます。

C. 戻しボタン
クリップの開始点に移動します。
その後、クリックするごとに 1 つ前のクリップの開始点に移動します。

D. 逆再生ボタン
DV 機器出力モードでは使用しません。

E. 再生ボタン
再生します。

F. 送りボタン
後ろに配置されたクリップの開始点に移動します。
その後、クリックするごとに 1 つ後ろのクリップの開始点に移動します。
最後のクリップの場合は、クリップの終了点に移動します。

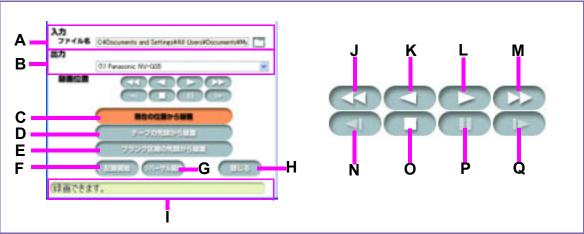
G. 逆コマ送りボタン
停止時にクリックすると逆コマ送り再生になります。

H. 停止ボタン
再生中にクリックすると画像が停止します。

I. 一時停止ボタン
再生中にクリックすると画像が停止します。

J. コマ送りボタン
停止時にクリックするとコマ送り再生になります。

❷ 入出力設定画面

録画する機器の操作をします。テープ上の録画を開始する位置を決め、リハーサルや録画の開始を行います。

A. 入力ファイル名選択・表示部
録画するファイル名を指定して表示します。
次の形式のファイルを入力ファイルとして指定することができます。
SEQ 形式、AVI 形式、MPEG2 形式

B. 出力機器名選択・表示部
録画するデジタルビデオ機器を指定して表示します。

C. ［現在の位置から録画］ボタン
録画を開始する位置を DV テープ上の現在の位置に設定します。

D. ［テープの先頭から録画］ボタン
録画を開始する位置を DV テープの先頭に設定します。

E. ［ブランク区間の先頭から録画］ボタン
録画を開始する位置を DV テープのブランク部分の先頭に設定します。

F. ［記録開始］ボタン
録画を開始します。

G. ［リハーサル開始］ボタン
録画を実行する前に録画後の内容を確認します。

H. ［閉じる］ / ［中断］ボタン
出力モードを終了します。
録画中またはリハーサル中は［中断］ボタンになります。録画またはリハーサルを中断します。

I. 状態表示部
接続しているデジタル機器の状態など、現在、録画できる状態であるかどうかが表示されます。
［出力機が再生モード以外になっています。］などの表示で録画できない場合の原因を見つける目安となります。

J. 巻戻しボタン
再生時にクリックすると巻戻し再生、停止時にクリックすると巻戻しになります。

K. 逆再生ボタン
逆再生します。

L. 再生ボタン
再生します。

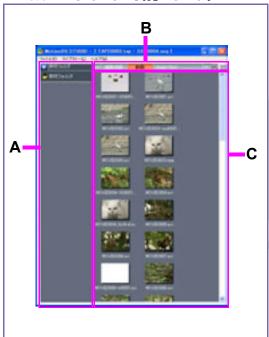
M. 早送りボタン
再生時にクリックすると早送り再生、停止時にクリックすると早送りになります。

N. 逆スロー再生 / 逆コマ送りボタン
再生時にクリックすると逆スロー再生、一時停止時にクリックすると逆コマ送り再生になります。

O. 停止ボタン
再生などの動きを停止します。

P. 一時停止ボタン
再生中にクリックすると画像が一時停止します。もう一度クリックすると再生します。

Q. スロー再生 / コマ送りボタン
再生時にクリックするとスロー再生、一時停止時にクリックするとコマ送り再生になります。

❸ ライブラリー画面
ハードディスクに登録しているデータを MotionDV STUDIO で閲覧できます。

A. 選択フォルダー
ライブラリーとして閲覧できるディレクトリーを表示します。デフォルトのフォルダーとして［素材フォルダ］が作成されていますが、任意のディレクトリーの任意のフォルダーを追加・作成することができます。

B. ライブラリー選択部
クリックして登録しているデータの種類を選択できます。
［編集情報］
選択フォルダー内の編集トラックの情報を保存したファイル（SEQ ファイル）を表示します。
［動画］
選択フォルダー内の DV 圧縮の AVI ファイル（AVI ファイル）と MPEG2 圧縮ファイル（MPEG ファイル）を表示します。
- TVfunSTUDIO で番組表を利用して録画されたデータは、番組タイトル情報が表示されます。

［Mpeg1/Asf］
選択フォルダー内の MPEG1 形式のファイル（MPEG ファイル）/ASF 形式のファイル（ASF ファイル）を表示します。

C. サムネイル表示部
選択されているフォルダー内のサムネイルが表示されます。

ヒントとお願い

- ライブラリーに別のフォルダーを新たに追加できます。作成方法は DV 機器入力モード と同じです。（P59）
- サムネイル表示部では、「アイコンの表示範囲を広くする」、「表示順位を変更する」、「アイコンの名称を変更する」、「ファイルの削除をする」などの操作をすることができます。方法はタイトルエディターのライブラリーと同じです。（P152），（P153）
- ファイルの削除などを行った後、ライブラリーの表示が変わらないときは、メニューの［ライブラリー］>>［最新の情報に更新］を選んでください。
- ファイル形式については用語解説ページをご覧ください。（P245）

編集モードから直接 DV への記録に切り換えて録画する

編集トラック上の編集内容をデジタルビデオ機器に録画することができます。

デジタルビデオ機器の接続をしておいてください。（P16）

1. 編集後 TOOLBOX で［］アイコンを選ぶ

- DV 機器出力モードに切り換わります。
- ライブラリーのファイルを選択した後に、DV 機器出力を選択すると、編集トラックのデータではなく、ライブラリーのデータが出力パネルに送られます。（ライブラリーで複数のファイルが選択されていても、出力パネルに送られるファイルは 1 つになります。）

- 編集トラックにある［出力］ボタンをクリックして、起動した出力ウィンドウから DV 機器出力アイコンを選んでも DV 機器出力モードに切り換わります。

- ［動画］ライブラリーのビデオクリップを右クリックして、コンテキストメニューから［出力］>> ［DV 機器出力］を選択しても DV 機器出力モードに切り換わります。

2. 出力する機器を決める

- デジタルビデオ機器を 2 台接続しているときには出力する機器を選択してください。

3. 操作ボタンで録画（記録）する内容を確かめる

- 録画する内容を違うものに変えたいときは、編集モードに戻って編集トラックの内容を変えてください。
- 編集トラック上のテープクリップはプレビュー画面で確認することができません。

4. テープ上の録画を始める位置を決める

- 画像の確認は出力側のデジタルビデオ機器のモニターでしてください。

［現在の位置から録画］
現在のテープ位置から録画をはじめるときに選びます。操作ボタンで現在の位置の内容を確認してクリックしてください。
［テープの先頭から録画］
テープの先頭から録画をするときに選びます。
［ブランク区間の先頭から録画］
途中まで録画してあるテープのブランクを自動で探し出してその部分から録画をする機能を使うときに選びます。

5. [リハーサル開始] ボタンをクリックする

リハーサルが開始されます。
リハーサルが終了すると [リハーサルを終了しました] の表示が出ます。

- リハーサルを中断したいときは [中断] ボタンをクリックしてください。

6. [OK] をクリックする

- 編集内容を変えたいときは、[OK] をクリックしてから編集モードに戻って編集内容を変えてください。

7. [記録開始] ボタンをクリックする

録画が開始されます。
録画が終了すると [録画を終了しました] の表示がでます。

- リハーサルしないで録画したい場合は [リハーサル開始] ボタンをクリックせずに [記録開始] ボタンをクリックすることですぐに録画を開始することもできます。
- 録画を中断したいときは [中断] ボタンをクリックしてください。

8. [OK] をクリックする

録画が終了します。

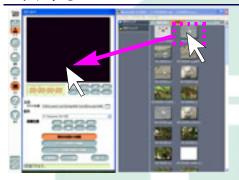
ノート

- 記録中に映像が乱れるなど、正しく記録できない状態になった場合、パソコンを再起動してください。
- [ブランク区間の先頭から録画] を選択した場合、先頭クリップの最初の部分と、最終クリップの最後の部分が数フレーム記録されないことがあります。
  ブランク区間から記録をする場合、先頭と最後に余裕を持たせることをお勧めします。
- ご使用のパソコンにルーターや無線 LAN 等のネットワーク機器やUSB機器などが接続されていると、正しく録画ができない場合があります。この場合、それらの機器をパソコンから外してご使用ください。

ライブラリー上の［編集情報］・［動画］を録画する

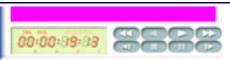
ライブラリー上のビデオクリップ（AVI,MPEG2）や編集情報（SEQ）をデジタルビデオ機器に録画することができます。

デジタルビデオ機器の接続をしておいてください。（P16）

1. ライブラリー画面上のサムネイルを出力パネルにドラッグ・アンド・ドロップする

またはファイル指定ボタン［▭］で［ファイルを開く］を開き、ファイル名を指定します。

2. 出力する機器を決める

デジタルビデオ機器を 2 台接続しているときには出力する機器を選択してください。

3. 操作ボタンで録画する内容を確かめる

- 出力する内容を違うものに変えたいときは、「手順 1.」に戻ってサムネイルを選び直してください。
- 編集情報中にあるテープクリップはプレビュー画面で確認することができません。

4. テープ上の録画を始める位置を決める

- 画像の確認は出力側のデジタルビデオ機器のモニターでしてください。

［現在の位置から録画］
現在のテープ位置から録画をはじめるときに選びます。操作ボタンで現在の位置の内容を確認して決めてからクリックしてください。
［テープの先頭から録画］
テープの先頭から録画をするときに選びます。
［ブランク区間の先頭から録画］
途中まで録画してあるテープのブランクを自動で探し出してその部分から録画をする機能を使うときに選びます。

5. ［リハーサル開始］ボタンをクリックする

リハーサルが開始されます。
リハーサルが終了すると［リハーサルを終了しました］の表示が出ます。
- リハーサルを中断したいときは［中断］ボタンをクリックしてください。

6. ［OK］をクリックする

- 出力する内容を違うものに変えたいときは、「手順 1.」に戻ってサムネイルを選び直してください。

7. ［記録開始］ボタンをクリックする

録画が開始されます。
記録（録画）が終了すると［録画を終了しました］の表示がでます。

- リハーサルしないで録画したい場合は［リハーサル開始］ボタンをクリックせずに［記録開始］ボタンをクリックすることですぐに録画を開始することもできます。
- 録画を中断したいときは［中断］ボタンをクリックしてください。

8. ［OK］をクリックする

録画が終了します。

ノート

- 記録中に映像が乱れるなど、正しく記録できない状態になった場合、パソコンを再起動してください。
- ［ブランク区間の先頭から録画］を選択した場合、先頭クリップの最初の部分と、最終クリップの最後の部分が数フレーム記録されないことがあります。
  ブランク区間から記録をする場合、先頭と最後に余裕を持たせることをお勧めします。
- ご使用のパソコンにルーターや無線 LAN 等のネットワーク機器やUSB機器などが接続されていると、正しく録画ができない場合があります。この場合、それらの機器をパソコンから外してご使用ください。

ファイル出力モード :

編集したデータをファイルとして出力するときはこのモードで操作してください。

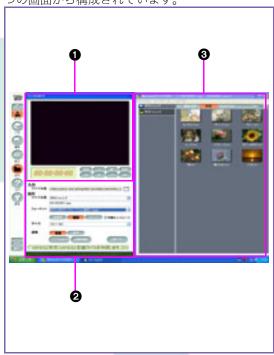
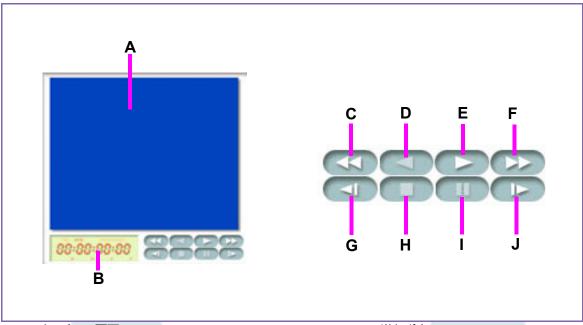
入力として扱えるファイル形式：
SEQ 形式、AVI 形式、MPEG2 形式
出力として指定できるファイル形式：
ASF 形式、AVI 形式、MPEG1 形式、MPEG2 形式

編集トラックにある［出力］ボタンをクリックして、起動した出力ウィンドウからファイル出力アイコンを選んでもファイル出力モードに切り換わります。

ノート

編集情報（SEQ 形式）もしくは編集トラックのデータを使ってファイル出力するときは、編集トラック上の画像はすべてビデオクリップか静止画クリップにしてください。編集トラックにテープクリップが含まれているとファイル出力することができません。

ファイル出力モードの画面構成

ファイル出力モードはコントロール画面（❶)、入出力設定画面（❷)、ライブラリー画面（❸）の 3 つの画面から構成されています。

❶ コントロール画面
出力する映像を確認することができます。

A. プレビュー画面
映像が表示されます。

B. タイムコード表示部
映像のタイムコードが表示されます。

C. 戻しボタン
クリップの開始点に移動します。
その後、クリックするごとに 1 つ前のクリップの開始点に移動します。

D. 逆再生ボタン
ファイル出力モードでは使用しません。

E. 再生ボタン
再生します。

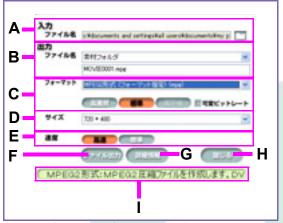
F. 送りボタン
後ろに配置されたクリップの開始点に移動します。
その後、クリックするごとに 1 つ後ろのクリップの開始点に移動します。
最後のクリップの場合は、クリップの終了点に移動します。

G. 逆コマ送りボタン
停止時にクリックすると逆コマ送り再生になります。

H. 停止ボタン
再生中にクリックすると画像が停止します。

I. 一時停止ボタン
再生中にクリックすると画像が停止します。

J. コマ送りボタン
停止時にクリックするとコマ送り再生になります。

❷ 入出力設定画面
入力するファイルを決め、出力するファイルの位置とファイル名、ファイル形式を選んで変換を行います。

A. 入力ファイル名選択・表示部
入力ファイル名を指定して表示します。
次の形式のファイルを入力ファイルとして指定することができます。
SEQ 形式、AVI 形式、MPEG2 形式

B. 出力ファイル名選択・表示部
出力する先のフォルダーを選択し、ファイル名を入力して表示します。選ぶことができるフォルダーは、ライブラリー画面で表示されているものに限られます。

C. フォーマット指定部
出力するファイルのファイル形式を指定します。次のファイル形式を指定することができます。
AVI ファイル出力、MPEG1 ファイル出力、MPEG2 ファイル出力(フォーマット指定)、MPEG2 ファイル出力（ハイブリッドレンダリング)、ASF ファイル出力、から選ぶことができます。

MPEG2 形式（フォーマット指定)、ASF 形式を指定した場合、[高画質]、[標準]、[高圧縮] の各ボタンで画質を選択することができます。
[高画質]
画質はよくなりますが、ファイルのサイズは大きくなります。
[標準]
標準的な画質です。ファイルサイズは高画質より小さくなります。
[高圧縮]
画質は標準より劣りますが、ファイルサイズは標準より小さくなります。
(MPEG2 ファイル出力(フォーマット指定)を選択して、サイズを［720×480］にした場合、このボタンを選択することはできません)

- 一度［MPEG2 形式（ハイブリッドレンダリング)］で出力した MPEG2 ファイルを、再度［MPEG2 形式（ハイブリッドレンダリング)］で出力することはできません。

[可変ビットレート]
MPEG2 形式（フォーマット指定）を指定した場合、[可変ビットレート] を選択することができます。
チェックを入れると、ファイル出力時のビットレートを可変にします。
具体的には、低ビットレートでの出力時の画質向上を行います。

D. サイズ指定部
画像のサイズを指定します。
[フォーマット指定部] で MPEG2 ファイル出力（フォーマット指定）を指定したときは［720×480]、[352×480]、[352×240]から、ASF ファイル出力を指定したときは[352×288]、[176×144] からサイズを選びます。

参考：
上記以外の出力フォーマットを指定したときに指定されるサイズ
AVI ファイル出力：720×480
MPEG1 ファイル出力：352×240
MPEG2 ファイル出力（ハイブリッドレンダリング)：元のファイルに合わせたサイズが指定されます。編集トラック内にサイズの違うビデオクリップがある場合、最も長い MPEG2 ビデオクリップのサイズに合わせて指定されます。

E. 出力速度設定部
[フォーマット指定部] で MPEG2 ファイル出力（フォーマット指定）を指定した場合、出力速度を設定することができます。
[高速]
[標準] よりも出力時間が短くなります。ただし入力ファイルによっては、画質が悪くなることがあります。
[標準]
標準的な出力速度です。[高速] よりも画質はよくなります。

F. ［ファイル出力］ボタン
ファイル出力を開始します。

G. [詳細情報］ボタン
出力するファイルのフォーマットの詳細を表示します。

H. ［閉じる］ボタン
出力モードを終了します。

I. 状態表示部
現在、ファイル出力できる状態であるかどうかが表示されます。
［入力ファイルを選択してください。］などの表示で操作の目安となります。
［フォーマット指定部］で出力するファイル形式を選んだときにそのファイル形式の説明を表示します。

状態表示部の表示内容：

［AVI 形式］選択時
［AVI 形式 :DV 圧縮の AVI ファイルを作成します。DV や DVD レコーダに出力することができます］

［MPEG1 形式］選択時
［MPEG1 形式 :VideoCD 互換の MPEG1 圧縮ファイルを作成します。］

［MPEG2 形式（フォーマット指定）］選択時
［MPEG2 形式 :MPEG2 圧縮ファイルを作成します。DV 圧縮の AVI ファイルよりも作成されるファイル容量を少なくすることができます。］

［MPEG2 形式（ハイブリッドレンダリング）］選択時
［MPEG2 形式 :MPEG2 圧縮ファイルを作成します。元となる MPEG2 ファイルの一部だけを再エンコードすることで、画質を維持したまま高速で作成することができます。なお、この形式で出力したファイルは D-VHS には出力できません。］

［ASF 形式］選択時
［ASF 形式 :MPEG4 圧縮ファイルを作成します。ネットワークへのストリーミングデータ用の出力形式です。メールに添付したり、Web にアップロードするのに最適な形式です。］

❸ ライブラリー画面
ハードディスクに登録しているデータを MotionDV STUDIO で閲覧できます。DV 機器出力モードの「ライブラリー画面」（P163）と同じです。

編集モードから直接ファイル出力モードに切り換えてファイル出力をする

編集トラック上の編集内容をファイルとして出力することができます。

1. 編集後 TOOL BOX で［ ］アイコンを選ぶ

- ファイル出力モードに切り換わります。
- ライブラリーのファイルを選択した後にファイル出力を選択すると、編集トラックのデータではなく、ライブラリーのデータが出力パネルに送られます。（ライブラリーで複数のファイルが選択されていても、出力パネルに送られるファイルは 1 つになります。）

- 編集トラックにある［出力］ボタンをクリックして、起動した出力ウィンドウからファイル出力アイコンを選んでもファイル出力モードに切り換わります。

- ［動画］ライブラリーのビデオクリップを右クリックして、コンテキストメニューから［出力］>>［ファイル出力］を選択してもファイル出力モードに切り換わります。

2. 操作ボタンで出力する内容を確かめる

- 出力する内容を違うものに変えたいときは、編集モードに戻って編集トラックの内容を変えてください。

3. 出力するファイルの形式を決める

［ファイル名］
MotionDV STUDIOが使用できるフォルダーを選ぶことができます。また出力されるファイルに名前を入力して付けることができます。
［フォーマット］、［サイズ］、［速度］（P170）

4. ［詳細情報］ボタンをクリックし、出力されるファイルのファイル予想サイズなどを確認する

5. ［ファイル出力］ボタンをクリックする

［ファイル出力中］の表示がでて、ファイルが変換されて出力されます。
出力が終了すると状態表示部に［ファイル出力を終了しました。］と表示されます。

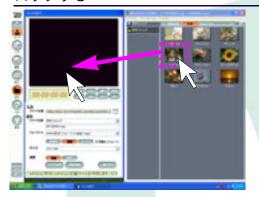
- ファイル出力を示す表示には「手順 3.」で選んだファイル形式も表示されます。
  例［MPEG2 ファイル出力中］
- 出力を中断したいときは、［中断］ボタンをクリックしてください。
- 出力されたファイルはビデオクリップとしてライブラリーに表示されます。

ノート

- 編集モードから直接ファイル出力モードに切り換えて出力するときは、編集トラック上の画像はすべてビデオクリップか静止画クリップにしてください。編集トラックにテープクリップが含まれているとファイル出力することができません。
- 既存のファイルに上書き出力を行うと、途中でキャンセルしても以前のファイルは削除されます。既存のファイルに上書きする場合は、十分確認の上、操作を行ってください。
- ハイブリッドレンダリングで作成されたファイルを含む編集情報を、ハイブリッドレンダリングすることはできません。MPEG ファイルとして出力したい場合は、［MPEG2（フォーマット指定）］でファイルを出力してください。

ライブラリー上の［編集情報］・［動画］をファイル出力する

ライブラリー上のビデオクリップ（AVI,MPEG2）や編集情報（SEQ）をファイル出力することができます。

1. ライブラリー画面上のサムネイルを出力パネルにドラッグ・アンド・ドロップする

- またはファイル指定ボタン［▭］で［ファイルを開く］を開き、ファイル名を指定します。

2. 操作ボタンで出力する内容を確かめる

- 出力する内容を違うものに変えたいときは、「手順 1.」に戻ってサムネイルを選び直してください。

3. 出力するファイルの形式を決める

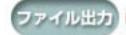
［ファイル名］
MotionDV STUDIOが使用できるフォルダーを選ぶことができます。また出力されるファイルに名前を入力して付けることができます。
［フォーマット］、［サイズ］、［速度］（P170）

4. ［詳細情報］ボタンをクリックし、出力されるファイルのファイル予想サイズなどを確認する

5. ［ファイル出力］ボタンをクリックする

［ファイル出力中］の表示がでて、ファイルが変換されて出力されます。
出力が終了すると状態表示部に［ファイル出力を終了しました。］と表示されます。

- ファイル出力を示す表示には「手順 3.」で選んだファイル形式も表示されます。
  例［MPEG2 ファイル出力中］
- 出力を中断したいときは、［中断］ボタンをクリックしてください。
- 出力されたファイルはビデオクリップとしてライブラリーに表示されます。

ノート

- 編集情報（SEQ 形式）を使ってファイル出力するときは、編集トラック上の画像はすべてビデオクリップか静止画クリップにしてください。編集トラックにテープクリップが含まれているとファイル出力することができません。
- 既存のファイルに上書き出力を行うと、途中でキャンセルしても以前のファイルは削除されます。既存のファイルに上書きする場合は、十分確認の上、操作を行ってください。
- ハイブリッドレンダリングで作成されたファイルを含む編集情報を、ハイブリッドレンダリングすることはできません。MPEG ファイルとして出力したい場合は、［MPEG2（フォーマット指定）］でファイルを出力してください。

DVD レコーダー出力モード：

編集したデータを DVD ビデオレコーダーへ出力するときはこのモードで操作してください。

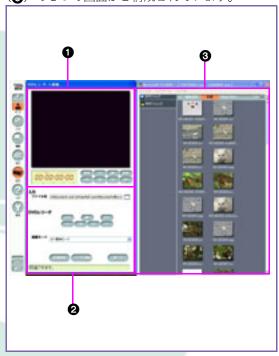
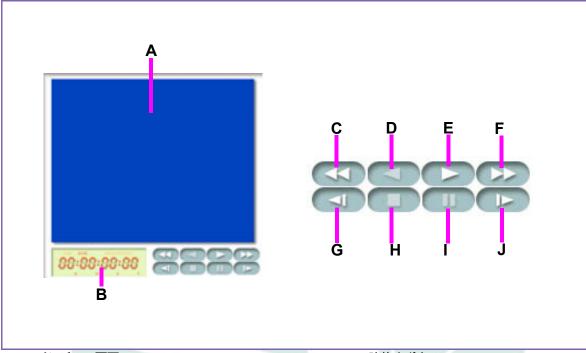
編集トラックにある［出力］ボタンをクリックして､起動した出力ウィンドウから DVD レコーダー出力アイコンを選んでも DVD レコーダー出力モードに切り換わります。

- DVD レコーダーへの出力機能は、対応の DVD レコーダードライバーが必要です。最新の DVD レコーダードライバー情報についてはホームページでご確認ください。

  http://panasonic.jp/support/video/download/index.html

- 対応のDVDレコーダードライバーがインストールされていない場合はDVDレコーダー出力に関する部分は表示されません。

DVD レコーダー出力モードの画面構成

DVD レコーダー出力モードはコントロール画面（❶）、入出力設定画面（❷）、ライブラリー画面（❸）の３つの画面から構成されています。

❶ コントロール画面
出力する映像を確認することができます。

A. プレビュー画面
映像が表示されます。

B. タイムコード表示部
映像のタイムコードが表示されます。

C. 戻しボタン
クリップの開始点に移動します。
その後、クリックするごとに 1 つ前のクリップの開始点に移動します。

D. 逆再生ボタン
DVD レコーダー出力モードでは使用しません。

E. 再生ボタン
再生します。

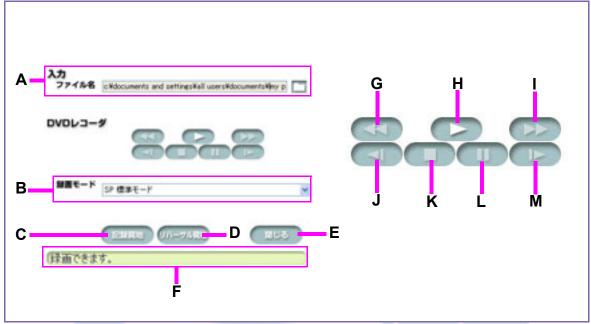
F. 送りボタン
後ろに配置されたクリップの開始点に移動します。
その後、クリックするごとに 1 つ後ろのクリップの開始点に移動します。
最後のクリップの場合は、クリップの終了点に移動します。

G. 逆コマ送りボタン
停止時にクリックすると逆コマ送り再生になります。

H. 停止ボタン
再生中にクリックすると画像が停止します。

I. 一時停止ボタン
再生中にクリックすると画像が停止します。

J. コマ送りボタン
停止時にクリックするとコマ送り再生になります。

❷ 入出力設定画面
入力するファイルを決め DVD ビデオレコーダーを操作して録画を行います。

A. 入力ファイル名選択・表示部
入力ファイル名を指定して表示します。

B. 録画モード指定部
DVDビデオレコーダーの録画モードを指定します。
XP、SP、LP、EP から選ぶことができます。

C. ［記録開始］ボタン
録画を開始します。

D. ［リハーサル開始］ボタン
録画を実行する前に録画後の内容を確認します。

E. ［閉じる］ / ［中断］ボタン
出力モードを終了します。
録画中またはリハーサル中は［中断］ボタンになります。録画またはリハーサルを中断します。

F. 状態表示部
接続しているDVDビデオレコーダーの状態など、現在、録画できる状態であるかどうかが表示されます。

G. 巻戻しボタン
再生時にクリックすると巻戻し再生になります。

H. 再生ボタン
再生します。

I. 早送りボタン
再生時にクリックすると早送り再生になります。

J. 逆スロー再生 / 逆コマ送りボタン
再生時にクリックすると逆スロー再生、一時停止時にクリックすると逆コマ送り再生になります。

K. 停止ボタン
再生などの動きを停止します。

L. 一時停止ボタン
再生中にクリックすると画像が一時停止します。もう一度クリックすると再生します。

M. スロー再生 / コマ送りボタン
再生時にクリックするとスロー再生、一時停止時にクリックするとコマ送り再生になります。

❸ ライブラリー画面
ハードディスクに登録しているデータを MotionDV STUDIO で閲覧できます。DV 機器出力モードの「ライブラリー画面」（P163）と同じです。

編集モードから直接 DVD レコーダー出力モードに切り換えて録画をする

編集トラック上の編集内容を DVD ビデオレコーダーへ出力することができます。

DVD ビデオレコーダーの接続をしておいてください。（P16），（P17）

1. 編集後 TOOL BOX の［］アイコンを選ぶ

- DVD レコーダー出力モードに切り換わります。
- ライブラリーのファイルを選択した後に、DVD レコーダ出力を選択すると、編集トラックのデータではなく、ライブラリー上のデータが出力パネルに送られます。（ライブラリーで複数のファイルが選択されていても、出力パネルに送られるファイルは 1 つになります。）

- 編集トラックにある［出力］ボタンをクリックして、起動した出力ウィンドウから DVD レコーダー出力アイコンを選んでも DVD レコーダー出力モードに切り換わります。

- ［動画］ライブラリーのビデオクリップを右クリックして、コンテキストメニューから［出力］>>［DVD レコーダ］を選択しても DVD レコーダー出力モードに切り換わります。

2. 操作ボタンで出力する内容を確かめる

- 出力する内容を違うものに変えたいときは、編集モードに戻って編集トラックの内容を変えてください。
- 編集トラック上のテープクリップはプレビュー画面で確認することができません。

3. DVD ディスクの内容を確認する

- DVD ビデオレコーダー側のモニターで画像の確認をしてください。

4. 録画モードを決める

DVD ビデオレコーダーが選択したモードに切り換わります。

- ［XP 高画質モード］、［SP 標準モード］、［LP 長時間モード］、［EP 長時間モード］から選ぶことができます。各モードについては DVD ビデオレコーダーの取扱説明書をお読みください。

5. ［リハーサル開始］ボタンをクリックする

リハーサルが開始されます。
リハーサルが終了すると［リハーサルを終了しました］の表示が出ます。

- DVD ビデオレコーダー側のモニターで画像の確認をしてください。

- 編集トラックの中にMPEG2のファイルがある場合、AVIだけの編集トラックに比べてリハーサルが開始されるまで時間がかかることがあります。
- 出力する内容を違うものに変えたいときは、編集モードに戻って編集トラックの内容を変えてください。
- リハーサルを中断したいときは［中断］ボタンをクリックしてください。

6.［OK］をクリックする

- 編集内容を変えたいときは、［OK］をクリックしてから編集モードに戻って編集内容を変えてください。

7.［記録開始］ボタンをクリックする

録画が開始されます。
録画が終了すると［録画を終了しました］の表示がでます。

- リハーサルしないで録画したい場合は［リハーサル開始］ボタンをクリックせずに［記録開始］ボタンをクリックすることですぐに録画を開始することもできます。
- 録画を中断したいときは［中断］ボタンをクリックしてください。
- DVD ビデオレコーダー側のモニターで画像の確認をしてください。

8.［OK］をクリックする

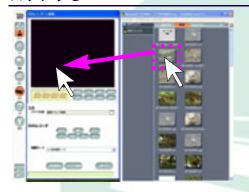
録画が終了します。

ノート

- 記録中に映像が乱れるなど、正しく記録できない状態になった場合、パソコンを再起動してください。
- ご使用のパソコンにルーターや無線 LAN 等のネットワーク機器やUSB機器などが接続されていると、正しく録画ができない場合があります。この場合、それらの機器をパソコンから外してご使用ください。

ライブラリー上の［編集情報］・［動画］を DVD ビデオレコーダーへ出力する

ライブラリー上のビデオクリップ（AVI.MPEG2）や編集情報（SEQ）を DVD ビデオレコーダーに録画することができます。

DVD ビデオレコーダーの接続をしておいてください。（P16），（P17）

1. ライブラリー画面上のサムネイルを出力パネルにドラッグ・アンド・ドロップする

- またはファイル指定ボタン［　］で［ファイルを開く］を開き、ファイル名を指定します。

2. 操作ボタンで出力する内容を確かめる

- 出力する内容を違うものに変えたいときは、「手順 1.」に戻ってサムネイルを選び直してください。
- 編集情報中にあるテープクリップはプレビュー画面で確認することができません。

3. DVD ディスクの内容を確認する

- DVD ビデオレコーダー側のモニターで画像の確認をしてください。

4. 録画モードを決める

DVD ビデオレコーダーが選択したモードに切り換わります。

- ［XP 高画質モード］、［SP 標準モード］、［LP 長時間モード］、［EP 長時間モード］から選ぶことができます。各モードについては DVD ビデオレコーダーの取扱説明書をお読みください。

5. ［リハーサル開始］ボタンをクリックする

リハーサルが開始されます。
リハーサルが終了すると［リハーサルを終了しました］の表示が出ます。

- DVD ビデオレコーダー側のモニターで画像の確認をしてください。
- リハーサルを中断したいときは［中断］ボタンをクリックしてください。

6. ［OK］をクリックする

- 録画する内容を違うものに変えたいときは、［OK］をクリックしてから「手順 1.」に戻ってサムネイルを選び直してください。

ノート

- 記録中に映像が乱れるなど、正しく記録できない状態になった場合、パソコンを再起動してください。
- ご使用のパソコンにルーターや無線 LAN 等のネットワーク機器やUSB機器などが接続されていると、正しく録画ができない場合があります。この場合、それらの機器をパソコンから外してご使用ください。

7. ［記録開始］ボタンをクリックする

録画が開始されます。

- リハーサルしないで録画したい場合は［リハーサル開始］ボタンをクリックせずに［記録開始］ボタンをクリックすることですぐに録画を開始することもできます。
- MPEG2 のファイルの場合、AVI のファイルに比べてリハーサルが開始されるまで時間がかかることがあります。
- 録画を中断したいときは［中断］ボタンをクリックしてください。
- DVD ビデオレコーダー側のモニターで画像の確認をしてください。

8. ［OK］をクリックする

録画が終了します。

D-VHS 出力モード：

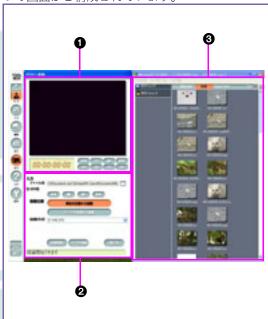
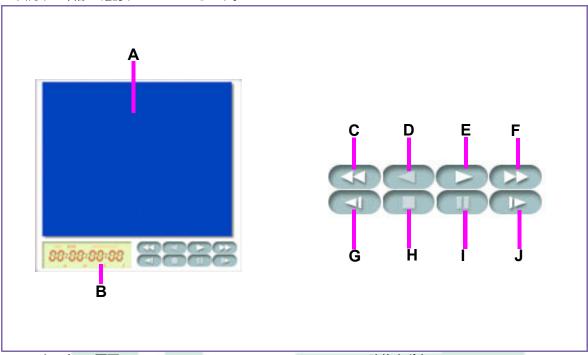
編集したデータを D-VHS ビデオへ出力するときはこのモードで操作してください。

編集トラックにある［出力］ボタンをクリックして、起動した出力ウィンドウから D-VHS 出力アイコンを選んでも［D-VHS 出力モード］に切り換わります。

ノート

編集情報（SEQ 形式）もしくは編集トラックのデータを使って D-VHS 出力するときは、編集トラック上の画像はすべてビデオクリップか静止画クリップにしてください。編集トラックにテープクリップが含まれていると D-VHS ビデオへ出力することができません。

D-VHS 出力モードの画面構成

D-VHS 出力モードはコントロール画面（❶）、入出力設定画面（❷）、ライブラリー画面（❸）の 3 つの画面から構成されています。

❶ コントロール画面

出力する映像を確認することができます。

A. プレビュー画面
映像が表示されます。

B. タイムコード表示部
映像のタイムコードが表示されます。

C. 戻しボタン
クリップの開始点に移動します。
その後、クリックするごとに 1 つ前のクリップの開始点に移動します。

D. 逆再生ボタン
D-VHS 出力モードでは使用しません。

E. 再生ボタン
再生します。

F. 送りボタン
後ろに配置されたクリップの開始点に移動します。
その後、クリックするごとに 1 つ後ろのクリップの開始点に移動します。
最後のクリップの場合は、クリップの終了点に移動します。

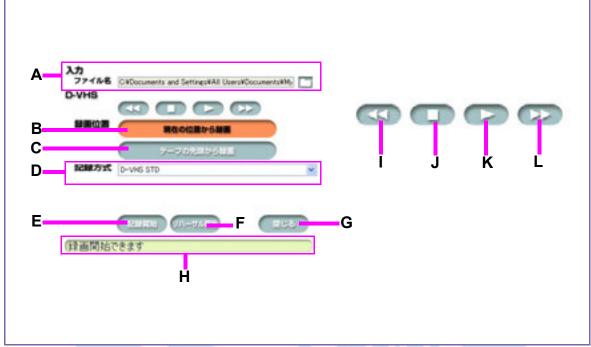
G. 逆コマ送りボタン
停止時にクリックすると逆コマ送り再生になります。

H. 停止ボタン
再生中にクリックすると画像が停止します。

I. 一時停止ボタン
再生中にクリックすると画像が停止します。

J. コマ送りボタン
停止時にクリックするとコマ送り再生になります。

❷ 入出力設定画面

入力するファイルを決め、D-VHS ビデオを操作して録画を行います。

A. 入力ファイル名選択・表示部
入力ファイル名を指定して表示します。

B. ［現在の位置から録画］ボタン
録画を開始する位置をD-VHSテープ上の現在の位置に設定します。

C. ［テープの先頭から録画］ボタン
録画を開始する位置をD-VHSテープの先頭に設定します。

D. 記録方式指定部
D-VHS ビデオの録画モードを指定します。録画モードは［D-VHS　STD］、［D-VHS LS2］、［D-VHS LS3］、［S-VHS 標準］、［S-VHS　3 倍］が用意されていますが、D-VHSビデオの機種と使用しているテープの種類により、指定できるモードは異なります。

E. ［記録開始］ボタン
録画を開始します。

F. ［リハーサル開始］ボタン
録画を実行する前に録画後の内容を確認します。

G. ［閉じる］/［中断］ボタン
出力モードを終了します。
録画中またはリハーサル中は［中断］ボタンになります。録画またはリハーサルを中断します。

H. 状態表示部
接続している D-VHS ビデオの状態など、現在、録画できる状態であるかどうかが表示されます。

I. 巻戻しボタン
再生時にクリックすると巻戻し再生、停止時にクリックすると巻戻しになります。

J. 停止ボタン
再生などの動きを停止します。

K. 再生ボタン
再生します。

L. 早送りボタン
再生時にクリックすると早送り再生、停止時にクリックすると早送りになります。

❸ ライブラリー画面

ハードディスクに登録しているデータを MotionDV STUDIO で閲覧できます。DV 機器出力モードの「ライブラリー画面」（P163）と同じです。

編集モードから直接 D-VHS 出力モードに切り換えて録画を行う

編集トラック上の編集内容を D-VHS ビデオへ出力することができます。

D-VHSビデオの接続をしておいてください。(P16)

1. 編集後 TOOLBOX で［］アイコンを選ぶ

- D-VHS 出力モードに切り換わります。
- ライブラリーのファイルを選択した後に、D-VHS 出力を選択すると、編集トラックのデータではなく、ライブラリー上のデータが出力パネルに送られます。（ライブラリーで複数のファイルが選択されていても、出力パネルに送られるファイルは1つになります。）
- 編集トラックにある［出力］ボタンをクリックして、起動した出力ウィンドウから D-VHS 出力アイコンを選んでも D-VHS 出力モードに切り換わります。

- ［動画］ライブラリーのビデオクリップを右クリックして、コンテキストメニューから［出力］>> ［D-VHS 出力］を選択しても D-VHS 出力モードに切り換わります。

2. 操作ボタンで出力する内容を確かめる

- 出力する内容を違うものに変えたいときは、編集モードに戻って編集トラックの内容を変えてください。

3. テープ上の録画を始める位置を決める

- 画像の確認は D-VHS ビデオ側のモニターでしてください。

［現在の位置から録画］
現在のテープ位置から録画をはじめるときに選びます。操作ボタンで現在の位置の内容を確認してクリックしてください。
［テープの先頭から録画］
テープの先頭から録画をするときに選びます。

4. 記録方式を決める

D-VHS の録画モードを指定します。

- 録画モードは［D-VHS STD］、［D-VHS LS2］、［D-VHS LS3］、［S-VHS 標準］、［S-VHS 3 倍］が用意されていますが、D-VHS ビデオの機種と使用しているテープの種類により、指定できるモードは異なります。

5. [リハーサル開始] ボタンをクリックする

[出力用ファイル作成中] の表示が出てからリハーサルが開始されます。
リハーサルが終了すると [リハーサルを終了しました] の表示が出ます。

- 画像の確認は D-VHS ビデオ側のモニターでしてください。
- リハーサルを中断したいときは [中断] ボタンをクリックしてください。（ただし、終了前数秒間は [中断] ボタンを押さないでください。パソコンの動作が不安定になることがあります。）

6. [OK] をクリックする

- 編集内容を変えたいときは、[OK] をクリックしてから編集モードに戻って編集内容を変えてください。

7. [記録開始] ボタンをクリックする

録画が開始されます。
[録画中] の表示が出ます。
録画が終了すると [録画を終了しました] の表示が出ます。

- 画像の確認は D-VHS ビデオ側のモニターでしてください。
- [リハーサル開始] ボタンをクリックせずに [記録開始] ボタンをクリックすると、[出力用ファイル作成中] の表示が出てから [録画中] の表示が出ます。
- 録画を中断したいときは [中断] ボタンをクリックしてください。（ただし、終了前数秒間は [中断] ボタンを押さないでください。パソコンの動作が不安定になることがあります。）

8. [OK] をクリックする

録画が終了します。

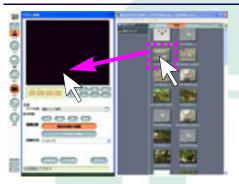
ノート

- D-VHS ビデオへの記録動作に関して、30 秒程度の MPEG2 ファイルを記録し、正常に再生するかどうか確認されることをお勧めします。
- 編集モードから直接D-VHS出力モードに切り換えて出力するときは、編集トラック上の画像はすべてビデオクリップか静止画クリップにしてください。編集トラックにテープクリップが含まれていると D-VHS 出力することができません。
- 編集トラックの長さは15秒以上になるようにしてください。15 秒より短い場合、記録できません。
- 編集トラックに MotionDV STUDIO ではサポートできない種類の MPEG2 ファイルが配置されている場合、D-VHS ビデオへの出力はできません。
- [テープの先頭から録画] を選択して、D-VHS ビデオへの記録を開始した場合、巻き戻し動作の終了間際もしくは終了と同時にキャンセルボタンを押さないでください。正常に動作しなくなることがあります。
- 記録中に映像が乱れるなど、正しく記録できない状態になった場合、パソコンを再起動してください。
- ご使用のパソコンにルーターや無線 LAN 等のネットワーク機器やUSB機器などが接続されていると、正しく録画ができない場合があります。この場合、それらの機器をパソコンから外してご使用ください。

ライブラリー上の［編集情報］・［動画］を D-VHS ビデオへ出力する

ライブラリー上のビデオクリップ（AVI.MPEG2）や編集情報（SEQ）を D-VHS ビデオへ出力することができます。

D-VHS ビデオの接続をしておいてください。
（P16）（P17）

1. ライブラリー画面上のサムネイルを出力パネルにドラッグ・アンド・ドロップする

- またはファイル指定ボタン［ ］で［ファイルを開く］を開き、ファイル名を指定します。

2. 操作ボタンで出力する内容を確かめる

- 出力する内容を違うものに変えたいときは、「手順 1.」に戻ってサムネイルを選び直してください。

3. テープ上の録画を始める位置を決める

- 画像の確認は D-VHS ビデオ側のモニターでしてください。

4. 記録方式を決める

D-VHS の録画モードを指定します。

- 録画モードは［D-VHS STD］、［D-VHS LS2］、［D-VHS LS3］、［S-VHS 標準］、［S-VHS 3 倍］が用意されていますが、D-VHS ビデオの機種と使用しているテープの種類により、指定できるモードは異なります。

5. ［リハーサル開始］ボタンをクリックする

［出力用ファイル作成中］の表示が出てからリハーサルが開始されます。
リハーサルが終了すると［リハーサルを終了しました］の表示が出ます。

- 画像の確認は D-VHS ビデオ側のモニターでしてください。
- リハーサルを中断したいときは［中断］ボタンをクリックしてください。（ただし、終了前数秒間は［中断］ボタンを押さないでください。パソコンの動作が不安定になることがあります。）

6. ［OK］をクリックする

- 出力する内容を違うものに変えたいときは、［OK］をクリックしてから「手順 1.」に戻ってサムネイルを選び直してください。

7. [記録開始] ボタンをクリックする

録画が開始されます。
[録画中] の表示が出ます。
録画が終了すると [録画を終了しました] の表示が出ます。

- 画像の確認は D-VHS ビデオ側のモニターでしてください。
- [リハーサル開始] ボタンをクリックせずに [記録開始] ボタンをクリックすると、[出力用ファイル作成中] の表示が出てから [記録中] の表示が出ます。
- 録画を中断したいときは [中断] ボタンをクリックしてください。(ただし、終了前数秒間は [中断] ボタンを押さないでください。パソコンの動作が不安定になることがあります。)

8. [OK] をクリックする

録画が終了します。

ノート

- D-VHS ビデオへの記録動作に関して、30 秒程度の MPEG2 ファイルを記録し、正常に再生するかどうか確認されることをお勧めします。
- 長さが 15 秒以上のファイルを選んでください。15 秒より短い場合、記録できません。
- MotionDV STUDIO ではサポートできない種類の MPEG2 ファイルやテープクリップが編集トラックに配置されている場合、編集情報を使って D-VHS ビデオへ出力することはできません。
- [テープの先頭から録画] を選択して、D-VHS ビデオへの記録を開始した場合、巻き戻し動作の終了間際もしくは終了と同時にキャンセルボタンを押さないでください。正常に動作しなくなることがあります。
- 記録中に映像が乱れるなど、正しく記録できない状態になった場合、パソコンを再起動してください。
- ご使用のパソコンにルーターや無線 LAN 等のネットワーク機器やUSB機器などが接続されていると、正しく録画ができない場合があります。この場合、それらの機器をパソコンから外してご使用ください。

ビデオメールモード：

ビデオメールモードでは、動画を電子メールソフトへ送ることができます。

編集トラックにある［出力］ボタンをクリックして、起動した出力ウィンドウからビデオメールアイコンを選んでもビデオメールモードに切り換わります。

ビデオメールモードでは以下のことができます。
- AVI,MPEG2,SEQ 形式のファイルをASF 形式に変換してファイルを圧縮する。
- メールソフトを起動し、書き出したファイルを添付する。

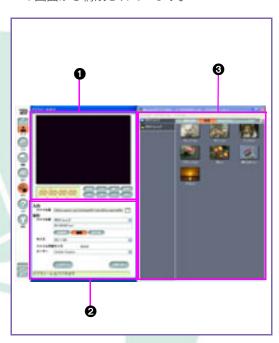
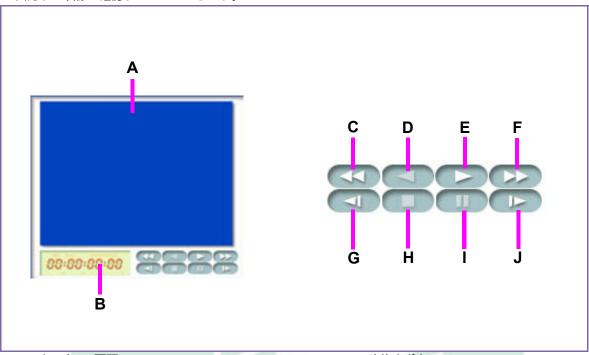
電子メールの送信をするためには、事前にインターネットや電子メールソフトの設定が必要です。

ビデオメールモードで書き出した動画を再生するためには、Windows Media Player6.4 以降が必要です。

ノート

編集情報（SEQ 形式）もしくは編集トラックのデータを使ってビデオメール出力するときは、編集トラック上の画像はすべてビデオクリップか静止画クリップにしてください。編集トラックにテープクリップが含まれているとビデオメール出力することができません。

ビデオメールモードの画面構成

ビデオメールモードはコントロール画面（❶)、入出力設定画面（❷)、ライブラリー画面（❸）の3つの画面から構成されています。

❶ コントロール画面
出力する映像を確認することができます。

A. プレビュー画面
映像が表示されます。
B. タイムコード表示部
映像のタイムコードが表示されます。
C. 戻しボタン
クリップの開始点に移動します。
その後、クリックするごとに 1 つ前のクリップの開始点に移動します。
D. 逆再生ボタン
ビデオメールモードでは使用しません。
E. 再生ボタン
再生します。
F. 送りボタン
後ろに配置されたクリップの開始点に移動します。
その後、クリックするごとに 1 つ後ろのクリップの開始点に移動します。
最後のクリップの場合は、クリップの終了点に移動します。
G. 逆コマ送りボタン
停止時にクリックすると逆コマ送り再生になります。
H. 停止ボタン
再生中にクリックすると画像が停止します。
I. 一時停止ボタン
再生中にクリックすると画像が停止します。
J. コマ送りボタン
停止時にクリックするとコマ送り再生になります。

❷ 入出力設定画面

入力するファイルを決め、ファイルを変換して
メールソフトにデータを渡します。

A. 入力ファイル名選択・表示部
入力ファイル名を指定して表示します。
次の形式のファイルを入力ファイルとして
指定することができます。
SEQ 形式、AVI 形式、MPEG2 形式

B. 出力ファイル名選択・表示部
出力する先のフォルダーを選択し、ファイル名を入力して表示します。選ぶことができるフォルダーは、ライブラリー画面で表示されているものに限られます。

C. 画質
ASF ファイルに変換後の画質を選びます。
［高画質］
画質はよくなりますが、ファイルのサイズは大きくなります。
［標準］
標準的な画質です。ファイルサイズは高画質より小さくなります。
［高圧縮］
画質は標準より劣りますが、ファイルサイズは標準より小さくなります。

D. サイズ
ASF ファイルに変換後の画像のサイズを選びます。
［352×288］、［176×144］からサイズを選びます。

E. ファイル予想サイズ
ASF ファイルに変換後のファイルの予想サイズを表示します。

F. メーラー設定
使用するメールソフトを選びます。
対応メーラーがインストールされると自動的にこの部分にメーラーが追加されます。
動作検証済みメーラー：Windows XP に標準搭載されている Outlook Express

G. ［出力］ボタン
出力を開始します。

H. ［閉じる］/［中断］ボタン
出力モードを終了します。
出力中は［中断］ボタンになります。出力を中断します。

I. 状態表示部
現在、ファイル出力できる状態であるかどうかが表示されます。
［入力ファイルを選択してください。］などの表示で操作の目安となります

❸ ライブラリー画面

ハードディスクに登録しているデータを MotionDV STUDIO で閲覧できます。DV 機器出力モードの「ライブラリー画面」（P163）と同じです。

編集モードから直接ビデオメールモードに切り換えてメールへ出力する

編集トラック上の編集内容をメールソフトへ出力することができます。

- 入力ファイルを圧縮したファイル（ASF 形式）に変換して電子メールで送ります。インターネット接続の設定をしておいてください。
- Outlook Express をつかった場合の説明です。

1. 編集後 TOOL BOX で［ ］アイコンを選ぶ

- ビデオメールモードに切り換わります。
- ライブラリーのファイルを選択した後に、ビデオメールを選択すると、編集トラックのデータではなく、ライブラリー上のデータが出力パネルに送られます。（ライブラリーで複数のファイルが選択されていても、出力パネルに送られるファイルは1つになります。）

- 編集トラックにある［出力］ボタンをクリックして、起動した出力ウィンドウからビデオメールアイコンを選んでもビデオメールモードに切り換わります。

- ［動画］ライブラリーのビデオクリップを右クリックして、コンテキストメニューから［出力］>> ［ビデオメール出力］を選択してもビデオメールモードに切り換わります。
- ［Mpeg1/Asf］ライブラリーの ASF ファイルを右クリックして、コンテキストメニューから［ビデオメール出力］を選択すると、ビデオクリップを直接メールソフトへ送ることができます。

2. 操作ボタンで出力する内容を確かめる

- 出力する内容を違うものに変えたいときは、編集モードに戻って編集トラックの内容を変えてください。

3. 出力フォルダーとファイル名を決める

［ファイル名］
MotionDV STUDIOが使用できるフォルダーを選ぶことができます。また出力されるファイルに名前を入力して付けることができます。

4. ［サイズ］と［画質］で適当なサイズと画質を選ぶ

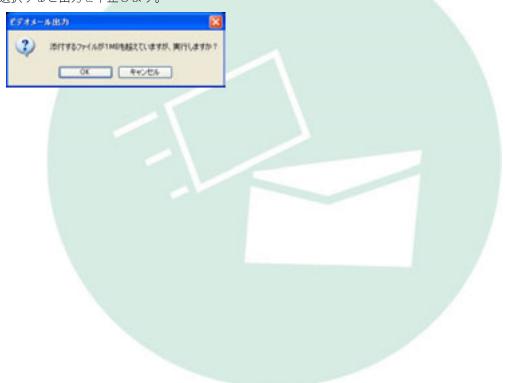
- 圧縮予想サイズが下に表示されます。

5. ［出力］ボタンをクリックする

状態表示部に［出力用ファイル作成中］と表示されます。出力が終了すると、Outlook Express が起動し、添付ファイルを付けた新規メッセージが表示されます。

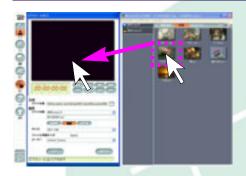
- 出力されたファイルはビデオクリップとしてライブラリーに表示されます。（［Mpeg1/Asf］ライブラリーに表示されます）
- 送信する動画ファイルを再生するには受信者側に、Windows Media Player6.4 以降が必要です。
- メーラーによっては自動でファイル添付されない場合があります。その場合は手動でファイルを添付してください。

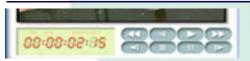
ノート

- 編集モードから直接ビデオメールモードに切り換えて出力するときは、編集トラック上の画像はすべてビデオクリップか静止画クリップにしてください。編集トラックにテープクリップが含まれているとビデオメール出力することができません。
- ファイル予想サイズが 1 MB を超える場合、以下のダイアログが表示されます。[OK] を選択するとそのまま出力が実行され、[キャンセル] を選択すると出力を中止します。

ライブラリー上の［編集情報］・［動画］をビデオメール出力する

ライブラリー上のビデオクリップ（AVI.MPEG2）や編集情報（SEQ）をビデオメール出力することができます。

• Outlook Express をつかった場合の説明です。

1. ライブラリー画面上のサムネイルを出力パネルにドラッグ・アンド・ドロップする

• またはファイル指定ボタン［ ］で［ファイルを開く］を開き、ファイル名を指定します。

2. 操作ボタンで出力する内容を確かめる

• 出力する内容を違うものに変えたいときは、「手順 1.」に戻ってサムネイルを選び直してください。

3. 出力フォルダーとファイル名を決める

［ファイル名］
MotionDV STUDIOが使用できるフォルダーを選ぶことができます。また出力されるファイルに名前を入力して付けることができます。

4. ［サイズ］と［画質］で適当なサイズと画質を選ぶ

• 圧縮予想サイズが下に表示されます。

5. ［出力］ボタンをクリックする

状態表示部に［出力用ファイル作成中］と表示されます。出力が終了すると、Outlook Express が起動し、添付ファイルを付けた新規メッセージが表示されます。

• 出力されたファイルはビデオクリップとしてライブラリーに表示されます。（［Mpeg1/Asf］ライブラリーに表示されます）
• 送信する動画ファイルを再生するには受信者側に、Windows Media Player6.4 以降が必要です。
• メーラーによっては自動でファイル添付されない場合があります。その場合は手動でファイルを添付してください。

ノート

• 編集情報（SEQ 形式）を使ってビデオメール出力するときは、編集トラック上の画像はすべてビデオクリップか静止画クリップにしてください。編集トラックにテープクリップが含まれているとビデオメール出力することができません。
• ファイル予想サイズが 1 MB を超える場合、以下のダイアログが表示されます。［OK］を選択するとそのまま出力が実行され、［キャンセル］を選択すると出力を中止します。

DVD-R/RW 出力モード：

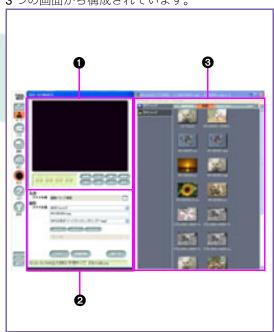
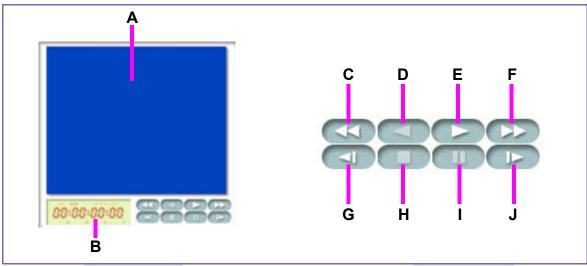
対応書込みアプリケーションがインストールされていると、対応書込みアプリケーションへファイルを出力し、さらにアプリケーションを起動することができます。

- 対応書込みアプリケーションがインストールされていない場合はこのモードはご利用いただけません。
- 対応書込みアプリケーションの操作方法につきましては、各アプリケーションの取扱説明書をお読みください。
- 複数の対応書込みアプリケーションがインストールされている場合は，そのうちの1つのアプリケーションとのみ連携します。（MotionDV STUDIO が自動で選択します。任意のソフトを選択することはできません）

ノート

- 編集情報（SEQ 形式）もしくは編集トラックのデータを使って対応書込みアプリケーションに出力するときは、編集トラック上の画像はすべてビデオクリップか静止画クリップにしてください。編集トラックにテープクリップが含まれていると対応書込みアプリケーションに出力することができません。
- 編集情報（SEQ 形式）もしくは編集トラックのデータを使って対応書込みアプリケーションに出力するときは、出力される画像サイズは編集情報の内容によって自動的に調整されます。

DVD-R/RW 出力モードの画面構成

DVD-R/RW 出力モードはコントロール画面（❶）、入出力設定画面（❷）、ライブラリー画面（❸）の3つの画面から構成されています。

❶ コントロール画面
出力する映像を確認することができます。

A. プレビュー画面
映像が表示されます。

B. タイムコード表示部
映像のタイムコードが表示されます。

C. 戻しボタン
クリップの開始点に移動します。
その後、クリックするごとに 1 つ前のクリップの開始点に移動します。

D. 逆再生ボタン
DVD-R/RW 出力モードでは使用しません。

E. 再生ボタン
再生します。

F. 送りボタン
後ろに配置されたクリップの開始点に移動します。
その後、クリックするごとに 1 つ後ろのクリップの開始点に移動します。
最後のクリップの場合は、クリップの終了点に移動します。

G. 逆コマ送りボタン
停止時にクリックすると逆コマ送り再生になります。

H. 停止ボタン
再生中にクリックすると画像が停止します。

I. 一時停止ボタン
再生中にクリックすると画像が停止します。

J. コマ送りボタン
停止時にクリックするとコマ送り再生になります。

❷ 入出力設定画面

入力するファイルを決め、対応書込みアプリケーションにデータを出力します。

A. 入力ファイル名選択・表示部

入力ファイル名を指定して表示します。
次の形式のファイルを入力ファイルとして指定することができます。
SEQ 形式、AVI 形式、MPEG2 形式

B. 出力ファイル名選択・表示部

出力する先のフォルダーを選択し、ファイル名を入力して表示します。選ぶことができるフォルダーは、ライブラリー画面で表示されているものに限られます。

C. フォーマット指定部

出力するファイルのファイル形式を指定します。
（初期値では、出力されるファイルサイズによって、最も画質が良くなる最適なフォーマットが自動的に選択されています）
MPEG2 形式（フォーマット指定）、MPEG2 形式（ハイブリッドレンダリング）から選ぶことができます。

MPEG2 形式（フォーマット指定）を指定した場合、［高画質］、［標準］、［高圧縮］の各ボタンで画質を選択することができます。
［高画質］
画質はよくなりますが、ファイルのサイズは大きくなります。
［標準］
標準的な画質です。ファイルサイズは高画質より小さくなります。
［高圧縮］
画質は標準より劣りますが、ファイルサイズは標準より小さくなります。
（サイズを［720×480］にした場合、このボタンを選択することはできません）

- 一度［MPEG2 形式（ハイブリッドレンダリング）］で作成した MPEG2 ファイルを、再度［MPEG2 形式（ハイブリッドレンダリング）］で出力することはできません。

D. サイズ指定部

画像のサイズを指定します。
フォーマット指定部で MPEG2 形式（フォーマット指定）を指定したときは［720×480］、［352×480］、［352×240］からサイズを選びます。

E. ［出力］ボタン

出力を開始します。

F. ［詳細情報］ボタン

出力するデータの詳細情報を表示します。

G. ［閉じる］/［中断］ボタン

出力モードを終了します。
出力中は［中断］ボタンになります。出力を中断します。

H. 状態表示部

出力されるデータの予想サイズなどが表示されます。
出力予想サイズが DVD-R/RW の容量を超える場合はメッセージが表示され、出力することができません。

❸ ライブラリー画面

ハードディスクに登録しているデータを MotionDV STUDIO で閲覧できます。DV 機器出力モードの「ライブラリー画面」（P163）と同じです。

編集モードから直接 DVD-R/RW 出力モードに切り換えて対応書込みアプリケーションへ出力する

編集トラック上の編集内容を対応書込みアプリケーションへ出力することができます。

1. 編集後 TOOL BOX で［］アイコンを選ぶ

- ［DVD-R/RW 出力モード］に切り換わります。
- ライブラリーのファイルを選択した後に、DVD-R/RW へ出力を選択すると、編集トラックのデータではなく、ライブラリーのデータが対応書込みアプリケーションに直接送られます。（P201）
- 編集トラックにある［出力］ボタンをクリックして、起動した出力ウィンドウから DVD-R/RW 出力アイコンを選んでも［DVD-R/RW 出力モード］に切り換わります。

2. 操作ボタンで出力する内容を確かめる

- 出力する内容を違うものに変えたいときは、編集モードに戻って編集トラックの内容を変えてください。

3. 出力するファイルの形式を決める

［ファイル名］
MotionDV STUDIOが使用できるフォルダーを選ぶことができます。また出力されるファイルに名前を入力して付けることができます。
フォーマット、サイズ
フォーマット指定部（P197）をご覧ください。

4. ［詳細情報］ボタンをクリックし、出力されるファイルのファイル予想サイズなどを確認する

5. ［出力］ボタンをクリックする

状態表示部に［出力用ファイル作成中］と表示されます。出力が終了すると、対応書込みアプリケーションが起動します
- 出力されたファイルはビデオクリップとしてライブラリーに表示されます。

ノート

- 編集モードから直接DVD-R/RW出力モードに切り換えて出力するときは、編集トラック上の画像はすべてビデオクリップか静止画クリップにしてください。編集トラックにテープクリップが含まれていると出力することができません。
- 編集モードから直接DVD-R/RW出力モードに切り換えて出力するときは、出力される画像サイズは編集情報の内容によって自動的に調整されます。
- 出力データの合計サイズがDVD-R/RWのサイズを超える場合は出力できません。

- デスクトップの画面解像度が 1024×768 未満の設定の場合は出力できません。
- 本ソフトウェアーもしくは Panasonic「TVfunSTUDIO」以外で作成された MPEG2 ファイルは、出力できない場合があります。
- ハイブリッドレンダリングで作成されたファイルを含む編集情報を、ハイブリッドレンダリングすることはできません。MPEG ファイルとして出力したい場合は、[MPEG2（フォーマット指定)］でファイルを出力してください。

ライブラリー上の［編集情報］・［動画］を対応書込みアプリケーションへ出力する

ライブラリー上のビデオクリップ（AVI,MPEG2）や編集情報（SEQ）を対応書込みアプリケーションへ出力することができます。

1. ライブラリー画面上のサムネイルを出力パネルにドラッグ・アンド・ドロップする

- またはファイル指定ボタン［ ］で［ファイルを開く］を開き、ファイル名を指定します。

2. 操作ボタンで出力する内容を確かめる

- 出力する内容を違うものに変えたいときは、「手順 1.」に戻ってサムネイルを選び直してください。

3. 出力するファイルの形式を決める

［ファイル名］
MotionDV STUDIOが使用できるフォルダーを選ぶことができます。また出力されるファイルに名前を入力して付けることができます。
フォーマット、サイズ
フォーマット指定部（P197）をご覧ください。

4. ［詳細情報］ボタンをクリックし、出力されるファイルのファイル予想サイズなどを確認する

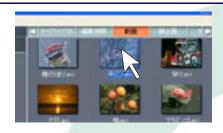
5. ［出力］ボタンをクリックする

状態表示部に［出力用ファイル作成中］と表示されます。出力が終了すると、対応書込みアプリケーションが起動します。
- 出力されたファイルはビデオクリップとしてライブラリーに表示されます。

ノート

- 編集情報（SEQ 形式）を使って対応書込みアプリケーションへ出力するときは、編集トラック上の画像はすべてビデオクリップか静止画クリップにしてください。編集トラックにテープクリップが含まれていると出力することができません。
- 編集情報（SEQ 形式）を使って対応書込みアプリケーションへ出力するときは、出力される画像サイズは編集情報の内容によって自動的に調整されます。
- 出力データの合計サイズがDVD-R/RWのサイズを超える場合は出力できません。
- デスクトップの画面解像度が 1024×768 未満の設定の場合は出力できません。
- 本ソフトウェアーもしくは Panasonic「TVfunSTUDIO」以外で作成された MPEG2 ファイルは、出力できない場合があります。
- ハイブリッドレンダリングで作成されたファイルを含む編集情報を、ハイブリッドレンダリングすることはできません。MPEG ファイルとして出力したい場合は、［MPEG2（フォーマット指定）］でファイルを出力してください。

出力パネルを起動せずに直接対応書込みアプリケーションへ出力する

MotionDV STUDIO の［動画］ライブラリーから選択可能なビデオクリップを選択し、対応書込みアプリケーションに直接出力することができます。

1. ライブラリーから出力したいファイルを選択する

連携可能フォーマット
AVI,MPEG2

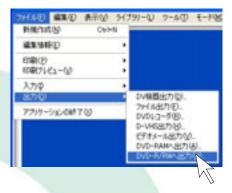
• 複数のファイルを選択することができます。

2. TOOL BOX で［ DVD-R/RWへ出力 ］アイコンを選ぶ

対応書込みアプリケーションが起動します。

■ その他の連携方法

ライブラリーでビデオクリップを選択した後、次の方法でも連携することができます。

• メニューの［ファイル］>>［出力］>>［DVD-R/RW へ出力］を選択する。

• 右クリックのコンテキストメニューから［DVD-R/RW へ出力］を選択する。

ノート

• 出力データの合計サイズがDVD-R/RWのサイズを超える場合は出力できません。
• 18個以上のファイルを選択して出力することはできません。
• サイズやフォーマットが違うファイルを複数選択して出力することはできません。
• デスクトップの画面解像度が 1024×768 未満の設定の場合は出力できません。
• 本ソフトウェアーもしくは Panasonic「TVfunSTUDIO」以外で作成された MPEG2 ファイルは、出力できない場合があります。

DVD-RAM 出力モード :

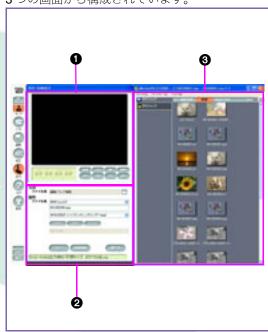
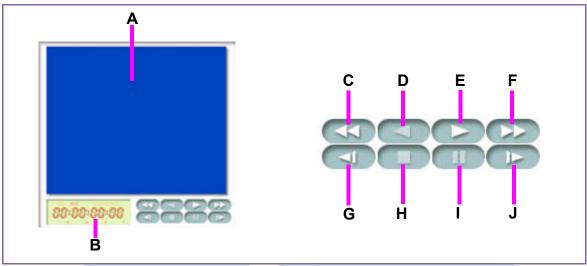
対応書込みアプリケーションがインストールされていると、対応書込みアプリケーションへファイルを出力し、さらにアプリケーションを起動することができます。

- 対応書込みアプリケーションがインストールされていない場合はこのモードはご利用いただけません。
- 対応書込みアプリケーションの操作方法につきましては、各アプリケーションの取扱説明書をお読みください。
- 複数の対応書込みアプリケーションがインストールされている場合はそのうちの 1 つのアプリケーションとのみ連携します。（MotionDV STUDIO が自動で選択します。任意のソフトを選択することはできません）

ノート

- 編集情報（SEQ 形式）もしくは編集トラックのデータを使って対応書込みアプリケーションに出力するときは、編集トラック上の画像はすべてビデオクリップか静止画クリップにしてください。編集トラックにテープクリップが含まれていると対応書込みアプリケーションに出力することができません。
- 編集情報（SEQ 形式）もしくは編集トラックのデータを使って対応書込みアプリケーションに出力するときは、出力される画像サイズは編集情報の内容によって自動的に調整されます。

DVD-RAM 出力モードの画面構成

DVD-RAM 出力モードはコントロール画面（❶）、入出力設定画面（❷）、ライブラリー画面（❸）の 3 つの画面から構成されています。

❶ コントロール画面
出力する映像を確認することができます。

A. プレビュー画面
映像が表示されます。
B. タイムコード表示部
映像のタイムコードが表示されます。
C. 戻しボタン
クリップの開始点に移動します。
その後、クリックするごとに 1 つ前のクリップの開始点に移動します。
D. 逆再生ボタン
DVD-RAM 出力モードでは使用しません。
E. 再生ボタン
再生します。
F. 送りボタン
後ろに配置されたクリップの開始点に移動します。
その後、クリックするごとに 1 つ後ろのクリップの開始点に移動します。
最後のクリップの場合は、クリップの終了点に移動します。
G. 逆コマ送りボタン
停止時にクリックすると逆コマ送り再生になります。
H. 停止ボタン
再生中にクリックすると画像が停止します。
I. 一時停止ボタン
再生中にクリックすると画像が停止します。
J. コマ送りボタン
停止時にクリックするとコマ送り再生になります。

❷ 入出力設定画面
入力するファイルを決め、対応書込みアプリケーションにデータを出力します。

A. 入力ファイル名選択・表示部
入力ファイル名を指定して表示します。
次の形式のファイルを入力ファイルとして指定することができます。
SEQ 形式、AVI 形式、MPEG2 形式

B. 出力ファイル名選択・表示部
出力する先のフォルダーを選択し、ファイル名を入力して表示します。選ぶことができるフォルダーは、ライブラリー画面で表示されているものに限られます。

C. フォーマット指定部
出力するファイルのファイル形式を指定します。
（初期値では、出力されるファイルサイズによって、最も画質が良くなる最適なフォーマットが自動的に選択されています）
MPEG2 形式（フォーマット指定）、MPEG2 形式（ハイブリッドレンダリング）から選ぶことができます。

MPEG2 形式（フォーマット指定）を指定した場合、［高画質］、［標準］、［高圧縮］の各ボタンで画質を選択することができます。
［高画質］
画質はよくなりますが、ファイルのサイズは大きくなります。
［標準］
標準的な画質です。ファイルサイズは高画質より小さくなります。
［高圧縮］
画質は標準より劣りますが、ファイルサイズは標準より小さくなります。
（サイズを［720×480］にした場合、このボタンを選択することはできません）
- 一度［MPEG2 形式（ハイブリッドレンダリング）］で作成した MPEG2 ファイルを、再度［MPEG2 形式（ハイブリッドレンダリング）］で出力することはできません。

D. サイズ指定部
画像のサイズを指定します。
フォーマット指定部で MPEG2 形式（フォーマット指定）を指定したときは［720×480］、［352×480］、［352×240］からサイズを選びます。

E. ［出力］ボタン
出力を開始します。

F. ［詳細情報］ボタン
出力するデータの詳細情報を表示します。

G. ［閉じる］/［中断］ボタン
出力モードを終了します。
出力中は［中断］ボタンになります。出力を中断します。

H. 状態表示部
出力されるデータの予想サイズなどが表示されます。
出力予想サイズが DVD-RAM の容量を超える場合はメッセージが表示され、出力することができません。

❸ ライブラリー画面
ハードディスクに登録しているデータを MotionDV STUDIO で閲覧できます。DV 機器出力モードの「ライブラリー画面」（P163）と同じです。

編集モードから直接DVD-RAM出力モードに切り換えて対応書込みアプリケーションへ出力する

編集トラック上の編集内容を対応書込みアプリケーションへ出力することができます。

1. 編集後 TOOL BOX で［］アイコンを選ぶ

- ［DVD-RAM 出力モード］に切り換わります。
- ライブラリーのファイルを選択した後に、DVD-RAM へ出力を選択すると、編集トラックのデータではなく、ライブラリーのデータが対応書込みアプリケーションに直接送られます。（P207）

- 編集トラックにある［出力］ボタンをクリックして、起動した出力ウィンドウから DVD-RAM 出力アイコンを選んでも［DVD-RAM 出力モード］に切り換わります。

2. 操作ボタンで出力する内容を確かめる

- 出力する内容を違うものに変えたいときは、編集モードに戻って編集トラックの内容を変えてください。

3. 出力するファイルの形式を決める

［ファイル名］
MotionDV STUDIOが使用できるフォルダーを選ぶことができます。また出力されるファイルに名前を入力して付けることができます。
フォーマット、サイズ（P204）

4. ［詳細情報］ボタンをクリックし、出力されるファイルのファイル予想サイズなどを確認する

5. ［出力］ボタンをクリックする

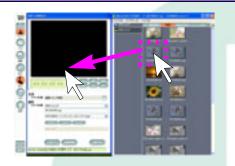
状態表示部に［出力用ファイル作成中］と表示されます。出力が終了すると、対応書込みアプリケーションが起動します。
- 出力されたファイルはビデオクリップとしてライブラリーに表示されます。

ノート

- 編集モードから直接 DVD-RAM 出力モードに切り換えて出力するときは、編集トラック上の画像はすべてビデオクリップか静止画クリップにしてください。編集トラックにテープクリップが含まれていると出力することができません。
- 編集モードから直接 DVD-RAM 出力モードに切り換えて出力するときは、出力される画像サイズは編集情報の内容によって自動的に調整されます。
- ハイブリッドレンダリングで作成されたファイルを含む編集情報を、ハイブリッドレンダリングすることはできません。MPEG ファイルとして出力したい場合は、［MPEG2（フォーマット指定）］でファイルを出力してください。

ライブラリー上の［編集情報］・［動画］を対応書込みアプリケーションへ出力する

ライブラリー上のビデオクリップ（AVI,MPEG2）や編集情報（SEQ）を対応書込みアプリケーションへ出力することができます。

1. ライブラリー画面上のサムネイルを出力パネルにドラッグ・アンド・ドロップする

• またはファイル指定ボタン［ ］で［ファイルを開く］を開き、ファイル名を指定します。

2. 操作ボタンで出力する内容を確かめる

• 出力する内容を違うものに変えたいときは、「手順 1.」に戻ってサムネイルを選び直してください。

3. 出力するファイルの形式を決める

［ファイル名］
MotionDV STUDIOが使用できるフォルダーを選ぶことができます。また出力されるファイルに名前を入力して付けることができます。
フォーマット、サイズ
フォーマット指定部（P204）をご覧ください。

4. ［詳細情報］ボタンをクリックし、出力されるファイルのファイル予想サイズなどを確認する

5. ［出力］ボタンをクリックする

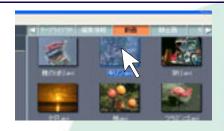
状態表示部に［出力用ファイル作成中］と表示されます。出力が終了すると、対応書込みアプリケーションが起動します。
• 出力されたファイルはビデオクリップとしてライブラリーに表示されます。

ノート

• 編集情報（SEQ 形式）を使って連携対応アプリケーションへ出力するときは、編集トラック上の画像はすべてビデオクリップか静止画クリップにしてください。編集トラックにテープクリップが含まれていると出力することができません。
• 編集情報（SEQ 形式）を使って連携対応アプリケーションへ出力するときは、出力される画像サイズは編集情報の内容によって自動的に調整されます。
• ハイブリッドレンダリングで作成されたファイルを含む編集情報を、ハイブリッドレンダリングすることはできません。MPEG ファイルとして出力したい場合は、［MPEG2（フォーマット指定）］でファイルを出力してください。

出力パネルを起動せずに直接対応書込みアプリケーションへ出力する

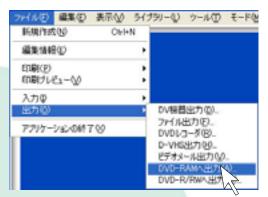
MotionDV STUDIO の［動画］ライブラリーから出力可能なビデオクリップを選択し、対応書込みアプリケーションに直接出力することができます。

1. ライブラリーから出力したいファイルを選択する

連携可能フォーマット
AVI,MPEG2
• 複数のファイルを選択することができます。

2. TOOL BOX で［ ］アイコンを選ぶ

対応書込みアプリケーションが起動します。

■ その他の連携方法

ライブラリーでビデオクリップを選択した後、以下の方法でも連携することができます。
• メニューの［ファイル］ >> ［出力］ >> ［DVD-RAM へ出力］を選択する。

• 右クリックのコンテキストメニューから［DVD-RAM へ出力］を選択する。

ヘルプモード

ヘルプモードについて

MotionDV STUDIO には操作中に参照することができるヘルプモードが用意されています。また、操作の概要を動画を交えて紹介するガイダンスや MotionDV STUDIO そのものの特長を紹介したデモンストレーションモードもあり、実際に使用するときのガイドとして役立ちます。

ビギナーズガイダンスモード： (P209)

MotionDV STUDIO の入門者向けガイダンス（かんたんモードのみ）を見たいときに選択します。
画像の取り込みから編集・加工を経て、DV 機器に出力するまでの一連の操作の概要が表示されます。

機能別ガイダンスモード： (P210)

MotionDV STUDIO の機能別のガイダンス（標準モードのみ）を見たいときに選択します。
「入力」、「編集」、「加工」、「出力」を選ぶとその機能のガイダンスが表示されます。

ヘルプモード： (P211)

MotionDV STUDIO の取扱説明書（低解像度：画面表示用）を見たいときに選択します。

デモンストレーションモード： (P212)

MotionDV STUDIO のデモンストレーションを見たいときに選択します。

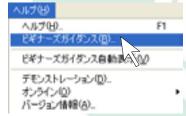
ビギナーズガイダンスモード：

MotionDV STUDIO の入門者向けガイダンス（かんたんモードのみ）が表示されます。
画像の取り込みから編集、加工、DV 機器に出力まで、一連の操作の流れが分かりやすく配置されたガイダンスです。

ビギナーズガイダンスを表示するには

■「入力」、「編集」、「加工」、「出力」を選ぶと自動でその操作に関するガイダンス画面が表示されます。

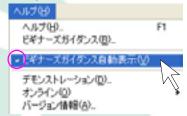
■ TOOL BOX の、[ ] を選ぶとビギナーズガイダンスのメニュー画面が表示されます。

• DV キャプチャーモード、ノンリニア編集モードのメニューの［ヘルプ］>>［ビギナーズガイダンス］を選んでもビギナーズガイダンスのメニュー画面が表示されます。

ビギナーズガイダンスを閉じるには

ビギナーズガイダンス表示の右上の［ ］をクリックします。

• 閉じるときに「ガイダンスの自動表示設定を OFF にしますか ?」というメッセージが現れます。「はい」を選択すると、ガイダンスの自動表示が OFF になります。（このとき「今後このダイアログを表示しない」にチェックを入れると、次回よりこのメッセージは表示されなくなります。）

■ 自動表示設定を変更するには

DV キャプチャーモード、ノンリニア編集モードのメニューの［ヘルプ］>>［ビギナーズガイダンス自動表示］にチェックを入れると、MotionDV STUDIO を起動したり「入力」、「編集」、「加工」、「出力」モードに切り換えるたびに、自動でガイダンス画面が表示されます。
自動表示をやめたいときはチェックをはずしてください。

• ビギナーズガイダンスの自動表示設定を変更すると、機能別ガイダンスの自動表示設定も変更されます。

ビギナーズガイダンスの使い方

表示に従ってクリックしていくと、操作の手順が表示されます。

表示されたメニューから見たい内容を選んで表示に従ってクリックしていくと、操作の手順が表示されます。

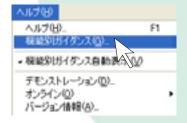
機能別ガイダンスモード：

MotionDV STUDIO の機能別ガイダンス（標準モードのみ）が表示されます。
各モード別に操作の確認ができるガイダンスです。

機能別ガイダンスを表示するには

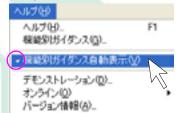
■「入力」、「編集」、「加工」、「出力」を選ぶと自動でその操作に関する機能別ガイダンスが表示されます。

■ TOOL BOX の、［ ］を選ぶと機能別ガイダンスのメニュー画面が表示されます。

- DV キャプチャーモード、DV 機器入力モード、ノンリニア編集モード、ハイブリッド編集モードのメニューの［ヘルプ］>>［機能別ガイダンス］を選んでも機能別ガイダンスのメニュー画面が表示されます。

ガイダンスを閉じるには

機能別ガイダンス表示の右上の［ ］をクリックします。

- 閉じるときに「ガイダンスの自動表示設定を OFF にしますか ?」というメッセージが現れます。「はい」を選択すると、ガイダンスの自動表示が OFF になります。（このとき「今後このダイアログを表示しない」にチェックを入れると、次回よりこのメッセージは表示されなくなります。）

■ 自動表示設定を変更するには
DV キャプチャーモード、DV 機器入力モード、ノンリニア編集モード、ハイブリッド編集モードのメニューの［ヘルプ］>>［機能別ガイダンス自動表示］にチェックを入れると、MotionDV STUDIO を起動したり「入力」、「編集」、「加工」、「出力」モードに切り換えるたびに、自動でガイダンス画面が表示されます。
自動表示をやめたいときはチェックをはずしてください。

- 機能別ガイダンスの自動表示設定を変更すると、ビギナーズガイダンスの自動表示設定も変更されます。

機能別ガイダンスの使い方

表示に従ってクリックしていくと、操作の手順が表示されます。

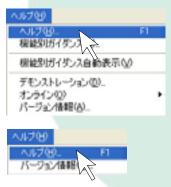
表示されたメニューから見たい内容を選んで表示に従ってクリックしていくと、操作の手順が表示されます。

ヘルプモード：

MotionDV STUDIO の取扱説明書（低解像度）が表示されます。

取扱説明書を表示するには

TOOL BOX の、［ ］を選ぶと取扱説明書（低解像度）が表示されます。

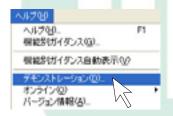
- DV キャプチャーモード、DV 機器入力モード、ノンリニア編集モード、ハイブリッド編集モードもしくはライブラリーのメニューの［ヘルプ］>>［ヘルプ］を選んでも取扱説明書（低解像度）が表示されます。

- ヘルプモードで開く取扱説明書（低解像度）は画像の質を落としているため印刷には向きません。
- 取扱説明書（高解像度）はスタートメニューの［すべてのプログラム］>>［Panasonic］>>［MotionDV STUDIO 4.7 for ・・・］>>［取扱説明書］から開くことができます。
- インストールされた取扱説明書を読むためには Adobe Acrobat Reader 5.0 が必要です。
  また、MotonDV STUDIO の取扱説明書をご覧の際には、必ず Adobe Acrobat Reader の使用許諾を行った上でご覧ください。

デモンストレーションモード：

MotionDV STUDIO のデモンストレーションが表示されます。

デモンストレーションを表示するには

TOOL BOX の、[ ] を選ぶとデモンストレーション画面が表示されます。

• DV キャプチャーモード、DV 機器入力モード、ノンリニア編集モード、ハイブリッド編集モードのメニューの［ヘルプ］>>［デモンストレーション］を選んでもデモンストレーション画面が表示されます。

デモンストレーションを終了するには

以下の方法でデモンストレーションを終了することができます

• キーボードの［Enter］キーを押す。
• キーボードの［ESC］キーを押す。
• キーボードの［Alt］キーと［F4］キーを押す。
• 画面を右クリックし［デモンストレーションの終了］を選択する。

設定モード

設定モードについて

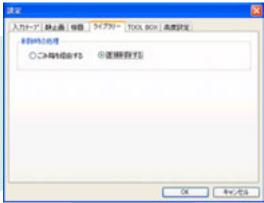
MotionDV STUDIO の各種設定をおこないたい時は、設定モードを使います。

- ［静止画］設定については「スナップショット」(P49) をお読みください。
- ［機器］設定については「キャリブレーション」(P21) をお読みください。
- 設定をする前に DV キャプチャーモード (P31)、DV 機器入力モード (P37) または編集モード (P61) にしておいてください。

［入力テープ］設定

［プレフィックス］：
ファイル名の前半部になります。
［番号の付け方］：
ファイル名の通し番号を選びます。
［キャプチャー保存方法］：
こま落ちが起こった場合の取り込み方法を選びます。
［プレビューサイズ］：
キャプチャー時のプレビュー画面のサイズを選びます。サイズが小さいほどパソコンへの処理負担が軽くなります。
［表示フレームレート］：
1 秒当たりの表示フレーム数を設定します。
［描画方法］：
映像の描画方法を選びます。

［ライブラリー］設定

ライブラリーでファイルを削除するときの処理を設定します。

［ごみ箱を経由する］：
［削除］を選ぶとファイルが Windows のごみ箱に入ります。
［直接削除する］：
［削除］を選ぶとファイルが削除されます。

［TOOL BOX］設定

TOOL BOX の表示、非表示や、アプリケーションの追加などの設定をします。

［ツールボックスを表示する］：
チェックを外すとTOOL BOXが表示されなくなります。再度表示させたい時は、［ツール］メニューから［設定］を選択し設定画面を表示させ、再度チェックを入れてください。

［ランチャー設定］：
TOOL BOX に新しくアプリケーションを追加したり、削除したりすることができます。(P215)
［アニメーション効果］：
TOOL BOX 上のアイコンにカーソルをのせたときのモードアイコンの現れかたを設定します。

［高度設定］設定

［ITU-R BT.601 準拠］：
カラーが鮮やかになりますが、デジタルビデオ機器やテレビに出力したときに白く飛んだ感じの画面になることがあります。
［記録時には **PC** でのモニター表示を停止する］：
チェックを外すと、記録時に記録中の映像がプレビュー画面に表示されます。ただしお使いのパソコンによっては記録の際に映像が乱れる場合があります。その場合はこの項目にチェックを入れてください。

特殊効果出力設定はクリップに特殊効果を加えて出力するとき、出力するファイル形式を決めます。
［自動設定］：
もとのファイル形式と同じファイル形式で出力します。
［全て **AVI**］：
AVI 形式で出力します。
［全て **MPEG2**］：
MPEG2 形式で出力します。

［一時領域］：
ファイル出力用のテンポラリフォルダーを指定します。［　］ボタンをクリックして一時領域として使用するディスクを選択してください。(P159)
ハードディスクのみ選択できます。

［標準値に戻す］ボタン
クリックすると［高度設定］の内容が次のように設定されます。

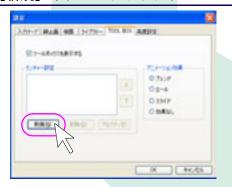
ヒント

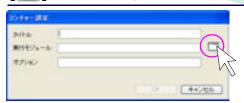
- 特殊効果とは、「オーディオミックス」(P72)、「ビデオエフェクト」(P76)、「トランジションエフェクト」(P86) などで画像に加える効果のことをいいます。

TOOL BOX にアプリケーションを追加する

TOOL BOX に追加したいアプリケーションをあらかじめインストールしておいてください。

1.［TOOL BOX］タブをクリックする

2.［新規］ボタンをクリックする

［ランチャー設定］画面が表示されます。

3.［ ］をクリックする

［実行可能ファイルの選択］画面が表示されます。

4. 追加したいアプリケーションの実行ファイル（拡張子 .exe）を選び、［開く］をクリックする

［ランチャー設定］画面が表示されます。

• 16 ビットのアプリケーションは登録できません。

5. タイトル（アプリケーション名）と必要に応じてオプション（起動オプション）を入力して［OK］をクリックする

［ランチャー設定］にアプリケーションが登録されます。

• タイトルを入力しない場合は、アプリケーション名がタイトルとして設定されます。
• 登録したアプリケーションを選択し、［プロパティ］ボタンをクリックすると［ランチャー設定］画面が表示され、タイトルなどを変更することができます。

タイトル：
登録するアプリケーション名などを入力してください。全角文字で 128 文字、半角文字で 256 文字までの入力ができます。これ以上入力した場合は、自動的に切り捨てられます。
実行モジュール：
選択した実行ファイルへのパスが表示されています。
オプション：
起動オプションが必要なアプリケーションを登録する場合に入力してください。詳しくはアプリケーションの取扱説明書をご覧ください。

6. 追加したいアプリケーションが2つ以上ある場合、手順[2.]-[5.]を繰り返す

• アプリケーションは７つまで追加することができます。

7. ［OK］ボタンをクリックする

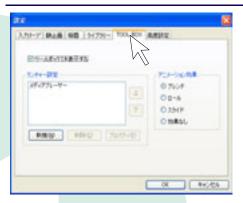
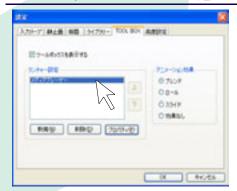
登録したアプリケーションが TOOL BOX の［ランチャー］に追加されます。

ヒント

• ［ランチャー設定］にアプリケーションが一つでも登録されると、TOOL BOX に［ランチャー］が表示されます。
• 複数のアプリケーションを追加した場合、［ランチャー設定］の［上］［下］ボタンでランチャー内の順番を変更することができます。
• MotionDV STUDIO で入力、出力、レンダリング、変換など行っているときには登録したアプリケーションを起動しないでください。
• MotionDV STUDIO の他の機能を使用するときには登録したアプリケーションは終了しておいてください。
• 対応書込みアプリケーションをインストールした場合は、TOOL BOX の［出力］に［DVD-R/RW へ出力］(P195) もしくは［DVD-RAM へ出力］(P202) として自動で登録されます。

TOOL BOX からアプリケーションを削除する

TOOL BOX の［ランチャー］に登録したアプリケーションをメニューから削除します。

1. ［TOOL BOX］タブをクリックする

2. ［ランチャー設定］から削除するアプリケーションをクリックして選ぶ

3. [削除] ボタンをクリックする

[ランチャー設定] から選んだアプリケーションが削除されます。

4. 削除したいアプリケーションが二つ以上ある場合、手順 [**2.**] **-** [**3.**] を繰り返す

5. [**OK**] ボタンをクリックする

選んだアプリケーションが TOOL BOX から削除されます。

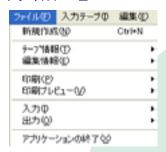
ヒント

- TOOL BOX の [ランチャー設定] にアプリケーションが登録されていない状態になると、TOOL BOX から [ランチャー] は削除されます。

メニュー一覧

MotionDV STUDIO のメニュー

MotionDV STUDIO のメニュー一覧です。
• 使用中のモードや操作によって利用できないメニューがあります。

ファイルメニュー

■ 新規作成
新規に編集するときに選びます。入力テープトラック、編集トラックはクリアされます。作業途中に新規作成するときは、データ保存後に新規作成を選んでください。

■ テープ情報
テープ情報を開く
テープライブラリーのテープ情報ファイル（拡張子 .tap）を開きます。
テープ情報はデジタルビデオ機器にテープ情報のもとになったテープが入っていないときは編集することはできません。
テープ情報を上書き保存
入力テープトラックのテープ情報が上書き保存されます。一度も保存していない場合、[テープ情報を保存する] 画面が開きます。(P51)
テープ情報を名前を付けて保存
入力テープトラックのテープ情報を別名で保存します。[テープ情報を保存する] 画面からファイル名を入力します。(P51)

■ 編集情報
編集情報を開く
編集情報ファイル（拡張子 .seq）を開きます。
編集情報を上書き保存
編集情報が上書き保存されます。一度も保存していない場合、[編集情報を保存する] 画面が開きます。(P69)
編集情報を名前を付けて保存
編集情報を別名で保存します。[編集情報を保存する] 画面からファイル名を入力します。(P69)

■ 印刷
テープ情報印刷
テープ情報をもとにテープラベルやタイムシートを印刷します。(P105)
編集情報印刷
編集情報をもとにテープラベルやタイムシートを印刷します (P105)

■ 印刷プレビュー
テープ情報印刷プレビュー
テープ情報をもとに印刷する前に、どのように印刷されるか画面上で確認します。印刷プレビュー画面から詳細な設定ができます。(P100)
編集情報印刷プレビュー
編集情報をもとに印刷する前に、どのように印刷されるか画面上で確認します。印刷プレビュー画面から詳細な設定ができます。(P100)

■ 入力
かんたん DV キャプチャー
かんたん DV キャプチャーが起動します。(P31)
DV 機器入力
DV 機器入力モードに 切り換わります。(P37)
メディアインポート
MediaImporter が起動します。
MPEG ファイルや MP3 などの音声ファイルを MotionDV STUDIO で編集できるデータに変換します。(P53)
音声素材の取り込み
WaveRecorder が起動します。
クリップに追加する音声を WAV ファイルとして取り込みます。(P56)

■ 出力

DV 機器出力
DV 機器出力モードに切り換わります。**(P160)**

ファイル出力
ファイル出力モードに切り換わります。**(P168)**

DVD レコーダ
DVD レコーダー出力モードに切り換わります。**(P175)**

D-VHS 出力
D-VHS 出力モードに切り換わります。**(P182)**

ビデオメール出力
ビデオメールモードに切り換わります。**(P189)**

DVD-RAM へ出力
対応書込みアプリケーションがインストールされているとこのメニューが現れます。
DVD-RAM 出力モードに切り換わります。（出力ファイルの選択方法によっては、対応書込みアプリケーションに切り換わります）**(P202)**

DVD-R/RW へ出力
対応書込みアプリケーションがインストールされているとこのメニューが現れます。
DVD-R/RW モードに切り換わります。（出力ファイルの選択方法によっては、対応書込みアプリケーションに切り換わります）**(P195)**

■ アプリケーションの終了
MotionDV STUDIO を終了します。
編集中のクリップやテープ情報がある場合は、保存してから終了してください。

入力テープメニュー

■ キャプチャー
テープの映像をビデオクリップとして取り込みます。**(P41)**

■ スナップショット
テープの映像を静止画クリップとして取り込みます。**(P49)**

■ 自動インデックス
テープに記録されている映像のシーンの変わり目を自動的にさがし、インデックスを付けます。（撮影の一時停止など記録が不連続になるテープ位置をシーンの変わり目として検出します）**(P44)**

■ インデックス
テープ映像の任意の場所にインデックスを付けます。インデックス情報を使っての編集や頭出しができます。**(P44)**

■ マークイン
映像を取り込むときに、取り込みの開始点を設定します。**(P42)**

■ マークアウト
映像を取り込むときに、取り込みの終了点を設定します。**(P42)**

■ インデックス削除
選択した部分のインデックスを入力テープトラックから削除します。**(P44)**

■ マークイン・マークアウトの中断 (P42)
［マークイン］ボタンをクリックしたあとで、マークインの設定を中断します。

■ 全て選択
入力テープトラックの映像をすべて選択します。

■ 全マーク区間を選択
取り込み範囲を設定した部分（マークイン / アウト区間）をすべて選択します。(P47)

■ バッチキャプチャー
選択した複数の映像を一度に取り込むことができます。(P47)

■ 代表アイコンにする
テープ情報を保存している場合に、選択した映像のアイコンをテープ情報ファイルのアイコンにします。上書き保存したあと、表示が変わります。(P52)

■ プロパティ
選択した映像の情報を表示します。プロパティ画面で名前の設定、頭出し、代表アイコン設定、映像の取り込みができます。

■ ジャンプ
タイムコードを入力してテープ映像の頭出しをします。(P45)

■ クリア
すべてのテープ情報を入力テープトラックから削除します。

編集メニュー

■ 分割
1 つのクリップを、カレントバーを境に分割します。ライブラリーのクリップが 2 つになる訳ではありません。(P71)

■ ビデオエフェクト
選択しているビデオクリップもしくは静止画クリップに特殊効果（ビデオエフェクト）を入れます。(P76)

■ オーディオミックス
選択しているビデオクリップもしくは静止画クリップに音声を追加します。(P72)

■ トランジションエフェクト
シーンの変わり目に特殊効果（トランジションエフェクト）を使います。(P90)

■ エフェクト削除
クリップの特殊効果が削除されます。(P79)

■ タイトル作成
タイトルエディターを起動して、タイトルを作成します。(P107)

■ 3D アレンジ
選択しているビデオクリップもしくは静止画クリップに三次元のアニメーションを付けます。(P154)

■ 削除
選択しているクリップを編集トラックから削除します。削除しても、ライブラリーのクリップは削除されません。(P68)

■ 全て選択
編集トラックに配置されたクリップをすべて選択します。

■ プロパティ
選択しているクリップの情報が表示されます。プロパティ画面で名前の設定、代表アイコン設定、開始点・終了点の設定ができます

■ 代表アイコンにする
編集情報を保存している場合に、選択したクリップのアイコンを編集情報ファイルのアイコンにします。(P69)

■ クリア
すべてのクリップを編集トラックから消去します。(P68)

表示メニュー

■ 入力テープトラック
時間軸表示
入力テープトラックのテープ情報が時間の長さに比例して表示されます。
アイコン表示
入力テープトラックのテープ情報がすべて同じ大きさのアイコンで表示されます。
縮小
時間軸表示の時、入力テープトラックに表示できる時間幅を調整します。(縮小)
拡大
時間軸表示の時、入力テープトラックに表示できる時間幅を調整します。(拡大)

■ 編集トラック
時間軸表示
編集トラックの編集情報が時間の長さに比例して表示されます。
アイコン表示
編集トラックの編集情報がすべて同じ大きさのアイコンで表示されます。
縮小
時間軸表示の時、編集トラックに表示できる時間幅を調整します。(縮小)
拡大
時間軸表示の時、編集トラックに表示できる時間幅を調整します。(拡大)

■ 編集トラック表示
ノンリニア編集
ノンリニア編集モードを表示します。(P62)
ハイブリッド編集
ハイブリッド編集モードを表示します。(P92)

■ プレビューサイズ
プレビュー画面のサイズを変更することができます。サイズに応じて、ボタンやトラックなどの配置が変わります。元に戻したい場合は100%を選択してください。

ライブラリーメニュー

■ 新規フォルダ
ライブラリーに新規フォルダーを作成します。(P59)

■ アイコンの整列
名前順
ライブラリー内のファイルを名前順に整列します。
日付順
ライブラリー内のファイルを日付順に整列します。

■ 削除
選択されているライブラリー内のデータを削除します。

■ 名前を変更
選択されているライブラリー内のデータ名を変更します。

■ 最新の情報に更新
ライブラリーに最新の情報を反映させます。

ツールメニュー

■ 設定

設定パネルが起動し、MotionDV STUDIO の各種設定をおこないます。(P213)

■ タイトル作成

タイトルエディターが起動します。映像にテキストやイラストなどのタイトルを入れることができます。(P107)

■ メディアインポート

MediaImporter が起動します。MPEG ファイルや MP3 などの音声ファイルを MotionDV STUDIO で編集できるデータに変換します。(P53)

■ 音声素材の取り込み

WaveRecorder が起動します。クリップに追加する音声を WAV ファイルとして取り込みます。(P56)

モードメニュー

■ 標準モード

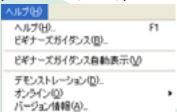
標準モードに切り換えます。

■ かんたんモード

かんたんモードに切り換えます。

ヘルプメニュー

(標準モードのとき)

(かんたんモードのとき)

■ ヘルプ

PDF 形式の取扱説明書（低解像度）が表示されます。

インストールされた取扱説明書を読むためには Adobe Acrobat Reader 5.0 が必要です。

また、MotonDV STUDIO の取扱説明書をご覧の際には、必ず Adobe Acrobat Reader の使用許諾を行った上でご覧ください。

■ 機能別ガイダンス

機能別ガイダンスが起動します。動画を使ったガイダンスで MotionDV STUDIO の操作を機能別に学ぶことができます。(P210)

■ ビギナーズガイダンス

ビギナーズガイダンスが起動します。動画を使ったガイダンスで MotionDV STUDIO の操作の流れを学ぶことができます。(P209)

■ 機能別ガイダンス自動表示

モードが切換わったときにガイダンスが自動で起動するかどうかを設定します。チェックが入っていると、自動表示されます。(P210)

■ ビギナーズガイダンス自動表示

モードが切換わったときにガイダンスが自動で起動するかどうかを設定します。チェックが入っていると、自動表示されます。(P209)

■ デモンストレーション
デモンストレーションが起動します。MotionDV STUDIO のイメージ映像が流れます。(P212)

■ オンライン
ユーザー登録
ユーザー登録のページへ接続します。(P23)
サポートサイト
Panasonic の製品サポートページへ接続します。
サンプルオーディオについて
サンプルオーディオについての説明が表示されます。(P72)

■ バージョン情報
現在お使いのソフトウェアのバージョン情報が表示されます。

タイトルエディターのメニュー

タイトルエディターのメニュー一覧です。

ファイルメニュー

■ 新規作成
新規にタイトルを作るときに選びます。編集画面は無背景になり、新しくタイトルを作ることができます。編集中のタイトルがある場合は、保存後、新規ファイルを開いてください。

■ 開く
既存のタイトルを開くときに選びます。選ぶと、ファイル選択画面になります。希望のファイルを選んで［開く］ボタンをクリックしてください。

■ 上書き保存
作成中のタイトルを上書き保存するときに選びます。選ぶと、編集中のタイトルが上書き保存されます。一度も保存していないファイルの場合は、［名前を付けて保存］画面が開きます。(P149)

■ 名前を付けて保存
作成中のタイトルを別名保存するときに選びます。選ぶと、［名前を付けて保存］画面が開きます。保存先とファイル名を入力して［保存］をクリックすると保存されます。(P149)

■ 動画形式で保存
作成中のタイトルを動くタイトル（ビデオクリップ）として、保存するときに選びます。動くタイトルが見たい場合や MotionDV STUDIO で編集に使いたい場合はこの保存をしてください。(P150)

■ 静止画形式で保存
作成中のタイトルを静止画クリップとして、保存するときに選びます。(P151)

■ 基本設定
基本設定するときに選びます。無背景時の背景色や静止画クリップをビデオクリップとして保存するときの時間が設定できます。(P110)

■ 最近使ったファイル
最近使ったファイルが表示されます。ファイル名をクリックすると、そのファイルが開きます。

■ 閉じる
タイトルエディターを閉じる（終了する）ときに選びます。編集中の画像がある場合は、保存してから、終了してください。タイトルエディターを終了すると、MotionDV STUDIO 画面が開きます。

編集メニュー

■ 元に戻す
操作を元に戻したいときに選びます。選ぶと、操作する前の状態に戻ります。もう一度選ぶと、操作した状態に戻ります

■ 切り取り
選択しているオブジェクトを切り取る（画面上から削除する）ときに選びます。［貼り付け］すると、配置することができます。

■ コピー
選択しているオブジェクトをコピーするときに選びます。［貼り付け］すると、配置することができます。

■ 貼り付け
切り取りやコピーしたオブジェクトを配置するときに選びます。

■ 削除
選択しているオブジェクトを削除するときに選びます。

■ すべて選択
編集画面上のオブジェクトをすべて選択します。

表示メニュー

■ 等倍表示
画面表示を原寸表示します。(P111)

■ ズームイン
編集画面の表示サイズを拡大するときに選びます。2 倍、4 倍、6 倍、8 倍に拡大して表示することができます。(P111)

■ ズームアウト
編集画面の表示サイズを縮小するときに選びます。1/2 倍、1/4 倍に縮小して表示することができます。(P111)

■ グリッドに合わせる
オブジェクトがグリッド格子に吸引され、配置されます。(P111)

■ グリッド格子の表示
編集画面にグリッド格子を表示します。[グリッドに合わせる] にチェックを入れたときに使用できます。(P111)

■ オブジェクトを隠す
オブジェクト（配置したイラストや文字）を編集画面上から一時的に消すときにチェックします (P111)

■ セーフティゾーンを表示しない
チェックすると、編集画面上にイラストや文字を配置するときに目安になるガイドラインが非表示になります。(P112)

■ 透明表示をしない
文字に使っている透明効果を一時的にやめる場合にチェックします。(P112)

■ メインツールバー
メインツールバーを表示します。チェックを外すと、表示しなくなります。(P111)

■ 動画ツールバー
動画保存ボタンと静止画保存ボタンを表示します。チェックを外すと、表示しなくなります。(P111)

■ テキストツールバー
テキストツールバーを表示します。チェックを外すと、表示しなくなります。(P111)

■ アニメーション・フレームウィンドウ表示
アニメーション・フレームウィンドウを表示します。チェックをはずすと表示しなくなります。(P112)

■ プレビュー表示
プレビュー画面が表示され、編集内容が確認できます。(P112)

オブジェクトメニュー

オブジェクト(O) 描画ツール(T)
文字属性(T)...
描画属性(D)...
動き設定(M)...
最前面へ(F)
前面へ(B)
背面へ(K)
最背面へ(D)
センタリング(C)
水平反転(H)
垂直反転(E)
90度右回転(L)
90度左回転(W)
スプライト挿入(S)...
Videoファイル挿入(V)...
マスクパターン(P)...
開始点・終了点の設定(N)...

■ 文字属性
文字の修飾設定するときに選びます。ここで設定した内容は、新しく入力する文字すべてに適用されます。ただし、文字を選択しているときに設定した内容はその文字だけに適用されます。**(P122)**

■ 描画属性
描いた図形や線の色や線幅などを設定するときに選びます。ここで設定した内容は、新しく描く図形や線すべてに適用されます。ただし、図形や線を選択しているときに設定した内容はその図形や線だけに適用されます。**(P146)**

■ 動き設定
選択しているオブジェクトを動かす設定をするときに選びます。再生して見る場合やMotionDVSTUDIO の編集に使う場合は、必ずビデオクリップとして保存する必要があります。**(P141)**

■ 最前面へ / 前面へ / 背面へ / 最背面へ
イラストや文字を重ねて配置した場合、下のイラストを上に配置したり、上のイラストを下に配置するときに選びます。**(P135)**
[最前面へ] 一番上に配置する
[前面へ] ひとつ上に配置する
[背面へ] ひとつ下に配置する
[最背面へ] 一番下に配置する

■ センタリング
配置したオブジェクトを左右に中央揃えします。**(P135)**

■ 水平反転
配置したアニメーションや子画面を左右に反転させます。**(P136)**

■ 垂直反転
配置したアニメーションや子画面を上下に反転させます。**(P136)**

■ 90 度右回転
配置したアニメーションや子画面を右に 90 度回転させます。**(P136)**

■ 90 度左回転
配置したアニメーションや子画面を左に 90 度回転させます。**(P136)**

■ スプライト挿入
既存の静止画クリップやアニメーションファイルを編集画面に配置するときに選びます。あらかじめ数種類のアニメーションタイトルが付いていますのでご利用ください。**(P133)**

■ Video ファイル挿入
ビデオクリップを子画面にして配置するときに選びます。**(P137)**

■ マスクパターン
配置したビデオクリップの子画面や静止画にマスクをかけて、丸型や星型、ハート型にします。**(P138)**

■ 開始点・終了点の設定
配置した子画面の再生範囲を設定します。**(P137)**

描画ツールメニュー

■ 選択
カーソルが画像やイラスト、文字などを選択するツールになります。

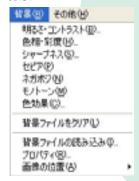
■ 文字
カーソルが文字入力ツールになります。

■ 線
カーソルが直線を描くツールになります。

■ 円
カーソルが円を描くツールになります。

■ 四角
カーソルが四角形を描くツールになります。

■ 自由曲線
カーソルが自由曲線を描くツールになります。

背景メニュー

■ 明るさ・コントラスト
背景画像の明るさとコントラストを調整するときに選びます。(P114)

■ 色相・彩度
背景画像の色相（色合い）と彩度を調整するときに選びます。(P115)

■ シャープネス
背景画像のシャープさ（輪郭の強調）を調整するときに選びます。(P116)

■ セピア
背景画像をセピアカラーにするときに選びます。(P116)

■ ネガポジ
背景画像をネガ反転するときに選びます。(P116)

■ モノトーン
背景画像を白黒にするときに選びます。(P116)

■ 色効果
背景画像の色を変えるときに選びます。(P117)

■ 背景ファイルをクリア
編集画面に配置されている背景画像を削除します。無背景状態になります。(P113)

■ 背景ファイルの読み込み
既存の静止画クリップやビデオクリップを背景として配置するとき選びます。(P113)

■ プロパティー
背景画像のプロパティーを表示します。

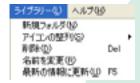
■ 画像の位置 (P114)
中央に配置
背景画像が 640×480（ドット）より小さい静止画クリップの場合、画像を中央に配置します。
拡大して表示
背景画像が 640×480（ドット）より小さい静止画クリップの場合、画像を拡大して表示します。
並べて表示
背景画像が 640×480（ドット）より小さい静止画クリップの場合、画像を並べて表示します。

ライブラリーのメニュー

タイトルエディターや、出力パネル起動時などのライブラリーのメニュー一覧です。

ファイルメニュー

■ 閉じる
起動中の画面を閉じ、MotionDV STUDIO の画面にもどります。

ライブラリーメニュー

■ 新規フォルダ
ライブラリーに新規フォルダーを作成します。(P59)

■ アイコンの整列
名前順
ライブラリー内のファイルを名前順に整列します。
日付順
ライブラリー内のファイルを日付順に整列します。

■ 削除
選択されているライブラリー内のデータを削除します。

■ 名前を変更
選択されているライブラリー内のデータ名を変更します。

■ 最新の情報に更新
ライブラリーに最新の情報を反映させます。

ヘルプメニュー

■ ヘルプ
PDF 形式の取扱説明書（低解像度）が表示されます。
インストールされた取扱説明書を読むためには Adobe Acrobat Reader 5.0 が必要です。
また、MotonDV STUDIO の取扱説明書をご覧の際には、必ず Adobe Acrobat Reader の使用許諾を行った上でご覧ください。

■ バージョン情報
現在お使いのソフトウェアのバージョン情報が表示されます。

Q & A

接続ができない

接続がうまくいかないときに、よく起こるトラブルの解決方法を説明しています。

接続時にはケーブル類をしっかりと差し込んでください。
パソコンを再度、起動し直す方法は、パソコンの説明書をお読みください。

デジタルビデオ機器が認識されない。

- DV ケーブルを抜き差しし直してください。
- デジタルビデオ機器の電源が入っているか確認してください。
- DV ケーブルがしっかり接続されているか確認してください。
- 接続されているデジタルビデオ機器になにか異常が発生していないか確認してください。
- 動作確認されているデジタルビデオ機器か確認してください。（パナソニックのホームページで確認できます）
- パソコンの状態が不安定になっている場合があります。起動し直したあと、接続手順に従って接続し直してください。

接続しているデジタルビデオ機器を外したり、電源を切ると、パソコンの状態が不安定になる。

- MotionDV STUDIO を終了してからデジタルビデオ機器を外してください。デジタルビデオ機器の電源は外してから切ってください。

接続しているのに、**MotionDV STUDIO** が起動しない。

- MotionDV STUDIO がうまくインストールできていない可能性があります。インストールし直して、起動してください。

デジタルビデオ機器が操作できない

デジタルビデオ機器の操作がうまくいかないときに、よく起こるトラブルの解決方法を説明しています。

デジタルビデオ機器が操作できない。

- デジタルビデオ機器の電源が入っているか確認してください。
- DV機器入力モードもしくはDVキャプチャーモードになっているか確認してください。
- デジタルビデオ機器にテープが入っているか確認してください。
- DV ケーブルがしっかり接続されているか確認してください。
- デジタルビデオ機器の AV 入出力端子にケーブルが接続されていると操作出来ないことがあります。デジタルビデオ機器の AV 入出力端子からケーブルを抜いてください。
- 接続されているデジタルビデオ機器になにか異常が発生していないか確認してください。
- 動作確認されているデジタルビデオ機器か確認してください。(パナソニックのホームページで確認できます)
- パソコンの状態が不安定になっている場合があります。MotionDV STUDIO を終了し、パソコンを起動し直してください。

デジタルビデオ機器の映像がパソコンに表示できない。

- 映像が記録されているテープがデジタルビデオ機器に入っているか確認してください。
- パソコンから再生操作をして、デジタルビデオ機器に映像が映っても、パソコンの画面に映像が映るまで少し時間がかかる場合があります。
- デジタルビデオ機器を2 台接続している場合は、再生機（入力側）と録画機（出力側）の選択が正しくできているか確認してください。
- パソコンの状態が不安定になっている場合があります。MotionDV STUDIO を終了し、パソコンを起動し直してください。

自動インデックスがうまく働かない。

- テープにタイムコードが連続して記録されていないと、自動インデックス機能がうまく働きません。編集するテープは必ずタイムコードが連続しているテープを使ってください。タイムコードは通常に記録を続けている場合は、自動的にテープに連続して記録されますが、テープを早送りや巻戻しなどをして未記録部分を作って記録するとタイムコードが不連続になります。
- 一度記録されたテープに上書きすると、新しく記録された映像と以前の映像の変わり目でタイムコードがずれて、自動インデックスが終了してしまうことがあります。
- テープの始端付近では自動インデックスが働かない場合があります。
- タイムコードが連続していても、途中で自動インデックスが止まる場合があります。再度自動インデックスボタンをクリックすると再開します。

デジタルビデオ機器の操作中にパソコンの状態が不安定になる。

- MotionDV STUDIO を使用中にデジタルビデオ機器の電源を切らないでください。パソコンの状態が不安定になることがあります。また電源を切る前には必ず接続を外してください。

取り込みができない

映像の取り込み操作がうまくいかないときに、よく起こるトラブルの解決方法を説明しています。

取り込みができない。

- MotionDV STUDIO を使用するときは、ノートパソコン、デジタルビデオ機器ともに AC アダプターをお使いください。バッテリーを使用すると、正しく映像を取り込めないことがあります。
- タイムコードが連続しているテープをお使いください。
- 映像の取り込みには十分なハードディスクの空きが必要です。約 4 分の画像を取り込むのに約 1 GB 以上の空き容量が必要です。ハードディスクの空き容量は、[スタート] >> [マイコンピュータ] を選び、ハードディスクドライブのアイコンを右クリックして [プロパティ] 画面を開くと確認できます。
- MotionDV STUDIO 以外のソフトウェア（常駐ソフトウェアなど）が起動しているときは、うまく取り込みのできない場合があります。
- MotionDV STUDIO を使用するときは他のソフトウェアは終了しておくことをおすすめします。
- テープにタイムコードが連続して記録されていないと、うまく取り込めないことがあります。タイムコードが連続している、記録済みのテープをご使用ください。
  また、このようなテープで取り込みを行うと、クリップがライブラリーに正常に表示されないことがあります。[ライブラリー] >> [最新の情報に更新] を選択して更新をすると表示されます。
- 取り込み中にハードディスクの空き容量がなくなると、メッセージが表示されます。（ハードディスクの空き容量が 300 MB 以下になると、メッセージが出て、それ以上取り込むことができなくなります）

取り込み中に **MotionDV STUDIO** のプレビュー画面が小さくなる。

- 異常ではありません。取り込み動作は、非常にパソコンのパワー（CPU への負担など）を使います。画像をスムーズに表示するために初期設定ではプレビュー画面の映像を小さくして表示しています。[ツール] >> [設定] を選び、[入力テープ] 画面の [プレビューサイズ] で設定を変更することができます。（標準モードでのみ設定可能です）

インデックスやマークイン/アウトを利用したキャプチャーがうまくいかない。

- インデックスやマークイン・アウトを使ったあとに、デジタルビデオ機器のテープを交換すると、キャプチャーはうまくできません。
- テープの始端付近のキャプチャーはうまくできないことがあります。

テープ編集時に短い時間が設定できない。

- 2 秒以下の映像を設定することはできません。テープ編集で複数の映像を設定する場合、2 つのインデックス間、マークイン・マークアウト間を 2 秒以上あける必要があります。

取り込み中にこま落ちする。

- スタートメニューから［すべてのプログラム］>>［アクセサリ］>>［システムツール］>>［ディスク　デフラグ］を選び、次にボリューム（ディスク）を選んで［最適化］をクリックしてデフラグを実行してください。
- MotionDV STUDIO 以外のソフトウェア（常駐ソフトウェアなど）が起動していると、こま落ちする場合があります。MotionDV STUDIO を使用するときは、他のソフトウェアは閉じておくことをおすすめします。
- ［ツール］>>［設定］を選び、［入力テープ］画面の［キャプチャー保存方法］で［こま落ちしたら巻き戻してつなげる］をチェックしておくと、こま落ちしたテープ位置の 5 秒前まで巻き戻して再生し、こま落ちした画像から取り込み直します。（標準モードでのみ設定可能です）
- デスクトップ（壁紙）を右クリックし、［プロパティ］>>［デスクトップ］>>［デスクトップのカスタマイズ］>>［web］を選択し、［web ページ］のチェックマークを外してください。
- パソコンのハードディスクに DMA 設定がされていないと、正常に取り込みできないことがあります。Windows のシステムプロパティ画面から［ハードウェア］の［デバイスマネージャ］を開き、［IDE ATA/ATAPI コントローラ］をダブルクリックし、［プライマリ IDE チャネル］をダブルクリックしてプロパティ画面を表示します。［詳細設定］の［転送モード］に DMA を選び設定を行います。ただし、DMA 設定はお使いのコンピュータによって方法が異なります。詳しくはコンピューターのマニュアルをご覧ください。
- 圧縮しているドライブを使用すると、こま落ち等が起こりやすくなります。

2 カ国語放送の映像を取り込むと、日本語しか取り込まれていない。

- 2 カ国語放送など音声多重の映像を取り込むと、主音声だけが取り込まれ、副音声は取り込まれません。また、アフレコ音声の入ったテープの映像を取り込むと、撮影時の音声だけ取り込まれ、アフレコ音声は取り込まれません。

映像を取り込むと、複数のビデオクリップができている。

- 映像を取り込み、その容量が 4 GB を超えたとき、FAT32 などの NTFS 以外のフォーマットではビデオクリップが自動的に分割されます。
- 取り込む映像が、異なるサンプリング周波数（32kHz と 48kHz など）の音声で構成されている場合、サンプリング周波数の変わり目でビデオクリップが自動的に分割され、複数のファイルになります。

特殊効果がうまく使えない

特殊効果を使うときに、よく起こるトラブルの解決方法を説明しています。

レンダリング中にパソコンの状態が不安定になる。

- レンダリングは、非常にパソコンのパワー（CPU への負担など）を使います。MotionDV STUDIO以外のソフトウェアが起動していると、うまくレンダリングできない場合があります。MotionDV STUDIO を使用するときは、他のソフトウェアは終了しておくことをおすすめします。また、ファイルのコピー、移動や印刷動作などをしている場合は、それらの動作が完全に終了してから、レンダリングを行うことをおすすめします。
- パソコンの状態が不安定になっている場合があります。MotionDV STUDIO を終了し、パソコンを起動し直してください。

レンダリングに時間がかかる。

- 長時間のビデオクリップをレンダリングすると、非常に時間がかかります。レンダリング中は、パソコンを操作しないでください。操作すると、レンダリングがうまくいかないことがあります。

長いビデオクリップの一部に特殊効果を入れたい。

- 配置したビデオクリップは分割することができます。
- ビデオクリップを分割すると、その部分だけに特殊効果を入れることができます。

トランジションエフェクトを削除すると映像の長さが変わってしまう。

- トランジションエフェクトのビデオクリップを削除した場合、前後のクリップが短くなります。これはトランジションエフェクトが前後のクリップの一部をミックスして作られているためです。
- 前後のクリップの長さをもとに戻すには、クリップをダブルクリックし、[プロパティ] 画面でクリップの長さを入力します。（ビデオクリップは取り込み時の長さを超えて設定できません。取り込み時より長い時間を入力しても、取り込み時の長さに修正されます。）

トリミングをしてから**3D**アレンジ効果をかけたのに、トリミング前のビデオクリップ全体に効果がかかってしまう。

- トリミングしたビデオクリップに 3D アレンジ効果をかけると、トリミング前のビデオクリップ全体に効果がかかってしまいます。トリミングしたビデオクリップを AVI 形式でファイル出力すると、その部分にだけ 3D アレンジ効果をかけることができます。

オーディオミックスがうまくいかない

オーディオミックス機能を使うときに、よく起こるトラブルの解決方法を説明しています。

オーディオミックスができない。

- ［開始点・終了点を連動させる］にチェックを入れている場合、設定している音声ファイルの長さにおさまるように開始点・終了点の位置を設定してください。設定している音声ファイルの入力範囲を超える数値（無効な数値）が入力された場合は、自動的に最大または最小の数値が入力されます。

オーディオミックスすると元の音声が消えた。

- ［オーディオミックス］設定画面の［ミックス比］の設定が 100% になっていると、オーディオミックスした音声だけしか残りません。0% にすると元の音声しか残りません。ミックス比を両方の音が適切に聞こえるように調整してください。

複数のクリップに音声を追加できない。

- 複数のクリップに音声を入れたいときは、音声を追加しはじめるクリップに WAV ファイルを重ね、［ミックスする区間］で開始点、終了点を設定すると、音声の長さが自由に設定できます。ただし、WAV ファイルの音声がクリップよりも短い場合、複数のクリップに音声を追加することはできません。

オーディオミックスしたあと、デジタルビデオ機器などを使ってアフレコできなくなった。

- AVI ファイルの場合、オーディオミックス時に周波数を［48KHz オーディオ］で出力するとアフレコできない映像になります。オーディオミックス効果を入れた映像にアフレコなどをする場合、すべて［32KHz オーディオ］で出力してください。
- MPEG2 ファイルの場合、［48KHz オーディオ］で固定のため、オーディオミックス効果を入れた映像にアフレコをすることはできません。

テープへの記録がうまくできない

テープに記録するときに、よく起こるトラブルの解決方法を説明しています。

録画すると、テープの映像が消えてしまった。

録画するときは、録画機のテープをよく確認してください。消してはいけない映像が記録されているテープが入っている場合、その上から録画されてしまい、元の映像が消えてしまいます。元の映像に続けて録画したい場合は、録画を開始したい位置を検索しておき［現在の位置から録画］を選ぶか、元の映像以降が録画されていないテープの場合には［ブランク区間の先頭から録画］を選びます。

再生機側のテープに録画されてしまった。

- デジタルビデオ機器を2台接続している場合は、録画やダビングする前に必ず、再生機と録画機の機種設定が合っているか確認してください。操作の途中で何かのはずみで入れかわってしまったまま録画操作をすると、大切なテープの内容が消えてします。消したくない内容の入ったテープは、誤消去防止つまみを［SAVE］側にしておくことをおすすめします。

録画した映像を再生すると、スムーズに再生されない。

- テープに録画する動作は、非常にパソコンのパワー（CPU への負担など）を使います。MotionDV STUDIO 以外のソフトウェアが起動していると、うまく記録できない場合があります。MotionDV STUDIO を使用するときは、他のソフトウェアは閉じておくことをおすすめします。また、ファイルのコピー、移動や印刷動作などしている場合は、それらの動作が完全に終了してから、記録を行うことをおすすめします。
- パソコンの状態が不安定になっている場合があります。MotionDV STUDIO を終了し、パソコンを起動し直してください。
- ハードディスクのアクセス速度が落ちている可能性があります。Windows のデフラグ機能を使って、ハードディスクの状態を最適化することをおすすめします。

キャリブレーションしているのに、編集内容が数フレームずれている。

- 本ソフトウェアの仕様により多少編集結果にずれが生じる場合があります。

テープに録画すると、テープに空き（未記録部分）ができたり、映像の先頭が録画されていなかったりする。

- 録画する前にキャリブレーションを行ってください。キャリブレーションを行うと、接続しているデジタルビデオ機器に合わせて録画のタイミングなどが補正されます。また、SP モードで録画したいときは SP モードで、LP モードで録画したいときは LP モードでキャリブレーションを行う必要があります。モードを変更したあとは、必ずキャリブレーションをしておいてください。
- DV への記録の際に［ブランク区間の先頭から録画］を選択した場合、先頭クリップの最初の部分と、最終クリップの最後の部分が数フレーム記録されないことがあります。
ブランク区間から記録をする場合、先頭と最後に余裕を持たせることをお勧めします。

テープに録画した映像の最後が一瞬静止画になっている。

• 映像を記録するときに、つなぎ目に未記録部分ができないようにするため、連続している映像のつなぎ目に 1 フレーム（1/30 秒）を数回繰り返して記録しています。

記録した映像の音声が途切れている。

• ノンリニア編集で、音声のサンプリング周波数（32 kHz と 48 kHz など）や量子ビット数（12 bit と 16 bit など）、フォーマット形式が異なるビデオクリップを混在させると、音声モードが変わるところで音声が途切れることがあります。

テープに録画したら、もともとあったフォトインデックス信号や日付情報が消えている。

• パソコンに取り込んだ映像に特殊効果を加えてレンダリングすると、撮影時の日付情報は消去されます。また、フォト（シーン）インデックス信号やワイドテレビに対応した信号（S2 映像信号など）も消えてしまいます。ただし、取り込んだ映像に特殊効果加えず（レンダリングせず）そのまま録画する場合はこれらの情報は維持されます。

記録しようとしたら、［**IEEE1394** バスの帯域の確保に失敗しました。・・・］というメッセージが出た。

• パソコンが不安定な状態になっています、MotionDV STUDIO を終了し、パソコンを再起動してください。

静止画クリップを編集トラックに配置して記録したら、その部分だけ画像が横のびしている。

• 横と縦の比率が 4:3 ではない静止画クリップを配置すると、通常は上下や左右に黒い帯が出ます。ただし静止画クリップを配置したときに、編集トラックの画像を右クリックして、［静止画の縦横比を固定にする］のチェックを外しておくと、強制的に画像を 4:3 に引き伸ばす（縮める）ため、画像が縦や横に伸びることがあります。これを防ぐには、配置した静止画クリップを右クリックし、［静止画の縦横比を固定にする］をチェックしてからテープに記録してください。

記録中に映像が乱れて正しく記録できない。

• 記録中に他のアプリケーションソフトを使用した場合、映像が乱れるなどの現象が起こり正しく記録できないことがあります。MotionDV STUDIO を使用するときは他のアプリケーションソフトやウィルスチェックなどの常駐プログラムは終了させてください。

タイトルがうまく作れない

タイトル作成するときに、よく起こるトラブルの解決方法を説明しています。

タイトルエディターモードで作成したタイトルが **MotionDV STUDIO** で使えない。

- タイトルエディターモードで作成したタイトルをそのまま保存すると、タイトルファイル（拡張子 TTE）として保存されます。このファイルは、MotionDV STUDIO の編集に使うことができません。MotionDV STUDIO でタイトルとして使うためには［動画形式で保存］を行う必要があります。

タイトルエディターモードで配置したイラストに動き設定をしたのに動くタイトルが作れない。

- 動く設定をしたタイトルは、［動画形式で保存］してビデオクリップになったときに動くようになります。保存されたビデオクリップをダブルクリックして、再生ソフトで再生するとタイトルの動きを見ることができます。

作成したタイトルを他のクリップにも使いたい。

- タイトルを作成したときは、まずタイトルファイル（拡張子 TTE）として保存することをおすすめします。タイトルファイルは何度でも編集することができます。タイトルとして保存せずにビデオクリップとしてだけ保存した場合は、タイトルファイルは残りません。また、ビデオクリップのタイトルはタイトルとして編集することはできません。一度保存されたタイトルファイルは、背景に配置する映像や静止画を自由に変えることができますので、タイトル作成後、別のビデオクリップを配置して動画形式で保存すれば、同じタイトルを利用して複数のクリップを作ることができます。

配置した **2** つのアニメーションに動きを設定をしたいのに、プレビュー画面に **1** つしか表示されない。

- 一度に複数の文字・アニメーション・画像に動きを設定する場合（その場合すべてに同じ動きが設定されます）、動き設定のプレビュー画面には **1** つしか表示されません。

印刷がうまくできない

MotionDV STUDIO のテープラベルやタイムシートの印刷操作時に、よく起こるトラブルの解決方法を説明しています。

印刷できない。

- プリンターが正しくパソコンに接続されているか確認してください。また、用紙が入っているか、用紙設定が合っているかも確認してください。プリンターについての詳しい説明は、お使いのプリンターの説明書をよくお読みください。

印刷のメニューが表示されない

- かんたんモードでは印刷のメニューが表示されません、印刷する場合は標準モードにしてください。

静止画を印刷したい。

- MotionDV STUDIO の印刷機能では、テープラベルの印刷とタイムシートの印刷しかできません。取り込んだ静止画クリップやビデオクリップの一部分を印刷したい場合は、ライブラリーの静止画クリップをダブルクリックして、Windows 標準の［ペイント］を起動させ、そちらから印刷してください。(BMP,JPEG,TIFF,PNG　画像が他のソフトウェアに関連づけされている場合は、そのソフトが起動します)

よりきれいに印刷したい。

- ビデオクリップの一部分を印刷した場合、ぶれた画像が印刷される場合があります。撮影するときにフォトショット機能などを使って記録した静止画をスナップショット機能で静止画として取り込んで、この静止画を印刷したほうがきれいに出力されます。

印刷したラベルのサイズが大きすぎる（小さすぎる)。

- テープラベルは VHS テープ、DV テープのサイズに合った大きさで印刷されますが、お使いのプリンターによっては大きさが異なることがあります。

ノンリニア編集って？

ノンリニア編集全般についての一般的な疑問点を、説明しています。

取り込まれた映像はどうなるの？

- デジタルビデオ機器から取り込んだ画像は、パソコン上では AVI ファイルとして任意の場所に保存されます。音声と映像を記録したこのファイルは、Windows の標準の［Windows Media Player］で再生することができます。

レンダリングってどうして時間がかかるの？

- ビデオエフェクトやトランジション機能でクリップに特殊効果を使うことができますが、このとき元のクリップの内容に特殊効果を効かせるためにパソコン内で複雑な演算（デジタル処理）が必要になります。この演算には非常にパソコンのパワーを使います。レンダリング中は、なるべくパソコンには他の作業をさせないようにしたほうが、より安定して速くレンダリングをすることができます。

ノンリニア編集の利点は？

- パソコン上のビデオクリップは、テープ上の映像のように早送りや巻戻し操作をしなくても瞬時に希望の位置を再生することができます。また、ビデオクリップに対していろいろなデジタル処理が可能で、複雑な映像効果を使って映像を作ることができます。

ノンリニア編集の欠点は？

- デジタルビデオ機器からの映像で AVI ファイルを作った場合、約 4 分の映像を記録するために約 1 GB のハードディスク容量を必要とし、長時間の映像を編集するためには、非常に大きなハードディスク容量が必要になります。また、レンダリングには非常にパソコンのパワーを使います。そのため高速な CPU が必要になります。

D-VHS ビデオへの出力がうまくいかない

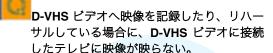
MotionDV STUDIO で D-VHS ビデオへの出力をする際によく起こるトラブルの解決方法を説明しています。

パソコンが、接続した **D-VHS** ビデオを認識しない。

- パソコンとD-VHSビデオを接続するときに、正しい状態で接続されていますか。接続時にはパソコンを終了させて、D-VHS ビデオの電源を入れておいてください。
- D-VHS ビデオを 2 台以上接続している場合、MotionDV STUDIO で認識するのは 1 台のみです。
- D-VHS ビデオのチャンネルは正しく設定されていますか。パソコンをたちあげたときや、D-VHS ビデオの記録設定画面を閉じたとき、D-VHS ビデオのチャンネルは［L1］表示に戻ります。

D-VHS ビデオに記録できない。また、記録しようとすると記録失敗のメッセージが出る。

- D-VHS ビデオ本体の設定を IEEE1394 にしていることを確認してください。IEEE1394 にして、映像出力元のパソコン（［d1 その他］や［d2 その他］など）を選択してください。D-VHS ビデオ側での機器選択が正しいかを、［D-VHS 出力］を選んで設定画面を表示させるたびに確認してから、記録を開始してください。（選択方法がわからない場合は、一度 MotionDV STUDIO を終了し、D-VHS ビデオ以外の IEEE1394 機器をパソコンから外し、D-VHS ビデオとパソコンだけが接続されている状態にしてください。D-VHS ビデオを IEEE1394 にしておくと、再度 MotionDV STUDIO を起動して［D-VHS 出力］を選んだときに自動的に出力元のパソコンが選択されます）
- D-VHS ビデオに記録できる MPEG2 ファイルは、本バージョンの MotionDV STUDIO で作成したものだけです。編集トラックに追加したり、直接 D-VHS ビデオに記録するときには、MotionDV STUDIO で MPEG2 形式のファイルとして出力してから D-VHS ビデオに記録してください。
- 再生時間が 15 秒未満の MPEG2 ファイルは D-VHS ビデオに記録できません。

D-VHS ビデオへ映像を記録したり、リハーサルしている場合に、**D-VHS** ビデオに接続したテレビに映像が映らない。

- 記録中やリハーサル中の映像が D-VHS ビデオを接続したテレビ画面に表示されるのは、MPEG2 エンコーダーを内蔵している D-VHS ビデオだけです。
  当社製 D-VHS ビデオ /NV-DH1、NV-DHE10、NV-DH2、NV-DHE20 があります。（2003 年 6 月現在）

DVD ビデオレコーダーへの出力がうまくいかない

MotionDV STUDIO で DVD ビデオレコーダーへの出力をする際によく起こるトラブルの解決方法を説明しています。

パソコンが、接続した **DVD** ビデオレコーダーを認識しない。

- パソコンと DVD ビデオレコーダーを接続するときに、正しい状態で接続されていますか。接続時にはパソコンを終了させて、DVD ビデオコーダーの電源を入れておいてください。
- DVD ビデオレコーダーを 2 台以上接続している場合、MotionDV STUDIO で認識するのは 1 台のみです。
- DVD ビデオレコーダーのチャンネルが正しく設定されていることを確認してください。DVD ビデオレコーダーのチャンネルは［DV］表示にしておいてください。

DVD ビデオレコーダーに記録できない。また、記録しようとすると記録失敗のメッセージが出る。

- DVD に記録されているプログラム数が最大（99 個）になっているときには記録できません。または、DVD に記録できる残量が無い場合も記録できません。
- テープクリップを含む編集トラックまたは編集情報で記録しようとしているときに DV 機器が接続されていない場合、記録はできません。
- テープクリップを含む編集トラックまたは編集情報で記録しようとしているときにテープの異常など DV 機器側が正常でない場合、記録はできません。

その他

パソコンのファイル形式など、一般的な疑問に対しての説明をしています。

スナップショットした静止画クリップを年賀状ソフトなどに利用することができますか？

- スナップショットした静止画クリップは、ビットマップファイル（拡張子は .bmp）、JPEG ファイル（拡張子は .jpg）、TIFF ファイル（拡張子は .tif）、PNG ファイル（拡張子は .png）としてパソコン上に保存されます。これらのファイルは、パソコン上で一般的に扱われる画像ファイル形式です。多くの画像ソフトで利用することができます。

編集情報やテープ情報のファイルがうまく使えない。

- テープライブラリーのテープ情報ファイルを使うときは、デジタルビデオ機器に同じテープを入れておく必要があります。
- 編集情報ファイルを開くときは、その編集で使うクリップがハードディスクに保存されている必要があります。ただし、編集情報を保存したあとに使っているクリップを移動させるとその編集情報は開けなくなります。

クリップが多すぎて区別がつかず、わかりにくい。

- テーマ別のフォルダーを新規作成して、その中にクリップを保存すると便利です。その場合、編集作業をする前にクリップを移動させてください。編集したあとにクリップを移動させると、編集情報ファイルが開けなくなることがあります。

ライブラリー上のファイル（クリップ）の、削除や名前の変更ができない。

- ライブラリー上のファイルを他のソフトで使用しているときに「削除」や「名前の変更」をすることはできません。
- 他のソフトが使用していないときにファイルの「削除」や「名前の変更」ができない場合は、MotionDV STUDIO を一度終了して再度起動させてください。

MotionDV STUDIO を起動していると、パソコンの省エネ機能が働かない。

- MotionDV STUDIO を起動していると、パソコンの省エネ機能やスクリーンセーバーが働かない場合があります。MotionDV STUDIOを起動する前には省エネ機能やスクリーンセーバーを切っておいてください。また、編集後は MotionDV STUDIO を終了し、DV ケーブルを外しておいてください。

プレビュー画面に日付表示が出ない。

- プレビュー画面には接続しているデジタルビデオ機器のモニターに表示されている日付やタイムコードなどの情報は表示されません。

MotionDV STUDIO が使用できない。

- 管理者権限ユーザー以外は使用することはできません。

使用したい操作モードのアイコンが **TOOL BOX** に表示されていない。

- ［かんたんモード］でご使用の場合は、基本的な機能の操作モードアイコンだけが表示されます。
すべての操作モードを使用したい場合は、［標準モード］に切り換えてお使いください。

編集後、映像と音声にずれが生じる。

- MotionDV STUDIO では編集時に映像と音声の同期がずれないように補正を行っていますが、MPEG2 ファイルの画像編集の場合シーンによっては完全に補正できずに同期がずれることがあります。

用語解説

50 音順

あ行

インデックス

- MotionDV STUDIO では入力テープの映像の内容に目印（インデックス）を付けることができます。
- 再生しているテープの内容を見ながら任意の位置にインデックスをつけたり、自動的にシーンの変わり目を検出して、インデックスを付けると、インデックスをもとに取り込んだり、テープ編集をすることができます。
- インデックス情報は MotionDV STUDIO 側の情報として管理されますので、実際のテープ映像には、何も付きません。

エフェクト

- ノンリニア編集ならではのデジタル処理による多彩なエフェクト（特殊効果）を使うことができます。クリップは、レンダリングと呼ばれる、パソコン上での演算処理（デジタル処理）をすることにより、特殊効果の入った映像になります。

か行

キャリブレーション

- MotionDV STUDIO からデジタルビデオ機器を制御するときに微妙なタイミングのずれなどがあると、録画したテープに未録画部分ができたり、映像の一部が切れてしまいます。そこで、接続した機器でテスト録画し、最適な録画タイミングを判断します。その結果が登録されると、タイミングのずれがなくなり、最適な映像が録画できます。このようにデジタルビデオ機器の特性を補正し、最適な録画ができるように調整することをキャリブレーションといいます。

クリップ

- 本書では MotionDV STUDIO の編集用素材として使用する素材をクリップと呼んでいます。動画素材をビデオクリップ、静止画素材を静止画クリップ、テープ素材をテープクリップとして説明しています。

た行

タイムコード

- 時、分、秒、フレーム（1 秒は約 30 フレーム）で表される時間データのことです。00:00:00:00 を起点として表示され、リセットできないため、映像の絶対位置を知ることができます。

な行

ノンリニア編集

- 映像や音声のデータを、パソコンのハードディスクに取り込み（記録）、パソコン上で編集を行う方法です。ビデオテープのような線型（リニア）の記録媒体を使用しないことからノンリニア編集と呼ばれています。

は行

ハイブリッド編集

- ノンリニア編集とテープ（リニア）編集を組み合わせた編集方法です。

バッチキャプチャー

- テープ映像のシーンを複数指定し、一度に取り込む（キャプチャー）ことです。マークイン / アウトを付けて取り込む場合やインデックスをもとに取り込む場合などにバッチキャプチャーをすることができます。

フレーム

- ビデオの映像は、映画のフィルムと同じように静止画を連続して表示させ、動きを作っています。NTSC 方式（日本、米国、カナダなどで採用されている放送方式）の場合、静止画は 1 秒間に約 30 枚表示され、その静止画 1 枚のことをフレームといいます。（2 フィールドが 1 フレームになります）
- NTSC 方式のタイムコード 1 フレームは約 1/30 秒になります。

ら行

リニア編集（テープ編集）

- デジタルビデオテープなどの線型（リニア）の媒体に録画して編集を行います。編集したいシーンをさがすのに早送り、頭出し、再生などをするため時間がかかりますが、ハードディスクの容量を気にせず長時間の編集をすることができます。

レンダリング

- クリップにタイトルやフェード、オーディオミックスなど特殊効果を使って、一つのビデオクリップにまとめる処理のことをレンダリングといいます。

アルファベット順

ASF ファイル
- Advanced Streaming Format の略で、Windows Media ファイルの 1 つです。サイズが小さいので、電話回線などを使ってデータを送受信するのに適しています。

AVI ファイル
- Audio Video Interleave の略で、映像と音声のデータを同期させたデータ形式です。拡張子は［.AVI］です。
- MotionDV STUDIO では、DV 圧縮の AVI を編集することができます。

BMP ファイル
- Bitmap の略で、Windows では最も一般的に使われている画像形式です。
- 拡張子は［.BMP］です。

DV 端子
- デジタルビデオ機器の映像・音声データの入力 / 出力を行うための端子です。
- 映像・音声データは DV ケーブルを通じてデジタル信号のまま送られるため、映像をコピーしても画質や音質の劣化が少なくなります。また、機器の状態により信号の流れる方向を自動的に判断するので、従来の映像・音声コードのように入力 / 出力に応じて端子をつなぎ変える必要はありません。
- MotionDV STUDIO は DV 端子どうしを DV ケーブルで接続して編集していますので、高品質な編集が行えます。
- DV 端子は IEEE1394 端子とも呼ばれています。

JPEG ファイル
- カラー画像のうち、人間の目ではわからない程度に色データを間引いたデータ圧縮方式です。JPEG というのは、Joint Photographic Expert Group の略で、この圧縮形式を開発した委員会の名称からきています。

mtv ファイル
- 拡張子は［.mtv］で、MPEG2 ファイルと対になって扱われます
- MotionDV STUDIO は MotionDV STUDIO が作成した mtv ファイル付の MPEG2 ファイルをサポートしています。mtv ファイルそのものは MotionDV STUDIO 上で表示されることはありません。

MBM ファイル
- Panasonic 製の BGM ジェネレーター（SY-VM1）を利用して作成したサンプルオーディオです。

MPEG（**MPG**）ファイル
- カラー動画像の圧縮方式です。
- MPEG1,MPEG2,MPEG4 形式のファイルを MotionDV STUDIO のライブラリーに表示することができます。
- MotionDV STUDIO では、MPEG2 圧縮の MPEG ファイルを編集することができます。
- MPEG 形式の動画像は AVI 形式に比べて、画像ファイルのサイズが小さくなります。

PNG ファイル
- 静止画の形式で , 拡張子は［.PNG］です。
- PNG は Portable Network Graphics の略です。
- MotionDV STUDIO では、非圧縮の PNG ファイルを扱うことができます。

SEQ ファイル
- MotionDV STUDIO の編集情報を保存したファイルで、拡張子は［.SEQ］です。保存した編集情報をいつでも呼び出すことができます。

TAP ファイル
- DV 機器のテープ情報を保存した、MotionDV STUDIO のファイルで、拡張子は［.TAP］です。インデックスなどの情報をテープ情報として保存しておくと、同じテープを使うときにいつでもその情報を使うことができます。

TTE ファイル
- タイトルエディターのタイトル情報を保存したファイルで、拡張子は［.TTE］です。TTE ファイルとしてファイルを保存しておくと、そのファイルを使って、タイトルの修正をおこなうことができます。

TIFF ファイル
- 静止画の形式で , 拡張子は［.TIF］です。
- TIFF は Tagged Image File Format の略です。

WAV（または **WAVE**）ファイル
- PCM 音声の Windows の標準ファイル形式です。拡張子は［.WAV］です。

INDEX

索引

iNDEX

お願いとヒント

お願いとヒント

• MotionDV STUDIO 使用中、パソコンが不安定になったり、ソフトウェアが終了することがあります。パソコンの使用状態にもよりますが、画像編集は非常に大きなパソコンのパワーを必要としますので、パソコンが不安定な状態になることがあります。編集したデータなどはこまめに保存しておくことをおすすめします。

• フレーム動画モードの映像を取り込んで、ビデオエフェクト、トランジションエフェクトをかけてレンダリングすると、映像はフィールド画になり、フィールドの映像と同じ画質になります。

• 録画中、録画機側のモニター映像（液晶モニターやテレビなどの映像）の画面下部がゆがんだり、上下にゆれることがありますが、故障ではありません。記録される映像には影響ありません。

• ブランクサーチ機能のないデジタルビデオ機器（NV-DV10000 や NV-DM1）を録画機として使用するときは、［ブランク区間の先頭から録画］を選んで録画はできません。

• 自動インデックスが止まった場合は、そのまま再度［自動インデックス］ボタンをクリックしてください。自動インデックスが再開します。

• カセット装着後は 10 秒ほどたってから操作を行ってください。

• ノートパソコンをお使いの場合はAC電源をお使いください。バッテリーを使用するとパソコンの設定によって、CPU 性能を制限していることがあります。（その場合こま落ちが発生しやすくなります）

• MotionDV STUDIO を使用するときは、ノートパソコン、デジタルビデオ機器共に AC アダプターをお使いください。バッテリーを使用すると、記録やキャリブレーション、キャプチャーが正しく行えないことがあります。

• 入力テープの操作中、停止ボタン［ ■ ］をクリックすると、タイムコードが 00:00:00:00 になることがあります。（再生などの操作をするともとに戻ります）

• MotionDV STUDIO 使用中はデジタルビデオ機器の電源を切らないでください。電源を切ると、MotionDV STUDIO が操作できなくなることがあります。

• デジタルビデオ機器は 3 台以上接続しないでください。3 台以上の接続についてはサポートの対象外とさせていただきます。

• WAV ファイルの形式によっては（例：4 bit の WAV ファイル）、オーディオミックス編集には使えない場合があります。

• ハイブリッド編集時にビデオ/静止画クリップとテープクリップのつなぎ目で映像や音声がとぎれることがあります。

• 未記録部分のないテープに録画するときに［ブランク区間の先頭から録画］を選ぶと、テープの終端部に約30秒間の映像が記録されることがあります。未記録部分のないテープに記録するときは［ブランク区間の先頭から録画］を選ばないでください。

• 入力テープに SP モードで記録した映像と LP モードで記録した映像が混在している場合、モードの切り換わり部分での取り込みが正常にできないことがあります。

• キャリブレーション実行中にデジタルビデオ機器を操作しないでください。

• テープの始端や終端付近ではうまく記録できないことがあります。

• オーディオミックスのプレビューで音声がとぎれることがありますが、異常ではありません。

• 静止画を表示させると左右に黒い帯が出ますが、テレビ画面には表示されません。

• MotionDV STUDIO 使用中にタスクバーなど、MotionDV STUDIO ウィンドウ以外を操作すると、プレビュー画像が表示されなくなることがあります。

- デュアル表示モードのあるパソコンにおいて外部モニターを使用された際、プレビュー画面を表示できない場合があります。

- MotionDV STUDIO をインストールしたことで、パソコン本体、パソコン周辺機器、他のアプリケーションの動作に不具合が起こることがあります。この場合、MotionDV STUDIO をアンインストールしてください。
特に他のビデオ編集ソフトがインストールされている場合、そちらをアンインストールしてから本ソフトをインストールすることをお勧めします。

- 他のアプリケーションソフトで作った動画ファイルの MotionDV STUDIO でのご使用についてはサポートの対象外とさせていただきます。

- 映像を編集中、プレビュー画面の映像が乱れることがありますが、故障ではありません。テープなどには正常に記録されます。

- テープクリップを編集トラックにドラッグ・アンド・ドロップで配置する場合、2 秒以下の映像は配置できません。

- お使いのマウスによっては、MotionDV STUDIO でホイール機能を使えない場合があります。

- 記録内容を D-VHS ビデオで再生した場合、早送り再生や巻戻し再生画面が表示されるまで時間のかかることがあります。また、再生時間の短いファイルを記録した場合、早送り再生や巻戻し再生が正常に行えないことがあります。

- D-VHSビデオを2台以上接続しないでください。MotionDV STUDIOで認識できるのは1台だけです。

- DVD ビデオレコーダーを 2 台以上接続しないでください。MotionDV STUDIO で認識できるのは 1 台だけです。

- D-VHS ビデオでプログラムナビを［入］にしている場合、カセットを入れたあとに MotionDV STUDIO側でD-VHSビデオを操作できるようになるまで少し時間がかかります。

- D-VHS ビデオに編集映像を記録する場合、使用するパソコンが選択されているかをD-VHSビデオ側で確認してから記録を開始してください。誤った機器を選択して記録やリハーサルをしようとすると、エラーメッセージが出ますので、機器を再度選択して記録を開始してください。

- D-VHS ビデオに記録する場合、本バージョンの MotionDV STUDIOで作成したMPEG2ファイル以外は動作保証の対象外とさせていただきます。また、MotionDV STUDIO Ver.2.0 または Ver.3.0 で作成した MPEG ファイルは正常に記録できませんので本ソフトで再度 MPEG2 ファイルを作成してから記録してください。

- D-VHS ビデオへ出力中に音声表示が［左］になり、記録中に［左右］になりますが、出力には問題はありません。出力映像は正常に記録されています。

- 複数のファイルを一度に D-VHS ビデオや DVD ビデオレコーダーに出力することはできません。

- MotionDV STUDIO のキャリブレーション機能は D-VHS ビデオや DVD ビデオレコーダーには使用できません。

- D-VHS ビデオや DVD ビデオレコーダーで番組を予約している場合は、予約を解除してから出力映像を記録してください。

- D-VHS LS2 対応の機種の場合、D-VHS STD 方式の約 2 倍の時間を録画できます。(高圧縮で出力された MPEG2 ファイルを記録する場合のみです)

- MotionDV STUDIOを起動させたままログオフすると不具合が起こる場合があります。Windows をログオフする前に、必ず MotionDV STUDIO を終了させてください。

- デジタルビデオ機器を接続しているのに、映像や音声が出ない場合は、MotionDV STUDIO を一度終了させ、DV ケーブルをさし直したあと、再度 MotionDV STUDIO を起動してください。

- 著作権情報が設定されているファイルは、権利者の許可なしに変換することはできません。

その他

- Microsoft® 、Windows® 、Windows Media® 、DirectX®、DirectDraw® 、DirectSound® および Outlook® は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- Intel® 、Pentium® は、Intel Corporation の登録商標です。
- Adobe® および Acrobat® は、Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の商標です。
- AMD Athlon™ は、Advanced Micro Devices, Inc.（AMD）の商標または登録商標です。
- その他、記載されている各種名称、会社名、商品名などは各社の商標または登録商標です。
- 本書の内容に関しましては、事前に予告なしに変更することがあります。
- 本書の内容の一部またはすべてを無断転載することを禁止します。
- 本書のサンプルで使われている氏名、住所などは架空のものです。